

 **NAGASE**  
長瀬産業株式会社

大阪本社 : 〒550-8668  
大阪市西区新町1-1-17  
TEL 06-6535-2114

東京本社 : 〒103-8355  
東京都中央区日本橋小舟町5-1  
TEL 03-3665-3021

名古屋支店 : 〒460-8560  
名古屋市中区丸の内3-14-18  
TEL 052-963-5615



<https://www.nagase.co.jp>

Printed in Japan





# Bringing it all together



## 編集方針

NAGASEグループは、「Bringing it all together」をスローガンとして掲げ、社員の一人ひとりが、日々の活動で「見つけ、育み、広げる」を体現することにより、「人々が快適に暮らせる安心・安全で温もりある社会」の実現に貢献するという強い意志を持って事業活動を行っています。

この取り組みをステークホルダーの皆様にご理解いただくために、NAGASEグループの概要や課題、中長期的な戦略を、財務情報・非財務情報を交え、一体的に伝えるレポートとして、本統合報告書を発行しています。

今後も、NAGASEグループの中長期の企業価値向上活動を分かりやすく示すツールへと進化させていく所存です。

なお、編集に際しては、国際統合報告評議会(IIRC)が2013年12月に発表した「国際統合報告フレームワークver1.0」などを参照しています。

# Contents

統合報告書 2018

## NAGASEグループについて

- 2 数字で見るNAGASE
- 4 経営理念とNAGASEビジョン
- 6 NAGASEグループの事業領域
- 8 変化と挑戦 NAGASEグループのあゆみ
- 10 企業価値創造プロセス
- 12 NAGASEが提供するプレミアム・プロダクツ
- 14 13年間の主要財務データ
- 16 アニュアルトピックス

## NAGASEグループを導くリーダーシップ

- 18 トップメッセージ
- 24 Our Board
- 26 コーポレート・ガバナンス

## 事業別概況

- 32 At a Glance
- 34 機能素材セグメント
- 36 加工材料セグメント
- 38 電子セグメント
- 40 自動車・エネルギーセグメント
- 42 生活関連セグメント

## NAGASEグループが有する独自機能

- 44 グローバルネットワーク
- 46 地域別概況
- 50 主な製造・加工機能
- 54 主な研究開発機能

## 持続的成長に欠かせない取り組み

- 57 人権・労働慣行
- 60 環境
- 62 公正な事業慣行
- 64 お客様の安心・安全のために
- 65 コミュニティへの参画および発展

## 財務・会社情報

- 66 事業展開を支える財務戦略
- 68 経営成績、財務状態およびキャッシュ・フローの分析
- 70 比較連結財務諸表
- 72 主なグループ会社・事業所一覧
- 76 会社情報
- 77 株式情報

### 見通しに関する注意事項

本統合報告書に記載されているNAGASEグループの収益計画・戦略や確信などのうち、歴史的事実でないものは将来に関する見通しであり、リスクや不確実な要素を含んでいます。実際の業績等は、これらの要素の変動により、見込みとは大きく異なる可能性があります。従って、読者の皆様におかれましては、これらの将来予測に関する記述について全面的に依拠することは控えるようお願いします。なお、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。

NAGASEにかかわる数字を集め、  
様々な角度から  
NAGASEを紹介します。



## 創業200周年 2032年

創業200周年に向け、  
NAGASEブランドを確立します。

P.4-5



## 連結営業利益 300億円以上

中期経営計画「ACE-2020」を  
2016年にスタートさせました。  
2021年3月期までに  
連結営業利益300億円以上を  
早期に常態化します。



## 連結売上高

7,839億円

2018年3月期の連結売上高は7,839億円。  
発行体格付「A」の  
強固な財務体質です。



## 製造会社数 (2018年3月31日現在)

14ヶ国48社

研究・製造機能で  
顧客ニーズを  
形にしていきます。

P.50-56



## 海外売上高比率

49.6%

世界26ヶ国・地域101社のネットワークで、  
連結売上高における  
海外比率は49.6%です。

(2018年3月期)

P.44-49



## 連結従業員数 (2018年3月31日現在)

6,312名

多種多様な人財が  
世界で活躍しています。



## NAGASEグループの理念体系



NAGASEグループは、持続可能な成長および企業価値向上に取り組んでいます。

NAGASE経営理念、NAGASEビジョン、

そして社員の行動指針であるNAGASEウェイをグループ共通の価値観と定義し、  
グローバルブランディングプロジェクトを展開しています。

事業領域・地域・エリア・人々・商品・技術・サービスなどあらゆるものを

「ひとつにまとめあげる」ことで新たなビジネスを生み出していくという

想いを込めたスローガン“Bringing it all together”を胸に、

社員の一人ひとりが、日々の活動で「見つけ、育み、広げる」を体現することにより、  
「人々が快適に暮らせる安心・安全で温もりある社会」の実現に貢献していきます。

## NAGASE 経営理念

社会の構成員たることを自覚し、誠実に正道を歩む活動により、  
社会が求める製品とサービスを提供し、  
会社の発展を通じて、社員の福祉の向上と社会への貢献に努める。

## NAGASEビジョン

社員の一人ひとりが、日々の活動で「見つけ、育み、広げる」を体現することにより、  
「人々が快適に暮らせる安心・安全で温もりある社会」の実現に貢献する。

### 強み/特長

- 誠実に正道を歩んできた200年近くの歴史（誠実正道）
- パートナーとともにビジネスを創造する力（協働基盤）
- 技術に対する深い理解、技術の目利き力（技術発想）
- 半歩先を見て能動的に提案する力（半歩先見）

### 提供価値

- ビジネスの種を「見つけ、育み、広げる」
- 1. 見つけ：誰も気づいていない機会を発見する
- 2. 育み：新たな価値を生み出すビジネスへと成長させる
- 3. 広げる：様々な分野・地域へビジネスを展開する

### 実現したい社会

- 人々が快適に暮らせる安心・安全で温もりある社会

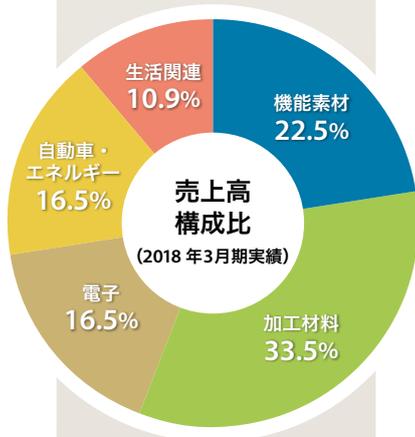
## NAGASE ウェイ

- 常に顧客指向であれ
- 常に独創的な挑戦者であれ
- 常にグループ力の活用を考えよ
- 常にグローバルに考えローカルに行動せよ
- 常にシステムティックに考えスピーディーに行動せよ

# NAGASEグループの事業領域

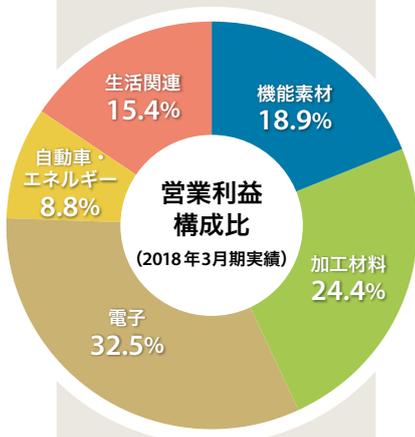
## 【連結売上高】

7,839  
億円



## 【連結営業利益】

241  
億円



## 機能素材



### 機能化学品事業

#### 〈事業概要〉

グループ内の製造・研究開発機能を活かし、汎用石油化学製品から高付加価値製品までの幅広い製品を、様々なサービスとともにグローバル市場に提供しています。現在、コーティング・インキ材料事業およびウレタン材料事業の2事業で構成され、各業界をリードする存在として市場から認知されています。

#### 〈主な製品・サービス〉

樹脂原料、樹脂、顔料、溶剤、塗料・インキ用添加剤、ウレタン原料、難燃剤、離型剤

#### 〈顧客業界〉

塗料・インキ業界、ウレタン業界

### スペシャリティケミカル事業

#### 〈事業概要〉

2,000社以上の取引先と長年にわたりビジネスを構築し、その業界は樹脂原料・添加剤、加工油剤、メッキ薬、水処理薬剤、レジスト、フッ素ケミカル、シリコン、3D印刷関連など多岐にわたり、取扱商品も10,000品目を超えています。また、取引先の要素技術に着目し、新領域に展開しています。

#### 〈主な製品・サービス〉

石油化学製品、樹脂原料・添加剤、紙薬品、加工油剤原料、界面活性剤および原料、フッ素ケミカル、シリコン原料、メッキ薬原料、エレクトロニクスケミカル、ポリマーフィルター

#### 〈顧客業界〉

石油化学業界、樹脂業界、電子材料業界、半導体業界、油剤業界、界面活性剤業界、有機合成業界など



## 加工材料



### カラー&プロセッシング事業

#### 〈事業概要〉

創業の染料ビジネスをルーツとしており「情報印刷」「機能色材」「機能性フィルム」「ポリマープロダクト」の4部から構成されています。広範囲な業界をカバーするために、事業と関係会社を横断する「グループ開発チーム」を発足させ、横串を通す開発活動を進め、トレーディングを核に国内外での新たなビジネスチャンス発掘に努めています。

#### 〈主な製品・サービス〉

顔料・添加剤、自動車補修塗料、デジタル印刷材料、染料、繊維加工剤、コポリエステル樹脂、機能性シート・フィルム、有機透明導電材料

#### 〈顧客業界〉

製紙・感熱紙業界、コスメ・トイレタリー業界、OA電子機器業界、シート・フィルム業界、印刷・印刷材料業界、インキ・色素業界、繊維加工業界、自動車塗料業界

### ポリマーグローバルアカウント事業

#### 〈事業概要〉

国内外においてOA、電機・電子、家電業界などへ合成樹脂、包装資材、機械・設備などを提供しています。最大の強みは、アジア・パシフィックでのネットワークと経験・知識が豊富なナショナルスタッフを各拠点に多く持っていることです。グループ企業と戦略的な協業を推進し、新たな合成樹脂事業の創出と事業拡大に注力しています。

#### 〈主な製品・サービス〉

機能性樹脂、汎用樹脂、副資材、包装資材、合成樹脂関連製品・装置・金型

#### 〈顧客業界〉

OA業界、電機・電子業界、家電業界、住設・建材業界、包装材業界



## 電子



### 電子化学品事業

#### 〈事業概要〉

エレクトロニクス業界向けに、変性エポキシ樹脂、フトリソ材料、薬液管理装置、半導体製造装置等独自性の高い製品・サービスを提供しています。国内および海外の業界ニーズに対応すべく、グループ製造会社を中心とした高付加価値製品に注力し、商社機能とグループ製造機能を融合させた高収益事業を目指しています。

#### 〈主な製品・サービス〉

変性エポキシ樹脂および関連製品、液晶ディスプレイ・半導体用フトリソ材料、シロキサン材料、液晶ディスプレイ用薬液管理装置、半導体製造装置、ウェハーハンピングサービス

#### 〈顧客業界〉

電子部品業界、半導体業界、重電業界、ディスプレイ業界、自動車・航空機業界、環境エネルギー業界

### 電子資材事業

#### 〈事業概要〉

スマートフォン・ウェアラブル端末のブランドオーナーおよび表示デバイス業界・シリコンウェハー業界向けに材料や部品を販売しています。メーカー機能としては液晶ガラス加工、難燃絶縁／熱伝導シート、ポリイミドフィルムの事業を行っています。

#### 〈主な製品・サービス〉

フレキシブルディスプレイ材料、有機EL材料、シリコンウェハー加工材料、液晶ガラス加工、タッチパネル部材、光学フィルム、電子ペーパー材料、筐体用部材、難燃絶縁／熱伝導シート、レンズ、LEDチップ、精密研磨材料

#### 〈顧客業界〉

スマートフォン業界、ディスプレイ業界、シリコンウェハー業界、TV業界、LED照明業界、電子部品業界



## 自動車・エネルギー



### 自動車材料事業

#### 〈事業概要〉

グローバル展開がますます加速する自動車業界において、強みであるグローバルネットワークを活かし、中国・ASEAN・北米を中心に原材料・製品の販売を拡大するとともに、次世代クルマ社会が求める安全・安心・快適・環境のニーズに応えるべくグループ製造機能の拡充を推進し、新たな自動車社会への貢献と事業拡大を目指しています。

#### 〈主な製品・サービス〉

自動車内外装・機能部品向け汎用樹脂および機能性樹脂、自動車用内外装および機能部品、高機能素材(加飾・軽量化)、装置、金型、カーエレクトロニクス関連高機能素材および部品

#### 〈顧客業界〉

自動車業界、自動車部品業界

### エネルギー事業

#### 〈事業概要〉

リチウムイオンバッテリーシステムと太陽光発電モジュール、およびそれらを連動させたEMS(エネルギー・マネジメント・システム)を取り扱っています。各種インフラ市場において川上から川下までの情報を駆使し循環させることで時代を先取るマーケット戦略を目指しています。さらに上記インフラを安全かつ安定的にコントロールするために、LED光無線通信機器の開発、販売を行っています。

#### 〈主な製品・サービス〉

LiB(リチウムイオンバッテリー)、PV(太陽光発電)モジュール、LiBシステム、PV用部材および応用製品であるエネルギー・マネジメント・システム、独立電源システム、LED光通信機器、無線通信モジュール

#### 〈顧客業界〉

電池業界、太陽光発電業界、自動車・電装業界、ビル建設業界、流通業界、照明業界、商業施設、公共施設など



## 生活関連



### ライフ&ヘルスケア製品事業

#### 〈事業概要〉

生活関連セグメントの一員として、食への貢献、美と健康への貢献を念頭に人が健康で豊かに生活するために、食品素材、医薬・医療素材、香粧品素材、ハウスホールド材料、農業・水産・畜産業関連分野で、グループの総合力(商社機能、製造・加工機能、研究開発機能)を活かした付加価値の高い商品の開発にグローバルに取り組んでいます。

#### 〈主な製品・サービス〉

機能性食品素材(機能性糖質・酵素剤・健康食品素材・食品添加物)、香粧品およびハウスホールド製品材料(美白剤・保湿剤・紫外線吸収剤、界面活性剤・制菌剤、キレート)、医薬品(原薬、治験原薬、中間体、基礎原料、製剤品、添加剤)、検査薬、医療材料および機器、農業・水産・畜産関連材料(農業原料および資材、飼料および飼料添加剤)

#### 〈顧客業界〉

食品業界、医薬・医療・検査薬業界、香粧品業界、ハウスホールド業界、農産・水産・畜産業界

### ビューティケア製品事業

経営の効率化を目的に、ビューティケア製品事業は2017年4月1日から子会社である(株)ナガセビューティケアへ機能を移管しました。

◎詳細は(株)ナガセビューティケアWebサイトをご覧ください。

<https://nbc.jp/>

# 変化と挑戦

長瀬産業は、1832年に京都で創業した化学系専門商社です。  
海外の優良な製品を日本国内で独占的に輸入販売する総代理店権を有し、  
そこで培った技術力・情報力・海外ネットワークを活かし、製造・加工、  
研究開発機能の強化を図りながら、事業構造の転換を果たしてきました。  
創業200年となる2032年に向け、  
「持続的成長をするNAGASE」の実現のために  
さらなる挑戦を続けます。

アジアを中心に  
海外展開加速

## 海外有力メーカーとの取り組み

1900年代より  
イーストマンコダック社や  
ゼネラルエレクトリック社と  
代理店契約



## 広がる海外ネットワーク

国内外に  
支店や現地法人を置き、  
事業の基盤を作る



- 1832 京都西陣において創業(屋号<sup>うるこがたや</sup>鱗形屋)  
染料・澱粉・ふのり類を販売
- 1898 本店を大阪に移転
- 1900 スイス・パーゼル化学工業社(チバ社)と取引開始
- 1901 リオン出張所開設
- 1911 東京支店の開設
- 1913 ロンドン、ニューヨークに出張所開設
- 1917 株式会社長瀬商店の設立(個人商店から法人へ)
- 1923 米国・イーストマンコダック社と取引開始
- 1930 米国・ユニオンカーバイド社と販売代理店契約締結
- 1938 帝国化学産業株式会社を設立
- 1964 株式を公開(大阪証券取引所市場第二部に上場)
- 1968 米国・ゼネラルエレクトリック社と代理店契約締結



1917年12月、会社設立時の大阪本店(北区堂島)



上：1971年当時の長瀬チバ(株)  
左：竣工した東京支社新社屋  
(1969年10月)

- 1970 スイス・チバガイギー社と合弁会社 長瀬チバ株式会社  
(現・ナガセケムテックス株式会社)を設立  
東京・大阪両証券取引所市場第一部銘柄に指定
- 1971 長瀬(香港)有限公司および  
Nagase America Corporationを設立  
米国・ゼネラルエレクトリック社と  
合弁会社エンジニアリングプラスチック株式会社を設立
- 1972 ナガセ医薬品株式会社を設立
- 1975 Nagase Singapore (Pte) Ltd.を設立
- 1977 ナガセ生化学工業株式会社を設立
- 1980 ナガセ化成工業株式会社を設立  
Nagase (Europa) GmbH(ドイツ)を設立
- 1981 Nagase (Malaysia) Sdn. Bhd.を設立
- 1985 ソウル支店を開設
- 1988 台湾長瀬股份有限公司を設立
- 1989 Nagase (Thailand) Co., Ltd.を設立  
財団法人 長瀬科学技術振興財団を設立  
東京支社を東京本社とし、大阪・東京二本社制を採用

創業  
200周年へ

製造拠点・  
研究施設展開

## 製造・加工、研究開発機能の強化

化学品の専門商社としての機能のほかに、  
製造・加工、研究開発機能の強化を図る



- 1990 カラーフォーマー生産の合併会社 Sofix Corporation (米国)を設立  
ナガセR&Dセンターを開設  
合併会社 長華塑膠股份有限公司(台湾)を設立
- 1997 Nagase Philippines Corporationを設立  
上海長瀬貿易有限公司を設立  
Nagase Engineering Service Korea Co., Ltd.を設立
- 1998 PT. Nagase Impor-Ekspor Indonesiaを設立  
上海華長貿易有限公司を設立
- 2000 長瀬チバをナガセケムテックス株式会社へ改称
- 2001 ナガセケムテックス、ナガセ化成工業、帝国化学産業、ナガセ生化学工業を合併し、新生「ナガセケムテックス」が誕生  
ソウル支店を廃止し、Nagase Korea Corporationを設立
- 2002 広州長瀬貿易有限公司を設立  
長瀬精細化工(無錫)有限公司  
(現・長瀬電子材料(無錫)有限公司)を設立
- 2004 長華国際貿易(深圳)有限公司を設立
- 2005 東拓工業(蘇州)有限公司を設立  
長瀬電子科技股份有限公司を設立  
Nagase Philippines International Services Corporationを設立
- 2006 半導体製造装置メーカー  
Pac Tech-Packaging Technologies GmbHの株式取得  
Nagase India Private Ltd.を設立
- 2007 ナガセアプリケーションワークショップを開設
- 2008 堺営業所を開設  
Nagase Vietnam Co., Ltd.を設立
- 2009 ドバイ支店を開設
- 2012 変性エポキシ樹脂メーカー  
Engineered Materials Systems, Inc. (米国)の株式を取得  
株式会社林原(本社：岡山市)の株式を取得  
ブラジル現地法人設立
- 2014 ナガセグローバル人財開発センター竣工

## 商社の枠を超えて

商社機能にとどまらない  
“ビジネスデザイナー”  
として  
新たな価値を提供



### 2015 長期経営方針の策定

### 2016 中期経営計画 「ACE-2020」スタート

- 2017 NVC (New Value Creation) 室設置  
INKRON社(フィンランド)を子会社化  
長瀬ビジネスエキスパート株式会社が発足  
大泰化工株式会社の株式取得  
Fitz Chem LLC (米国)の株式取得

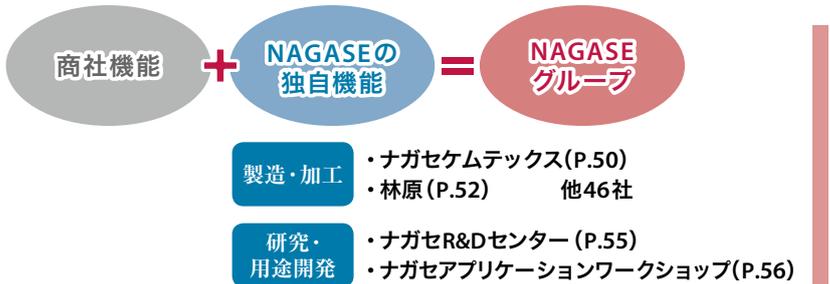
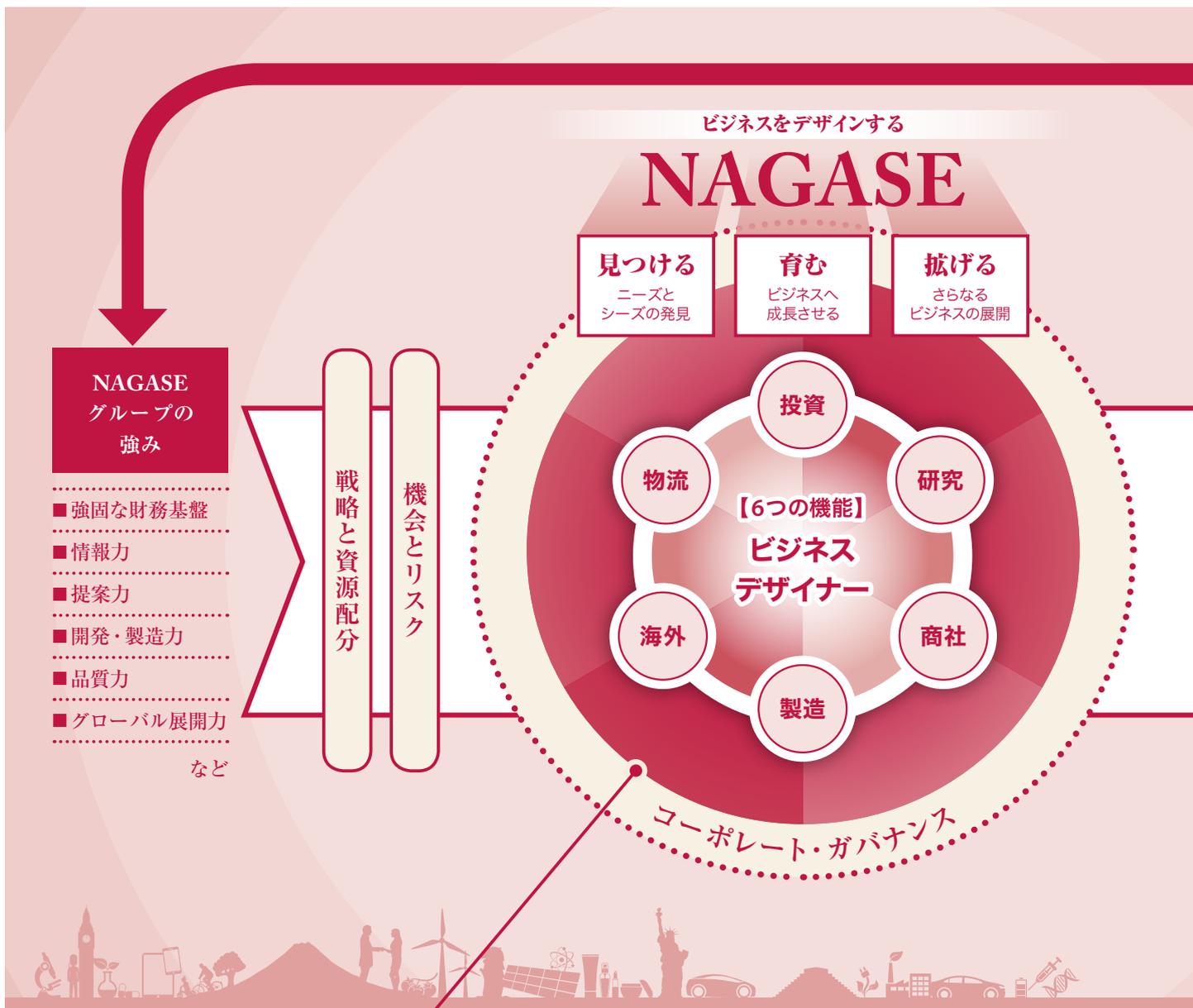
## 2032 創業200周年

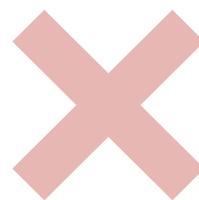
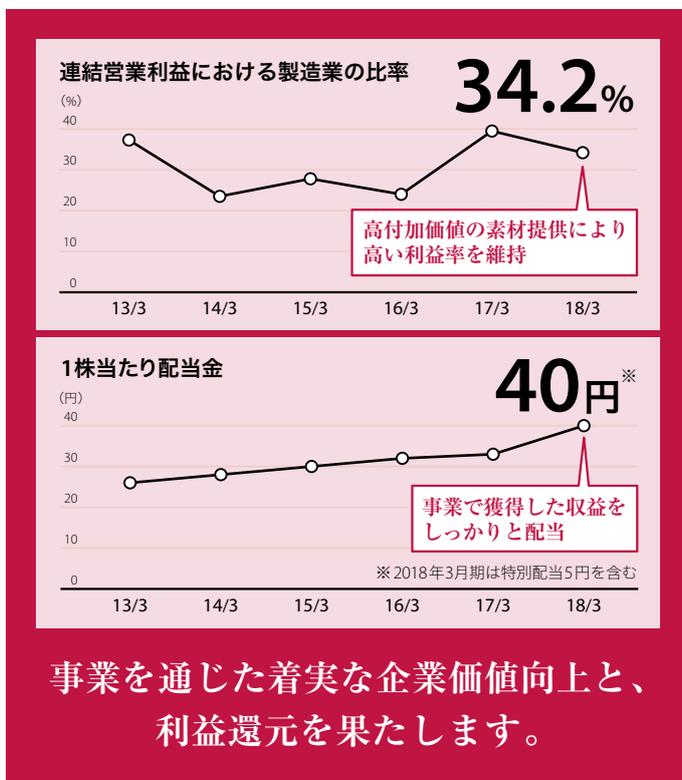
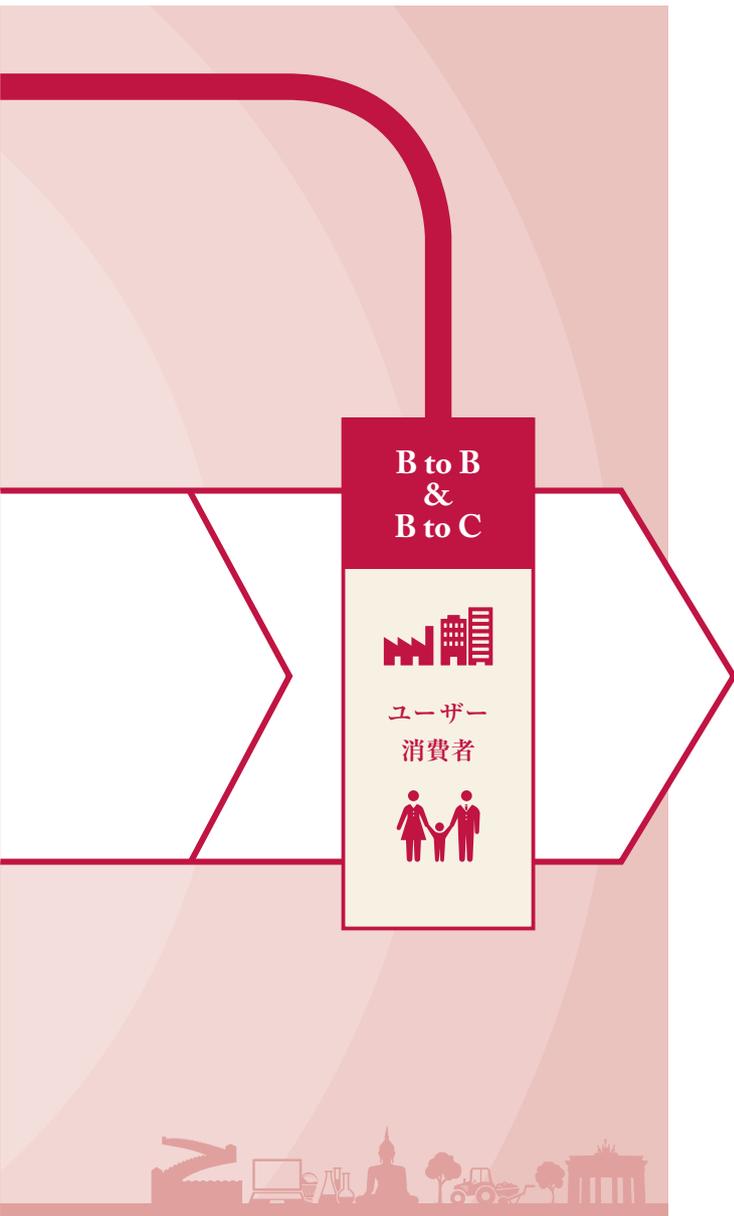


左上：ナガセアプリケーションワークショップ 右上：(株)林原(機能糖質工場)  
下：ナガセR&Dセンター

# 商社の枠を超えたユニークなビジネスモデル

商社をグループ機能のひとつと考え、商社・研究・投資・物流・海外・製造といった各機能との融合によってビジネスを創出する「ビジネスデザイナー」として、サステナブルな価値を社会に提供し続けていきます。





人々が安心・安全で快適に暮らせる社会の実現に貢献します。

素材・加工品を提供し、産業をサポート

美しく、健康的な暮らしを支える

人々が快適に暮らせる安心・安全で温もりある社会

## 世界を舞台に、価値ある製品・



### 機能素材



#### 塗料原料

自動車のボディ等に使用される塗料原料を取り扱っています。



#### ウレタン原料

高い密着性と弾性を持ち、カーシートのクッション等に使用されるウレタン原料を取り扱っています。



#### デナフィルター®

液晶パネル等のフィルム製造時の異物除去に使用されるデナフィルター®を製造・販売しています。



### 加工材料



#### カラーフォーマー

領収書や切符、ラベル等の感熱紙に使用される染料を製造・販売しています。



#### コポリエステル樹脂(トライタン™)

耐熱性を100℃以上に高めたコポリエステル樹脂。ビスフェノールAフリーという環境特性を活かし食器等ガラスの代替やメディカル用途としての使用が期待されています。



#### エンジニアリング・プラスチック

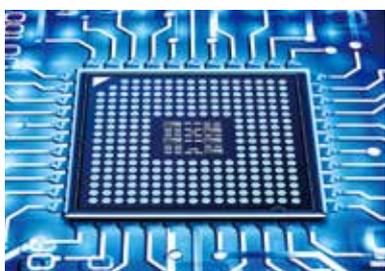
OA機器や電機・電子製品等に使用される機能性樹脂を販売しています。

# サービスを提供

樹脂原料・添加剤から機能性ポリマー、プラスチック製品、電子材料、機能性食品素材、医薬原料・中間体まで、様々な価値の提供を通じて「人々が快適に暮らせる安心・安全で温もりある社会」の実現に貢献し、お客様とともに発展し続けていきます。



## 電子



### 半導体関連部材

半導体封止樹脂、フォトリソ材料、製造装置、ウェハールバンピングサービスを提供しています。



### エポキシ樹脂

電子部品、風力発電、太陽電池、航空機、光学部品などの分野で使用される高機能樹脂を製造・販売しています。



### 液晶・フレキシブルディスプレイ・有機EL材料

スマートフォン・ウェアラブル端末・TV業界向けに高耐熱性ポリアミドフィルム、有機EL材料、薬液・装置等を販売しています。



## 自動車・エネルギー



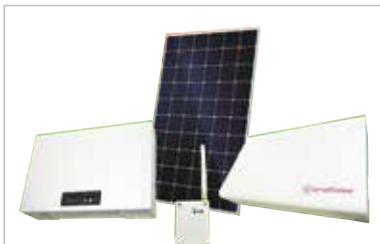
### カーエレクトロニクス

次世代環境対応車に関連する新素材・部品・新技術の提案を進めています。



### 次世代自動車に対応した素材

カーマルチメディア、センサー、自動運転システムに求められる部品・新素材を技術とともに提供しています。



### HEMS

HEMS(ホーム・エネルギー・マネジメント・システム)「エネイース®」を自社で開発、販売しています。



## 生活関連



### 医薬・医療分野製品

医薬原料の販売や抗がん剤を製造・販売しています。



### 化粧品分野製品

化粧品原料や製品、健康食品を製造・販売しています。



### 食品分野製品

機能性糖質や酵素を中心とした食品素材や健康食品素材を製造・販売しています。

# 13年間の主要財務データ

長瀬産業株式会社および連結子会社(2006年3月期～2018年3月期)

(単位:百万円)

	2006/3	2007/3	2008/3	2009/3	2010/3	2011/3
	WIT21		WIT2008		"CHANGE"11	
	投資額 237億円		投資額 277億円		投資額 1,074億円	
<b>業積(会計年度):</b>						
売上高	¥ 648,023	¥ 701,321	¥ 764,755	¥ 715,238	¥ 603,949	¥ 660,213
セグメント(事業)						
機能素材(旧化成材)	222,282	247,094	267,836	248,461	237,124	253,290
加工材料(旧合成樹脂)	229,278	244,681	274,660	253,029	192,569	222,100
電子	132,086	150,796	163,833	153,255	117,591	133,640
自動車・エネルギー	—	—	—	—	—	—
生活関連(旧ライフサイエンス)	56,404	53,556	56,489	58,905	55,542	50,247
その他	7,972	5,191	1,934	1,585	1,121	934
地域						
国内	388,470	410,789	432,813	394,874	360,382	389,379
海外	259,553	290,532	331,942	320,364	243,567	270,833
売上総利益	67,640	73,639	80,506	71,527	65,415	73,008
営業利益	17,596	21,669	23,063	12,522	13,128	18,732
親会社株主に帰属する当期純利益	12,892	13,567	10,005	5,808	7,537	12,823
<b>財政状態(会計年度末):</b>						
総資産	¥ 396,773	¥ 422,859	¥ 419,869	¥ 340,968	¥ 368,088	¥ 375,336
自己資本	196,620	205,083	200,554	184,599	195,344	201,516
有利子負債	24,834	20,491	33,342	31,340	21,886	27,125

(単位:円)

<b>1株当たり情報:</b>						
当期純利益	¥ 100.32	¥ 105.84	¥ 77.86	¥ 45.17	¥ 58.64	¥ 99.76
純資産	1,535.70	1,597.27	1,559.97	1,435.88	1,519.61	1,568.04
配当金	15	18	17	16	16	22
配当性向(%)	14.9	17.0	21.8	35.4	27.3	22.1
株主資本配当率(%)	1.06	1.15	1.08	1.07	1.08	1.42

(単位:%)

<b>財務指標:</b>						
海外売上高比率	40.1	41.4	43.4	44.8	40.3	41.0
製造業比率(営業利益)	20.5	22.3	24.4	15.5	35.4	29.0
売上高営業利益率	2.7	3.1	3.0	1.8	2.2	2.8
自己資本当期純利益率(ROE)	7.1	6.8	4.9	3.0	4.0	6.5
自己資本比率	49.6	48.5	47.8	54.1	53.1	53.7
デット・エクイティ・レシオ(倍)	0.13	0.10	0.17	0.17	0.11	0.13

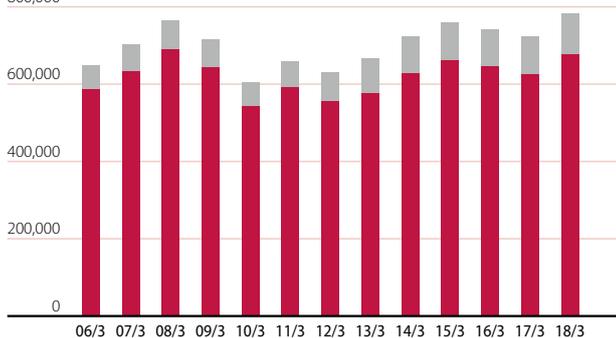
(注1) 2010年3月期より、従来「電子」セグメントに属していた情報・機能資材事業のうち、絶縁材料、フッ素樹脂関連製品等を取り扱うビジネスを、「化成材」セグメントに、「機能性フィルム・シート」の表面検査装置等を取り扱うビジネスを「合成樹脂」セグメントに移管しています。

(注2) 2013年3月期より、従来の4つの製品群別セグメントからバリューチェーンに沿った5つの事業セグメント「機能素材」「加工材料」「電子」「自動車・エネルギー」「生活関連」に再編成していますが、前期比較できるように2012年3月期より新セグメントでの数値表記をしています。従来「化成材」セグメントに属していた色材事業部が「加工材料」セグメントに移管されています。「自動車・エネルギー」セグメントは、「合成樹脂」セグメントに属していた自動車材料事業部と「その他」に属していた環境・エネルギー事業推進室とエナジーデバイス室が統合して発足したエネルギー事業室により組織されています。

## 売上高

■ 商社業 ■ 製造業

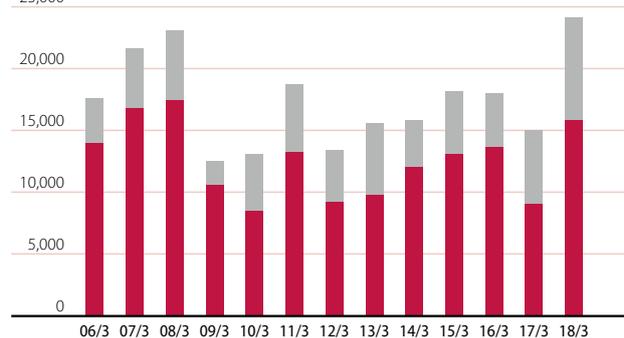
(百万円)  
800,000



## 営業利益

■ 商社業 ■ 製造業

(百万円)  
25,000



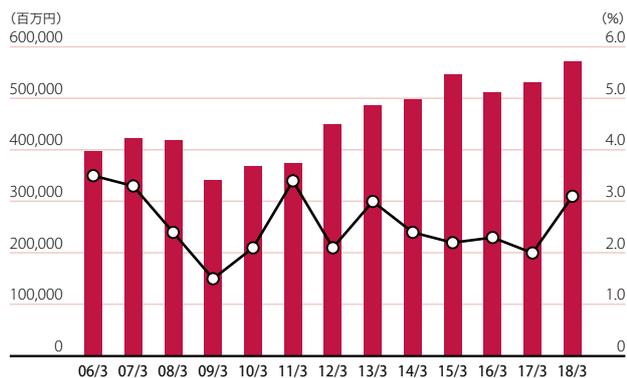
(単位：百万円)

2012/3	2013/3	2014/3	2015/3	2016/3	2017/3	2018/3
<b>Change-S2014</b>			<b>ACE-2020</b>			
投資額 411億円			投資額 137億円			投資額 326億円
¥ 631,854	¥ 666,272	¥ 723,212	¥ 759,713	¥ 742,194	¥ 722,384	¥ 783,933
177,126	167,017	169,973	168,238	157,149	153,546	176,068
217,929	214,214	239,224	254,165	255,505	242,609	262,831
110,495	125,014	137,026	149,947	127,926	127,722	129,324
76,113	83,068	99,441	109,851	115,351	112,956	129,708
49,170	76,116	76,810	76,609	85,571	84,904	85,371
1,018	841	737	900	689	644	629
366,369	361,971	372,939	374,208	363,038	369,365	395,428
265,484	304,301	350,272	385,505	379,155	353,019	388,504
71,628	82,583	88,936	91,991	91,663	91,503	102,675
13,427	15,578	15,789	18,153	18,024	15,030	24,118
8,570	14,182	11,663	11,318	12,316	10,331	17,175
¥ 450,842	¥ 486,747	¥ 498,141	¥ 546,525	¥ 512,081	¥ 530,775	¥ 571,445
204,706	228,505	246,723	281,398	273,963	290,217	303,636
88,710	98,425	92,828	98,493	87,560	82,046	86,173
(単位：円)						
¥ 66.69	¥ 111.31	¥ 91.86	¥ 89.10	¥ 96.96	¥ 81.65	¥ 136.34
1,592.87	1,803.31	1,942.20	2,215.18	2,156.67	2,301.10	2,424.97
24	26	28	30	32	33	40
36.0	23.4	30.5	33.7	33.0	40.4	29.3
1.52	1.52	1.50	1.44	1.46	1.48	1.69
(単位：%)						
42.0	45.7	48.4	50.7	51.1	48.9	49.6
31.3	37.3	23.5	27.8	24.3	39.5	34.2
2.1	2.3	2.2	2.4	2.4	2.1	3.1
4.2	6.5	4.9	4.3	4.4	3.7	5.8
45.4	46.9	49.5	51.5	53.5	54.7	53.1
0.43	0.43	0.38	0.35	0.32	0.28	0.28

(注3) 2014年3月期より、従来「機能素材」セグメントに含まれていた半導体・HDD向け研磨剤販売事業を「電子」セグメントへ、同じく「機能素材」セグメントに含まれていた化粧品業界向け原料販売事業を「生活関連」セグメントへ移管していますが、前期比較できるように2013年3月期実績についても組替後の数値表記をしています。

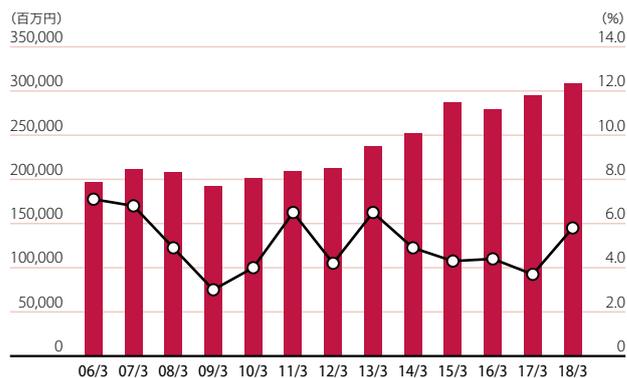
### 総資産/ROA

■ 総資産(左軸) ○ ROA(右軸)



### 純資産/ROE

■ 純資産(左軸) ○ ROE(右軸)



# Highlights in FY2017

## 長瀬産業

独自のバイオ関連技術であるN-STePP®の基盤技術が日本農芸化学会2017年度大会でトピックス賞を受賞

### ナガセケムテックス

INKRON社を子会社化：  
ディスプレイ・タッチセンサー・  
ウェアラブル市場でのビジネス拡大へ

5月

INKRON



Inkrone Oy社 (フィンランド)

## 長瀬産業

(株)村田製作所と共同開発した蓄電システム「エネイース®」が宮城県女川町の災害公営住宅に導入される

9月

April 2017 >>

7月

## 長瀬産業

グループの間接業務を受託するシェアード・サービス・センター長瀬ビジネスエキスパート(株)が発足

## 長瀬産業

大泰化工(株)の株式を取得：  
川下塗料業界へ進出

8月

## 長瀬産業

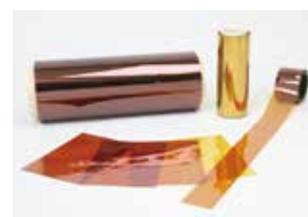
東洋紡(株)と高耐熱性ポリイミドフィルムの生産・販売合弁会社設立を発表：  
フレキシブルディスプレイ事業強化へ

### ナガセアメリカ

米国のケミカル・ディストリビューターFitz Chem社の株式取得

### ナガセヨーロッパ

フランス・リヨン支店新設：  
化粧品会社に対する化粧品原料の販売、試験機関や大学との協業を目指す



高耐熱性ポリイミドフィルム「ゼノマックス®」



リヨン支店(フランス)

NAGASEグループの2018年3月期(2017年4月～2018年3月)の事業活動における、  
主なトピックスをご紹介します。

### 長瀬産業

酸性腐食環境に有効な反応性塗料  
「Pat!naLock®-Σ」を開発

長瀬産業 〇 広州長瀬貿易有限公司

中国・科達利實業、(株)アテックスと  
広東省に合弁会社設立を発表：  
新エネルギー車向け部品事業を拡大



「惠州三力協成精密部件有限公司」  
設立契約を締結(中国)

11月

» March 2018

2月

### 長瀬産業

有機ELベンチャー  
(株)Kyuluxに5億円を出資：  
世界初の技術をサポート、  
有機ELディスプレイ市場へ参画



(株)Kyuluxが開発した発光材料

### 長瀬産業

自己株式立会外買付取引(ToSTNeT-3)による  
自己株式の取得

3月

### 長瀬産業

インド大手自動車部品メーカー  
UNO MINDAグループとの合弁会社  
MINDA KYORAKU社へ追加出資：  
インド市場での一層の  
供給力拡大を目指す



MINDA KYORAKU社(インド)

より高い目標を掲げ、  
期待され続ける企業グループを  
目指します。

代表取締役社長

朝倉 研二

2018年7月



## 常に時代の先を読み 新しい価値を提供して社会に貢献します。

### 2018年3月期の振り返り

#### 全セグメントにおいて前期を上回る売上を達成

中期経営計画「**ACE-2020**」の2年目にあたる2018年3月期連結業績は、過去最高の売上高、営業利益を達成しました。機能素材、加工材料、電子、自動車・エネルギー、生活関連の全てのセグメントにおいて前期売上高を上回りました。前回、過去最高の営業利益を記録したのが2008年3月期です。10年かけて新たな高みに到達できたことを非常に誇らしく思います。

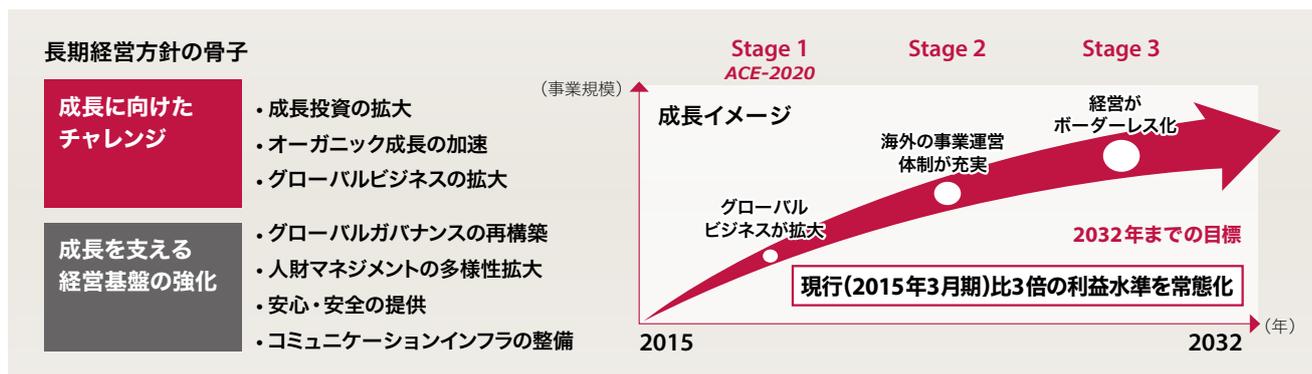
化学業界全般に好況だったこと、為替や原油価格などの外部要因がプラスに働いたこと等に加え、現場が仕事に責任を持ち、取りこぼしがないよう業務を完遂したことが好調な業績を支えました。国内外のグループ社員が「**ACE-2020**」の定量目標を共有し、それぞれの目標達成に向けてPDCAサイクルを回すことに努めた結果がはじまっていると思います。

### 中期経営計画「**ACE-2020**」の進捗

#### 成果は見たが緩まず推進

私たちは2015年に長期経営方針を策定し、創業200周年となる2032年に、策定時の3倍の利益水準を常態化することを目指して走り始めました。長期経営方針の1stステージ「変革期」として、2016年に策定した5ヶ年の中期経営計画「**ACE-2020**」では、「収益構造の変革」と「企業風土の変革」を柱としています。

折り返しとなる3年目を迎えましたが、2つの変革とも、まだ道半ばと認識しています。成果は顕在化しており手応えは感じていますが、まだゴールは先にあり、“ギャップを埋める施策”が重要になります。2019年3月期は中期経営計画のローリングを実施し、目標達成の実現性をより高めて、緩まず、おれず、推進していく所存です。



KGI (Key Goal Indicator) : 目標とする指標

KGI	2017年3月期	2018年3月期	2019年3月期(計画)	2021年3月期
連結売上高	7,223億円	7,839億円	8,280億円	1兆円以上
連結営業利益	150億円	241億円	255億円	300億円以上
ROE	3.7%	5.8%	6.0%	6.0%以上

KPI (Key Performance Indicator) : KGI達成のための因数指標

変革/戦略	施策	KPI (指標)	2017年3月期	2018年3月期	2019年3月期(計画)	2021年3月期
収益構造 変革の指標	注力ビジネス拡大 (ポートフォリオ最適化)	注力領域 営業利益額*	119億円	131億円	133億円	169億円
		注力領域成長投資分配率	46%	52%	59%	35%以上
	グローバル展開の加速 (収益基盤の拡大強化)	海外グループ会社売上高*	3,502億円	3,890億円	4,051億円	6,000億円
		米州売上成長率	90%	103%	110%	170%
	製造業の収益力向上 (収益基盤の拡大強化)	グループ製造業営業利益額*	90億円	114億円	115億円	144億円
損益分岐売上高比率*		76%	76%	77%	73%	
企業風土 変革の指標	効率性の追求 (経営基盤の強化)	グループ連結売上高販管費比率	10.6%	10.0%	9.9%	9.4%
財務戦略 指標	投資	成長投資額	82億円	235億円**	423億円**	1,000億円**
	強固な財務体質	格付け(R&I)	「A」	「A」	「A」以上	「A」以上

\*単純合算値であり、連結決算数値と一致しません \*\*中期経営計画期間中の合計額

中期経営計画の柱①「収益構造の変革」

▶ ポートフォリオの最適化

経営資源の最大効率化を進めるために、事業を「育成」「注力」「基盤」「改善」の4つの領域に仕分け、事業を拡大

■ ライフ&ヘルスケア、エレクトロニクス分野への投資

注力領域としてライフ&ヘルスケア、エレクトロニクスを定め、市場成長が期待できる米州に優先的な資源配分を行い、収益の拡大を図っています。2018年3月期は投資活動などいくつかの攻めの施策を行い、将来への布石を打つことができました。

事例

注力領域における主な展開

〈ライフ&ヘルスケア〉

- 欧州の化粧品事業拡大に向けフランス・リヨン支店開設
- 次世代創薬技術を持つベンチャー企業ペプチスター(株)へ出資

〈エレクトロニクス〉

- 高耐熱性ポリイミドフィルムの生産・販売会社ゼノマックスジャパン(株)を、東洋紡(株)との合併により設立
- 次世代有機EL技術を持つ(株)Kyuluxへ出資
- ディスプレイ、半導体等の次世代材料に強いフィンランドのINKRON社を子会社化
- 台湾の液晶ガラス加工事業を中国に集約

## 収益基盤の拡大・強化

グローバル展開の加速により海外売上拡大を目指す  
製造業の収益力向上・新たな事業の創造

### ■ シナジー効果を呼ぶ事業投資

NAGASEビジョンの一節「見つけ、育み、広げる」の中では特に「見つけ」が大事だと常々社員に伝えています。この意識の浸透もあってか、これまでの需要者と供給者を結ぶ点と点のビジネスから、事業投資によりビジネスが面として広がり、期待以上のダイナミックなシナジー効果が見られた一年でした。

製造業の収益力向上の一環として、2018年3月期には、特殊塗料などの製造・販売を手掛ける大泰化工(株)の株式を取得しました。また、パイプ等の合成樹脂製品を扱う東拓工業(株)の関東おやま工場(栃木県小山市)の建設を進めました。さらに、新発想の防錆塗料として注目されている「Pat!naLock®」の新展開として、関西電力(株)、(株)京都マテリアルズ、三菱日立パワーシステムズ(株)との共同開発で、火力発電プラント等のインフラ市場での展開が期待される「Pat!naLock®-Σ」の開発を進めました。

#### 事例

#### 製造業の収益力向上

- 東拓工業(株)関東おやま工場の建設
- 大泰化工(株)の株式取得、川下塗料業界へ進出
- Pat!naLock®-Σの開発

### ■ グローバル展開の取り組み“G6000”と課題

2018年3月期はナガセアメリカを通じて米国のケミカル・ディストリビューターであるFitz Chem社の株式を取得し、ナガセアメリカの100%子会社としました。Fitz Chem社は、米国中西部から南部をカバーし、主力事業の塗料・インキ向け原材料の販売のほかパーソナルケア・ホームケア製品向け原材料、接着剤、樹脂コンパウンド向け工業用原材料の販売にも注力しています。同社がグループに加わることで、NAGASEグループのグローバルビジネスが一段と進化することを期待しています。

2018年3月期はパートナー企業、投資先の事業が順調に推移し、グループの成長に貢献しましたが、グローバル展開については、“G6000”で掲げる売上高への寄与がまだ少ないことを課題として認識しています。国やエリアによりビジネスモデルや事情が日本とは異なるため、NAGASEグループでは現地CEOを配置して権限の委譲を進めています。グローバル展開の加速に応じて今後は現地採用人材のトップも出てくることでしょう。

#### 事例

#### グローバル展開の取り組み

- 米国：ケミカル・ディストリビューターFitz Chem社の株式を取得
- 中国：無錫澄泓微電子材料有限公司が四川省綿陽市に新法人を設立
- 中国：惠州三力協成精密部件有限公司を設立
- 台湾：長瀬電子科技股份有限公司の事業撤退
- インド：大手自動車メーカーとの合弁会社MINDA KYORAKU社へ追加出資

## 中期経営計画の柱②「企業風土の変革」

### マインドセットの徹底

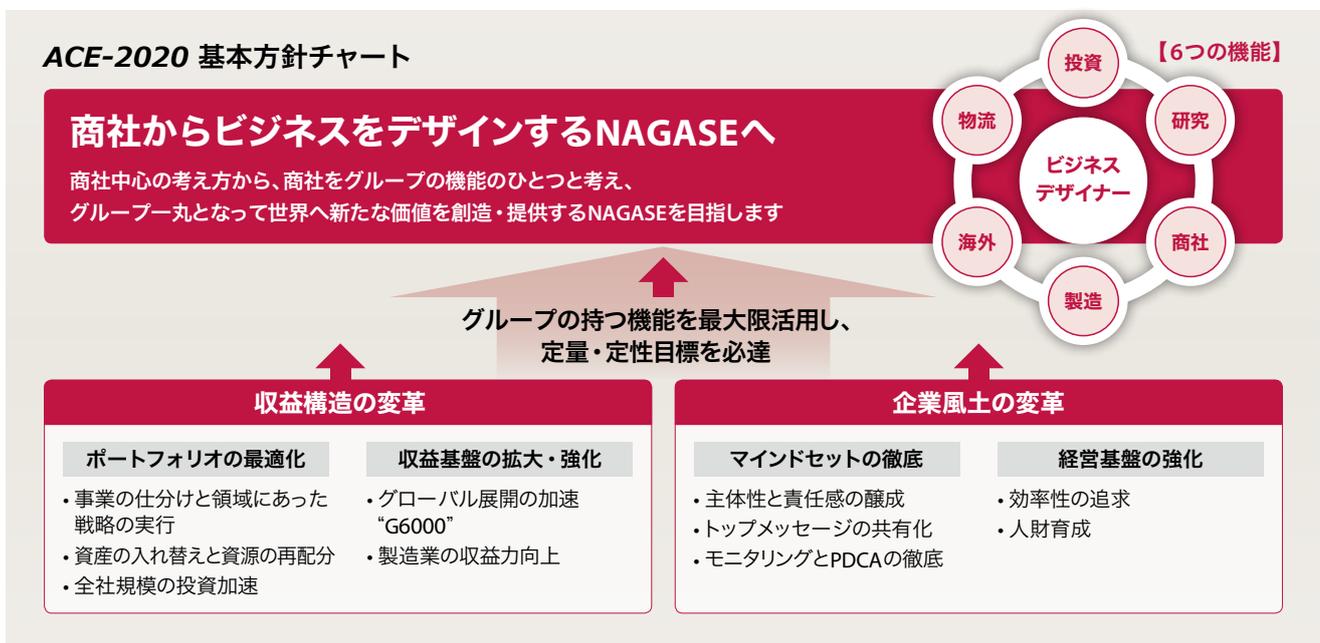
主体性・責任感・危機意識の醸成、  
トップメッセージの共有化、モニタリングとPDCAの徹底

### 経営基盤の強化

効率性の追求、人材育成

「従来の仕事の延長だけでは、我々の望んでいる到達点にたどり着けない」という意識は、グループ社員全員に間違いなく浸透しつつあります。個々の意識が高くなったことで部署間の連携が生まれ、言動にも変化が見られるようになりました。私は毎年、年頭の挨拶で社員に向けてその年に意識してほしい言葉を示しています。2017年の“SPEED-UP”に続き、2018年は“RAISE THE BAR”という言葉掲げました。自信を持ってより高い目標を持ち、立ち止まらずに進んでいきたいという思いを込めました。今後も、現場と触れ合う様々な機会を設け、自分の言葉を直接伝えるよう努めていきます。

また勉強会、社内向けのポータルサイト、メッセージ動画、ポスターなどを通じて、マネジメント層と現場の意識のギャップを埋める取り組みを実施しています。2016年1月から実施している、会長・副会長・社長による国内外のトップキャラバンは累計で180回を超えました。今後も、国内外で、個々の従業員の成長ややりがいにつながる対話を進めていきます。



## 未来に向けて

### 商社の枠にとどまらない「ビジネスデザイナー」として

目まぐるしく変化する時代に、商社機能のみで成立するビジネスモデルでは対応しきれなくなっています。我々はNAGASEグループのあるべき姿として「ビジネスデザイナー」という言葉を使っています。これまで主たる活動領域としていた「商社」「化学」を基盤としつつも、その範疇にとどまらずに、商社・研究・投資・物流・海外・製造の6つの機能を高い次元で融合し、限界を設けずに果敢にビジネスをデザインしていくという意味です。技術革新のスピードに対応する新たなビジネスや仕組みの創造を促し、持続的な成長を続けていくことが、今求められています。

2017年4月に創設したNVC(New Value Creation)室では、AIを用いた材料探索、マテリアル探索などのプロジェクトに取り組んでおり、2019年3月期にはより具体的な成果も見えてくると期待しています。このように、AIなどの新しい技術を使った新しい価値を、社会に提供し続けていく存在でありたいと考えています。

## 持続的成長のために

### 事業部横断でESG関連情報の開示を加速

2019年3月期は、NAGASEグループにとってESG元年と捉えています。NAGASEグループでは従来からCSR関連の情報開示は行ってきましたが、昨今急速に広がってきたESG投資の視点で、社内の情報を取りまとめて見直す必要があると認識しています。

そこで、経営企画部が中心となって事業部横断のチームを立ち上げ、各事業部長や関連会社と情報共有を始めています。NAGASEグループにおいて第一義は実業であり、ESGを考える上でも、まずは現状のビジネスが始点になるべきだと考えています。エネルギー事業を中心とする環境事業の取り組みなど、サステナビリティの視点で社会に役立つビジネスをデザインしていく流れの中で、ESG・SDGs等の社会の要請に応えられるよう準備していきます。

ESGやSDGsは、社会の一員として持続的に存続するために真剣に取り組まなければならないテーマです。「誠実に正道を歩む」というNAGASEグループの普遍的な理念が、ESGはもとよりガバナンスやコンプライアンスなど、あらゆる物事の判断をする上での基準になると考えます。

## 株主・投資家の皆様に向けて

### 期待され続けるグループでありたい

まずは「ACE-2020」の遂行が第一の目標になります。目標を策定した当時は、社内外で「実際よりも背伸びしすぎではないか」という見方もありましたが、2018年3月期の業績から、目標の達成は現実味を帯びていると考えています。私自身もグループの成長に手応えを感じていますし、これからも期待される企業グループであり続けたいと思っています。現状にとどまることなく、高い目標を掲げて常に挑戦し続けることが、長い歴史を紡ぎ事業を未来に継続させることにつながると考えます。ビジョンの実現に向けて変革を続けるNAGASEグループに、変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



商社の枠を超えた  
ビジネスデザイナーとして  
新たな価値を社会に提供し続けます。

# Our Board

(2018年6月22日現在)

継続的な企業価値の向上のため、  
ステークホルダーに対する経営責任と  
説明責任を果たします。

100%

社外役員の  
取締役会  
出席率

## 取締役



1.代表取締役会長

長瀬 洋

3.代表取締役社長 兼 執行役員

朝倉 研二

5.取締役 兼 常務執行役員

森下 治

製造業担当 兼  
大阪地区担当 兼  
エネルギー事業室担当 兼  
特命担当

7.取締役 兼 執行役員

山内 孝典

業務改革推進部本部長 兼  
法務部本部長 兼  
情報システム部担当 兼  
人事総務部担当

2.取締役副会長

長瀬 玲二

4.代表取締役 兼 専務執行役員

名波 瑞郎

管理全般担当

6.取締役 兼 常務執行役員

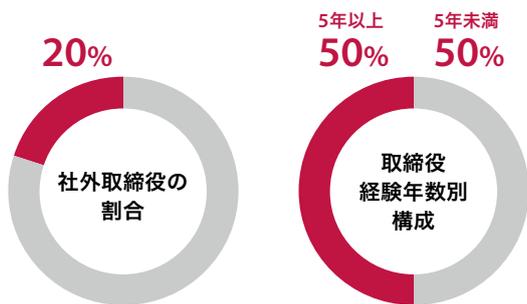
若林 市麿

営業全般担当

8.取締役 兼 執行役員

池本 真也

経営企画部本部長 兼  
関係会社担当 兼  
NVC室担当



## 9. 社外取締役

## 西 秀訓

1975年 カゴメ(株)入社  
2000年 同社取締役  
2003年 同社取締役執行役員  
2005年 同社取締役常務執行役員  
2008年 同社取締役専務執行役員  
2009年 同社代表取締役社長  
2014年 同社代表取締役会長  
2014年 当社取締役 現在に至る  
2016年 カゴメ(株)取締役会長  
2018年 同社退社

## 10. 社外取締役

## 家守 伸正

1980年 住友金属鉱山(株)入社  
2006年 同社取締役常務執行役員  
2007年 同社代表取締役社長  
2013年 同社代表取締役会長  
2016年 同社取締役会長  
当社取締役 現在に至る  
2017年 住友金属鉱山(株)相談役  
現在に至る

## 監査役



常勤監査役

松本 健一



常勤監査役

古川 方理



常勤監査役(社外監査役)

白藤 信之

1984年 (株)住友銀行  
(現・(株)三井住友銀行)入行  
2003年 同行国際企業投資部  
<ロンドン>グループ長  
兼 欧州三井住友銀行  
2006年 同行欧州審査部  
<ロンドン>部長  
兼 欧州三井住友銀行  
2013年 同行資産監査部部長  
2016年 同行退職  
当社監査役 現在に至る



監査役(社外監査役)

松井 巖

1980年 東京地方検察庁検事  
1990年 東京地方検察庁検事(特捜部)  
2005年 東京地方検察庁特別公判部長  
2010年 大阪高等検察庁次席検事  
2012年 最高検察庁刑事部長  
2014年 横浜地方検察庁検事正  
2015年 福岡高等検察庁検事長  
2016年 日本弁護士連合会弁護士登録  
(東京弁護士会所属)  
八重洲総合法律事務所  
現在に至る  
2018年 当社監査役 現在に至る

## 執行役員

## 磯野 昭彦

常務執行役員  
ナガセコムテックス(株)担当

## 安場 直樹

常務執行役員  
(株)林原担当 兼  
ナガセR&Dセンター担当

## 菅野 満

執行役員  
Nagase (Europa) GmbH CEO

## 鎌田 昌利

執行役員  
Greater China CEO 兼  
Nagase Business Management &  
Planning (Shanghai) Co., Ltd. COO

## 三原 康弘

執行役員  
スペシャリティケミカル事業部長

## 奥村 孝弘

執行役員  
電子化学品事業部長

## 太田 九州夫

執行役員  
カラー&プロセスング事業部長 兼  
ナガセアプリケーション  
ワークショップ担当

## 上島 宏之

執行役員  
自動車材料事業部長 兼  
名古屋支店長

## 狭川 浩一

執行役員  
ポリマーカーグローバルアカウント  
事業部長

## 高見 輝

執行役員  
財務部本部長 兼  
経理部本部長

## 増田 隆行

執行役員  
ASEAN・インド CEO

## コーポレート・ガバナンス

<p>取締役の任期</p> <p><b>1年</b> (社外取締役も同様)</p>	<p>独立役員の人数</p> <p><b>4名</b> (社外役員全員)</p>	<p>機関設計の形態</p> <p>取締役会・監査役 (監査役会) 設置会社</p>	<p>取締役の人数</p> <p><b>10名</b></p>
<p>社外取締役の人数</p> <p><b>2名</b></p>	<p>執行役員制度採用</p> <p><b>有</b></p>	<p>監査役の数</p> <p><b>4名</b></p>	<p>社外監査役の人数</p> <p><b>2名</b></p>
<p>取締役会の開催回数</p> <p><b>16回</b></p> <p>(社外取締役の出席率)西秀訓氏100% (社外取締役の出席率)家守伸正氏100% (社外監査役の出席率)白藤信之氏100%</p>	<p>役員報酬委員会</p> <p><b>有</b></p>	<p>監査役会の開催回数</p> <p><b>16回</b></p>	<p>会計監査人</p> <p>EY 新日本有限責任 監査法人</p>

### コーポレートガバナンス・コードへの対応状況 (2018年7月1日現在)

2016年度より、コーポレートガバナンス・コードの全ての項目に対してコンプライしている状況となっています。

中長期的な企業価値向上を目指すためには、体制・仕組みづくりだけでなく、引き続き、評価・検証を行っていくことが重要だと考えています。今後も、コーポレート・ガバナンスの継続的な改善に真摯に取り組んでいきます。

2018年度はコーポレートガバナンス・コードの改訂もあり、改めて全項目の見直しを行い、さらに実効的かつ適切なコーポレート・ガバナンスの実現に取り組んでいきます。

その他の対応状況は、コーポレート・ガバナンス報告書をご参照ください。

## 基本的な考え方

当社は『社会の構成員たることを自覚し、誠実に正道を歩む活動により、社会が求める製品とサービスを提供し、会社の発展を通じて、社員の福祉の向上と社会への貢献に努める』を経営理念として掲げています。

そして、当該理念のもと、ステークホルダーに対して約束するNAGASEビジョン『社員の一人ひとりが、日々の活動で「見つけ、育み、広げる」を体現することにより、「人々が快適に暮らせる安心・安全で温もりある社会」の実現に貢献する』を掲げています。

それらを実行するために、外部環境の激しい変化の中でも持続的に成長する企業集団となるべく、「成長に向けたチャレンジ」と「成長を支える経営基盤の強化」をベースとした長期経営方針を策定し、中長期的な企業価値向上に向け、取り組んでいます。

また、こうした取り組みを実行していくためには、「迅速な意思決定と実行」「透明性の確保」が必要不可欠であると考え、コーポレート・ガバナンスの強化にも取り組んでいます。

## コーポレート・ガバナンス強化の取り組み

	～2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2007年	2008年	2009年	2010年	2012年	2015年	2016年	2017年	2018年
社長	長瀬洋											朝倉研二			
取締役会議長	会長								社長			会長			
経営と執行の分離	取締役 20名	取締役に 11名に削減	10名	8名	10名						9名	10名	9名	10名	
	執行役員制度を導入（意思決定の迅速化と業務執行の強化）														
アドバイザー・ボード					2名	1名									
社外取締役					1名	2名									
社外監査役	94年～ 1名、98年～ 2名														
コンプライアンス	コンプライアンス委員会							リスク・コンプライアンス委員会							
	コンプライアンス基本方針制定														
						NAGASEグループコンプライアンス行動基準制定						改定			
	コンプライアンス相談窓口規則														
								内部統制推進委員会		内部統制委員会					
役員報酬											役員報酬委員会				
経営理念															

## 業務の執行体制

当社では、監査役会制度を採用する中で、執行役員制度を2001年6月から導入しており、現行経営体制は、取締役10名（うち社外取締役2名）、執行役員17名（うち取締役兼務者6名）、監査役4名（うち社外監査役2名）です。また、コーポレート・ガバナンス機能を強化するため、任意の委員会を設置しています。

### 当社のコーポレート・ガバナンス体制図

#### 1 取締役会

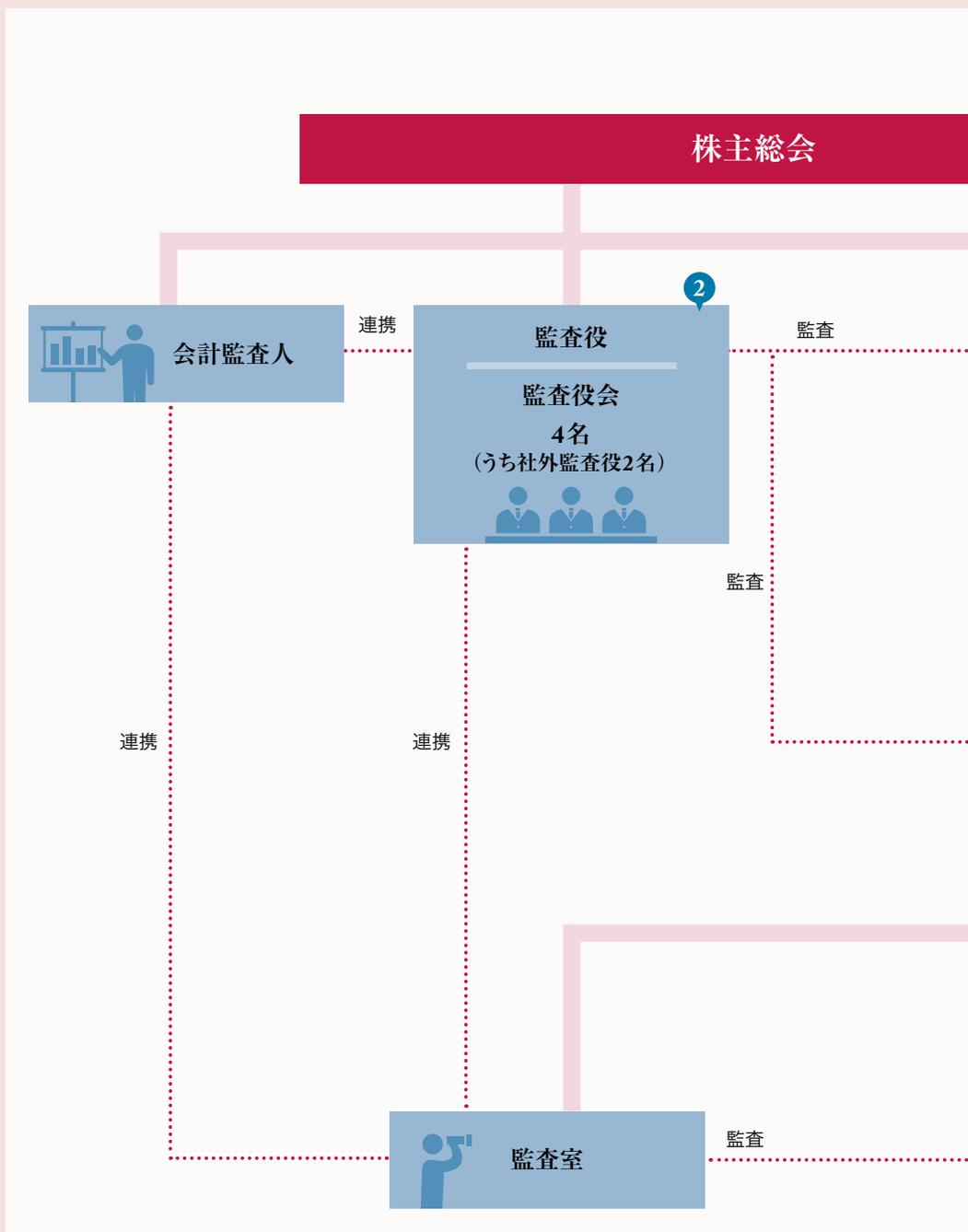
「経営方針・戦略の意思決定機関および業務執行を監督する機関」として明確に位置付け、毎月の定例取締役会を開催し、重要事項の決議、業績の進捗についても議論し対策等を検討しています。

#### 2 監査役会、監査役

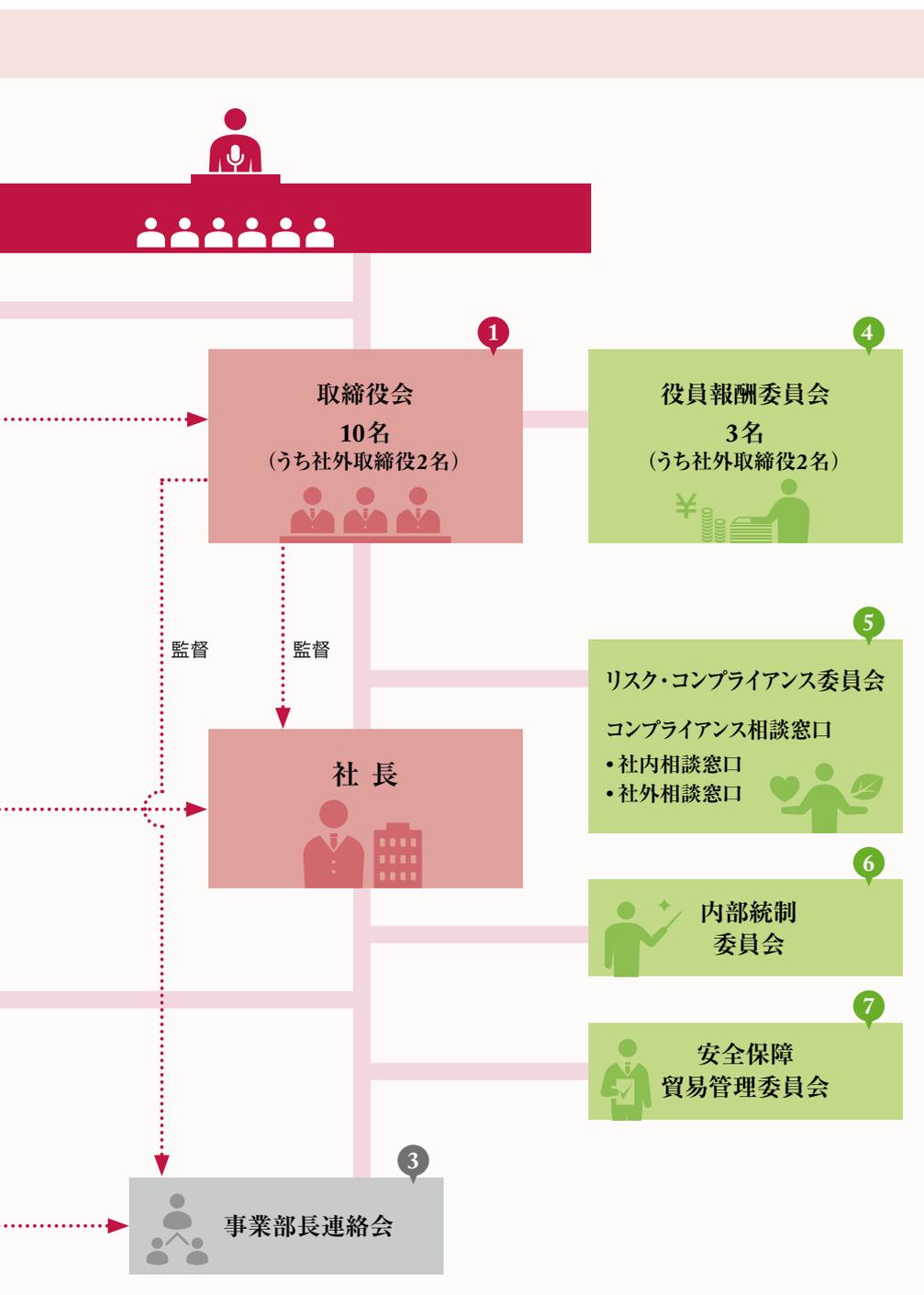
監査役は監査役会で定めた監査の方針、業務分担に従い、取締役会その他重要な会議に出席し、また必要に応じて子会社に対し報告を求めると、取締役の職務執行の監査を行っています。

#### 3 執行役員

「事業部長連絡会」に参加し、各部門からの現状報告をもとに議論の上、具体的対策等を決定しています。



執行役員制度導入のもと、社外取締役の選任と監査役会およびコーポレート・ガバナンス機能の強化を目的とした各種委員会との連携による現状のコーポレート・ガバナンス体制は、社外を含む多角的な視点からの監督・監査機能が働いており、現時点では、最も合理的であると判断しています。今後もステークホルダーの皆様からの信頼を確保すべく、コーポレート・ガバナンス機能の強化を図ります。



#### 4 役員報酬委員会

過半数が社外取締役で構成されており、報酬水準・制度の妥当性を検討し、取締役会に報告・提言することで、当社取締役・執行役員の役員報酬の決定プロセスにおける客観性と透明性を高める役割を果たしています。

#### 5 リスク・コンプライアンス委員会

取締役会の諮問機関として、法令遵守のみならず、企業倫理にまで踏み込んだリスクマネジメント体制およびコンプライアンス体制の確立、強化ならびに環境ISO運営、省エネルギー推進を図っています。

#### 6 内部統制委員会

財務報告の信頼性を一層高めるために、全社的な内部統制の状況や、財務諸表作成のプロセスについて文書化し、評価・改善を行う体制を維持、強化しています。

#### 7 安全保障貿易管理委員会

外国為替および外国貿易法等の輸出関連法規に規制されている貨物および技術の取引に係る法令遵守を徹底しています。

## 役員報酬等の額の決定に関する方針

社外取締役および監査役を除く役員は、役職に応じた基本報酬と業績連動報酬(賞与)から構成されており、役員報酬規程に基づき算出し、取締役会の決議を経て決定しています。業績連動報酬(賞与)に関しては、期間業績に応じて基本支給額を決定し、目標管理制度に基づく個別評価を反映させています。

また、過半数が社外取締役で構成される「役員報酬委員会」が、報酬水準・制度の妥当性を検討し、取締役会に報告・提言することで、役員報酬の決定プロセスにおける客観性と透明性を高める役割を果たしています。

### 役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額および対象となる役員の数

(単位:百万円)

役員区分	報酬等の総額	報酬等の種類別の総額		対象となる役員(名)
		基本報酬	賞与	
取締役 (社外取締役を除く)	391	227	164	8
監査役 (社外監査役を除く)	44	44	0	3
社外役員	50	49	0	4

### 使用人兼務役員の使用人給与のうち、重要なもの

(単位:百万円)

総額	対象となる役員の数(名)	内容
39	4	使用人給与と相当分として支給しています。

## 監査の体制

### 【内部監査の状況】

当社の内部監査部門としては監査室があり、公認内部監査人(CIA)および内部監査士(QIA)の資格を有する者等、内部監査に関する専門的な知見を有する者を含む9名の従事者によって、内部監査規程に基づき、子会社を含む会社の業務活動の適正性および効率性を監査しています。

### 【監査役監査の状況】

財務・会計に関する相当程度の知見を有する監査役を含む4名の監査役(うち社外監査役2名)が監査役監査を実施しています。監査役会は、毎月定期的開催され、各監査役から監査の実施状況および結果について報告を受けるほか、取締役等および会計監査人からその職務の執行状況について報告を

受けています。各監査役は、監査役会が定めた監査役監査基準に準拠し、監査の方針および監査計画等に従い、取締役、内部監査部門その他の使用人等と意思疎通を図り、情報の収集および監査環境の整備に努めるとともに、取締役会その他重要な会議に出席し、必要に応じて子会社に対し報告を求める等、取締役の職務執行の監査を行っています。

### 【会計監査の状況】

会計監査については、下記の指定有限責任社員のほか、公認会計士、その他合計36名の監査従事者によって、公正不偏な立場で実施されています。

業務を執行した公認会計士の氏名	所属する監査法人名
小西 幹男	EY新日本有限責任監査法人
山本 秀男	
高田 康弘	

### 【内部監査、監査役監査および会計監査の相互連携】

監査室と監査役は、適宜内部監査および国内・海外関係会社監査に関する情報交換を行っているほか、定期の会合において監査結果の報告や意見交換を行い、監査の品質向上と効率化に努めています。

監査役と会計監査人は、リスク認識に係る意見交換を行うとともに、日常的に個々の案件ごとに打ち合わせを行い、必要に応じて監査役が会計監査人による往査および監査講評に立ち会うなど、幅広い連携を行っています。監査役は、四半期ごとに行われる監査役会と会計監査人の連絡会を通じ、監査およびレビュー結果について報告を受けるほか、会計監査人の監査計画と実施状況について説明を受けています。

## 社外役員の独立性の基準または方針について

当社は、金融商品取引所が定める独立性基準に加え、社外取締役については、ステークホルダーや社会の求める視点を踏まえ、問題提起を行うことができる方を候補者として選定し、社外監査役については、様々な分野に関する豊富な知識・経験を有し、中立的・客観的な観点から監査を行うことができる方を候補者として選定しています。

また、社外取締役である西秀訓氏、家守伸正氏ならびに社外監査役である白藤信之氏、松井巖氏、計4名の社外役員全員を「独立役員」として届け出しています。

区分	氏名	選任の理由	2018年3月期の取締役会への出席状況	主な兼職の状況
社外取締役	西 秀訓	カゴメ(株)の経営に長年にわたり携わり、企業経営についての高い見識と豊富な経験を有しています。これらを活かし、産業界に精通した観点から、当社の経営全般に対して提言いただくことにより、当社のコーポレート・ガバナンス強化が期待できるため選任しています。	16回/16回	公益社団法人日本缶詰びん詰レトルト食品協会 会長
	家守 伸正	住友金属鉱山(株)の経営に長年にわたり携わり、企業経営についての高い見識と豊富な経験を有しています。これらを活かし、産業界に精通した観点から、当社の経営全般に対して提言をいただくことにより、当社のコーポレート・ガバナンス強化が期待できるため、選任しています。	16回/16回	住友金属鉱山(株) 相談役 JFEホールディングス(株) 社外取締役
社外監査役	白藤 信之	金融機関における長年の海外経験から幅広い見識を有しており、また審査ならびに監査部門に長年にわたり携わり、財務および会計に関する相当程度の知見を有していることから、社外監査役としての職務を適切に遂行いただけるものと判断し、選任しています。	16回/16回	なし
	松井 巖	法曹界における豊富な経験があり、コンプライアンスおよびガバナンスに関する相当程度の知見を有しており、社外監査役としての職務を適切に遂行いただけるものと判断し、選任しています。	—	八重洲総合法律事務所弁護士 (株)オリエントコーポレーション社外監査役 東鉄工業(株)社外監査役 グロープライド(株)社外取締役

(注)上記の取締役会の開催回数には、書面決議を含んでいません。

## 当社の情報開示に関する方針

当社は、「NAGASEグループコンプライアンス行動基準」を制定しており、ステークホルダーへの情報開示として、社会が真に必要なとしている情報を適時に適切な方法で開示することで、常に社会とのコミュニケーションを行い、企業活動を社会の常識から決して逸脱させず、公正で透明性のあるものに保つことに努めています。

この基本的な考え方にに基づき、経営の透明性や経営者のアカウンタビリティを向上させるため、株主や投資家の皆様に向けたIR活動や広報活動、ホームページ等を通じた情報の適時・適切・公平な開示を行っています。

当社の「適時開示体制」については、当社ホームページをご覧ください。

### 2018年3月期の主なIR活動

活動	回数	内容
機関投資家・アナリスト向け決算説明会	2回	決算実績、見直しおよびトピックスの説明(期末と中間)
個人投資家向け説明会	10回	証券会社の各支店等において実施
海外ロードショー	1回	社長およびCFOが海外機関投資家を直接訪問し、面談
海外カンファレンス	1回	証券会社主催のカンファレンスに参加

## 事業継続計画(BCP)

### 2018年3月期の実績

2018年3月期の防災訓練は、7月に東京本社、大阪本社、8月に名古屋支店において、「自衛消防訓練」を実施しました。また、2月に東京本社、3月に大阪本社、名古屋支店において、「防災対策本部」「設備確認班」「情報システム班」「物流確認班」を対象に、震災発生時のシナリオを提供し、初動対応を行う訓練を実施しました。

2014年5月より稼働を始めた東京都渋谷区千駄ヶ谷の研修センター(ナガセグローバル人財開発センター)は、東京本社が大規模災害により全面被災し利用できない場合の一時的なバックアップオフィスとして利用することを想定しています。2017年12月に防災BCP対応訓練を実施しました。

### 2019年3月期の取り組み

2018年3月期同様に、各店にて実務行動を伴う防災訓練を実施し、震災時の初動対応力の向上に努めます。また、バックアップ拠点となるナガセグローバル人財開発センターの防災BCP対応訓練を行い、機能向上を図ります。

# At a Glance



## 機能素材



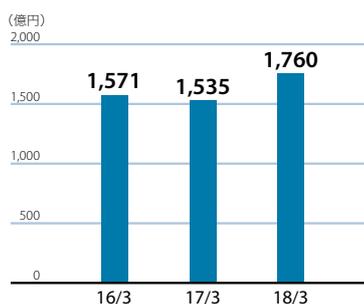
機能化学品事業部

P. 34

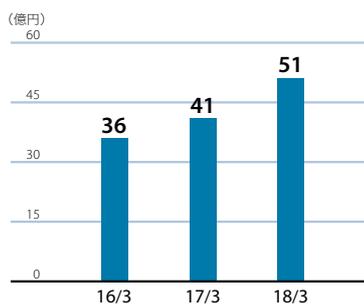
スペシャリティケミカル事業部

P. 35

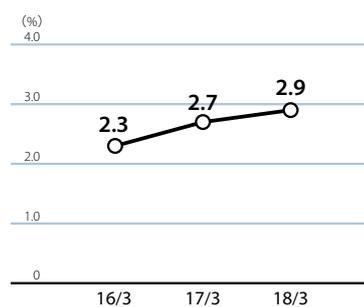
### 売上高の推移



### 営業利益の推移



### 営業利益率の推移



## 加工材料



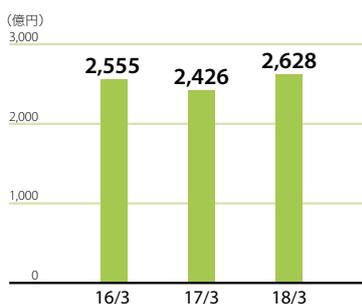
カラー&プロセッシング事業部

P. 36

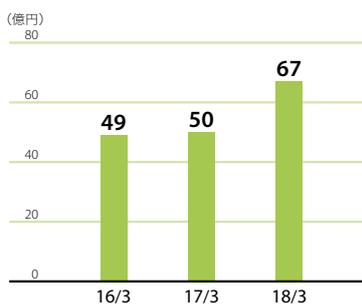
ポリマーグローバル  
アカウント事業部

P. 37

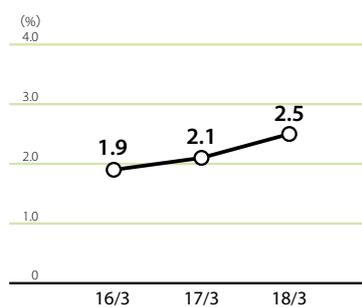
### 売上高の推移



### 営業利益の推移



### 営業利益率の推移



## 電子



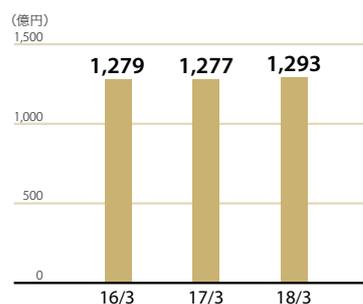
電子化学品事業部

P. 38

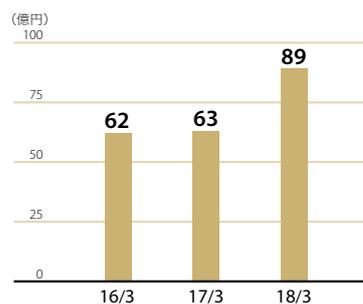
電子資材事業部

P. 39

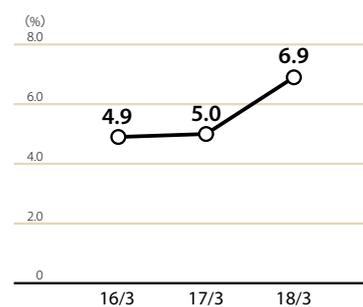
### 売上高の推移



### 営業利益の推移



### 営業利益率の推移



## 自動車・エネルギー



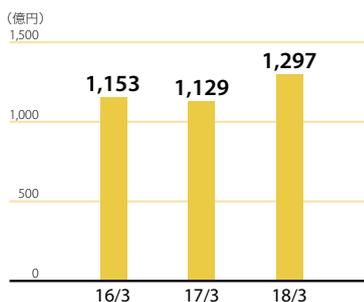
自動車材料事業部

P. 40

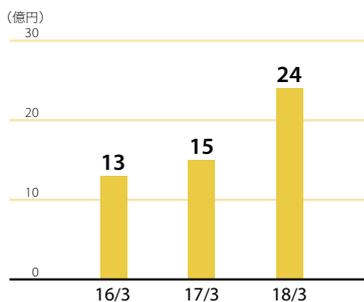
エネルギー事業室

P. 41

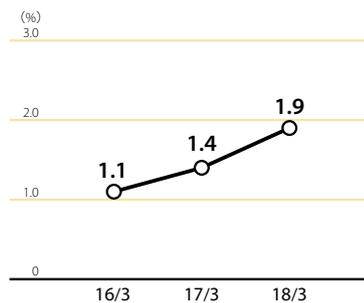
### 売上高の推移



### 営業利益の推移



### 営業利益率の推移



## 生活関連



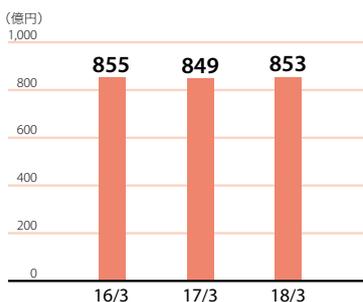
ライフ&ヘルスケア製品事業部

P. 42

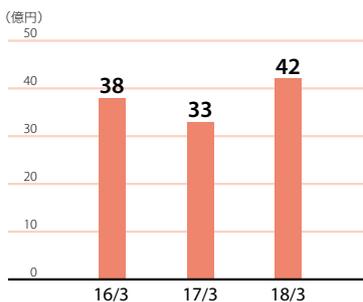
ビューティケア製品事業

P. 43

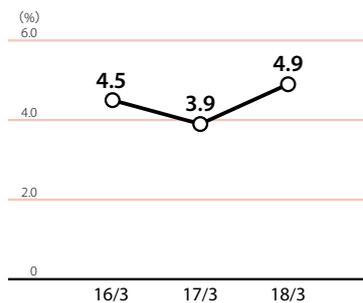
### 売上高の推移



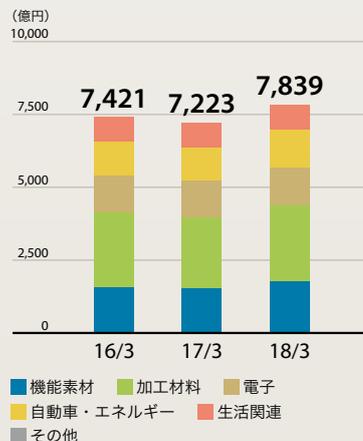
### 営業利益の推移



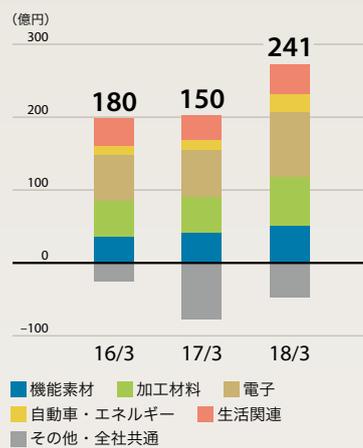
### 営業利益率の推移



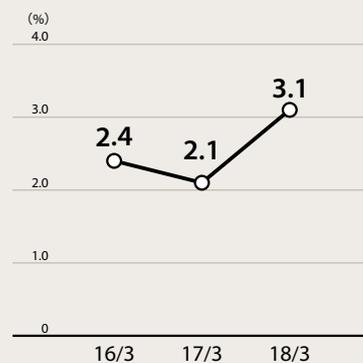
## セグメント別売上高



## セグメント別営業利益



## 営業利益率



# 事業別概況

機能素材

## 機能化学品事業部

### 〈主要な製造会社〉

- ・東洋佳嘉(寧波)海綿制品有限公司
- ・広州倉敷化工製品有限公司
- ・東洋佳嘉(広州)汽車零配件有限公司
- ・PT. Toyo Quality One Indonesia
- ・TQ-1 de MEXICO S.A. de C.V.
- ・萊依特化工(常州)有限公司
- ・Cytech Products Inc.
- ・大泰化工(株)



機能化学品事業部長  
磯部 保

### 主な業界におけるNAGASEの強みと事業環境

	強み	事業環境
塗料・インキ業界	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 国内外の塗料・インキ業界に特化した組織と人財</li> <li>■ 国内外の販売チャンネル</li> <li>■ R&amp;D、製造・加工機能を持つNAGASEならではのユニークな提案</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 海外市場における塗料・インキ需要の拡大</li> <li>■ 海外ローカル企業とのビジネス伸長</li> </ul>
ウレタン業界	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 顧客密着型営業に支えられた顧客との強いパイプ</li> <li>■ 各種ウレタン原料のパッケージ販売</li> <li>■ 海外の販売ネットワーク</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 新興国におけるウレタン需要の拡大</li> <li>■ 顧客(日系企業)の海外進出の加速</li> <li>■ 省エネ、環境、バイオへの意識の高まり</li> </ul>

## 2018年3月期の戦略展開と成果

2018年3月期は、中期経営計画「ACE-2020」の2年目として、3つの施策(①国内事業基盤強化、②海外事業強化、③新規事業の育成)を中心に事業拡大に取り組みました。

特に海外事業強化においては、北米での事業拡大を目的にケミカル・ディストリビューターのFitz Chem社の株式を取得しコーティング原料拡大への足掛かりとしました。

また新規事業の育成に向けては、中堅塗料メーカーである大泰化工(株)の株式を取得し、自社の強みである新規開発商材展開のための製造拠点を獲得しました。

ウレタン事業においては、グローバル展開しているJV各社を中心に、原料販売にとどまらずパートナー企業との協業、シナジーを見出し発展を続けています。

先の2つの株式取得案件の利益寄与、中国環境規制による日本原料への回帰、ナフサ等の原料高騰等により増収増益となりました。

## 2019年3月期の戦略展開

中期経営計画「ACE-2020」の3年目として、当事業部の3つの施策を中心にグループネットワークとバリューチェーンを活用し事業拡大を進めていきます。

海外事業拡大に向けて北米に注力し、Fitz Chem社を活用

し、北米において日本の機能性商材を展開していきます。同じく北米のJVであるCytech社のウレタン用離型剤の拡販、新規商材開発を図っていきます。

新規事業の育成として、2017年にNETIS(新技術情報提供システム)を取得した新反応性塗料「PatInaLock®」の市場浸透を進めていきます。また「炭酸ハイブリッド®塗装システム」の確立を目指します。

引き続き、国内顧客(パートナー)との協業を加速させ、コーティング・ウレタン業界での存在感をさらに強めていきます。

### TOPICS 新反応性塗料「PatInaLock®」



「さびで錆を制す」という従来の防錆塗料にはない新たなコンセプトによって開発された、新次元の維持管理を実現した反応性塗料です。塗布する鋼材に、腐食抑制機能を持つ防食性の高い錆層「Patina」を作ることによって、一般的な錆の進行を抑えます。



※この技術は、2018年に「第2回インフラメンテナンス大賞」優秀賞を受賞しました。

## スペシャリティケミカル事業部

### 〈主要な製造会社〉

- ・ナガセケムテックス(株)
- ・長瀬フィルター(株)



執行役員  
スペシャリティケミカル事業部長

三原 康弘

### 主な業界におけるNAGASEの強みと事業環境

強み	事業環境
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 顧客との強固な信頼関係</li> <li>■ EV、IoT、5Gなど技術の進展に伴った素材開発力</li> <li>■ バリューチェーンの情報を活用したユニークな技術志向の営業力、発想力</li> <li>■ 汎用品から特殊品まで顧客のニーズに合わせた多種多様な化学品の取り扱い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 化学業界におけるAI技術の模索</li> <li>■ 石油化学業界の再編(バイオケミカル含む)</li> <li>■ 高機能高付加価値商品のニーズ拡大</li> <li>■ 中国の環境規制による化学品製造の動向</li> <li>■ パリ協定などグローバルな環境規制の強化</li> </ul>

### 2018年3月期の戦略展開と成果

中期経営計画「**ACE-2020**」の2年目で、社員の価値観や考え方に確かな変化が見られ、収益構造の変革に向けたビジョンも具現化されてきました。その結果、配合技術、有機合成技術、高分子技術などをコアとした各事業において計画を達成し、増益となりました。

長瀬フィルター(株)は新設した福井工場の稼働も安定し、フィルター製造技術に加えユニークな洗浄技術の開発により新たな顧客提供価値の提案ができるようになりました。

### 2019年3月期の戦略展開

中期経営計画「**ACE-2020**」の3年目となる今期は、収益構造の変革を形にするために、事業投資や業務提携を継続して打ち出し、新規事業の早期の実績化を目指します。

また、2017年に当事業部に新設したナガセケムテックス(株)の市場開発チームによる開発活動をさらに強化し、グローバルなマーケティング力による市場の深耕を図ります。

### TOPICS グローバルな環境規制強化に対応したビジネス拡大 「サーキュラーエコノミー」確立を目指し、地球環境に貢献 ～顧客のESG投資をサポート～

炭素税が施行されるシンガポールで、課税対象企業に対して(株)モリカワ製「REARTH®」を導入しCO<sub>2</sub>排出量削減とコスト削減に貢献します。

排水関連では、(株)アイエンスの排水処理システムを導入し顧客が課題とする排水処理工程の電気代・処理コストの削減、処理能力向上に貢献します。



(株)モリカワ製「REARTH®」



(株)アイエンス製「AQUABLASTER®」



加工材料

カラー&プロセッシング事業部

- (主要な製造会社)
- ・(株)林原
  - ・福井山田化学工業(株)
  - ・Sofix LLC
  - ・ナガセケムテックス(株)
  - ・東拓工業(株)
  - ・寿化成工業(株)
  - ・長瀬欧積繊維染化学(上海)有限公司



執行役員  
カラー&プロセッシング事業部長 兼  
ナガセアプリケーションワークシヨップ担当  
太田 九州夫

主な業界におけるNAGASEの強みと事業環境

	強み	事業環境
情報印刷業界	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 製造拠点保有</li> <li>■ 専門性の高いグローバルネットワーク</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 海外展開、先進国での産業デジタル化=ペーパーレス、ネット販売増などの市場ニーズの変化</li> </ul>
色材業界	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 優良メーカーや顧客との良好な関係</li> <li>■ 顔料・分散加工に精通</li> <li>■ 多品種・少量販売のディストリビューション機能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 加飾材料および分散加工のニーズと市場の拡大</li> <li>■ 顧客(日系企業)の海外展開の広がり</li> </ul>
ポリマープロダクツ業界	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 長年にわたり国内外で展開してきたフィルム、樹脂、成型、マスターバッチ業界の専門知識と人脈</li> <li>■ 商品力のある仕入先との関係</li> <li>■ 豊富かつ有力な取引先群と情報ソース</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ ニーズの多様化と二極化</li> <li>■ 安全性と環境対応型製品に対する認知度向上</li> <li>■ 医療、検査、介護市場の拡大</li> </ul>

2018年3月期の戦略展開と成果

2018年3月期は、機能性フィルム材料および機能性色素関係ならびに土木用資材等が低調でしたが、顔料、コポリエステル系樹脂、感熱関係等のビジネスは堅調に推移しました。結果として、事業全体では増収増益となりました。

営業部とグループ開発部隊との横断的な協業を推進しました。また樹脂販売においては分野別営業組織へ再編を行い、注力分野へのフォーカスを強めました。引き続き、各種開発案件についてはPDCAのサイクルを強化し、事業化への道筋を明確にしていきます。

2019年3月期の戦略展開

当事業部は、加工材料セグメントという「川中」のポジションにあり、「市場」「業界」「取引先」の川上のシーズと川下のニーズをマッチングできる位置にあります。

2019年3月期においては、NAGASEビジョンの提供価値である「見つけ」「育み」を実践し、ビジネスのマッチング活動に注力することで、新たなビジネスチャンスを模索します。

商社のベースであるトレーディング活動を中心に置き、情報印刷、機能色材、機能性フィルム、樹脂加工など4部門のコアビジネスの深耕を図ります。

戦略的商品である顔料、添加剤、樹脂事業などの商権拡大に

ついても、国内にとどまらず海外への可能性も追求していきます。

同時に、そのまわりの様々な課題に必要なソリューションを提供できるよう、「トレーディング+アルファ」機能の向上に努めます。

さらに、広範囲な業界を通じた事業部と関係会社をつなぐ横断的なテーマを推進し、協業活動を強化していきます。

事業部内外を横断する人財交流の推進によって、異なるビジネスの経験およびコミュニケーションの活発化を促し、事業連結の総合力の活用とビジネスをデザインする力の強化に努め、人財育成につなげていきます。

TOPICS コポリエステル樹脂(トライタン™)



「脱環境ホルモン」のトレンドのもと世界中で採用が進んでいるコポリエステル樹脂の拡販を図ります。日本市場における取引先、最終顧客層の認知度アップを図るため、様々な機会を捉えて発信していきます。

コポリエステル樹脂(トライタン™)



## ポリマーグローバルアカウント事業部

〈主要な製造会社〉

・セツナン化成(株)

・Dainichi Color Vietnam Co., Ltd.



執行役員  
ポリマーグローバルアカウント事業部長

狭川 浩一

### 主な業界におけるNAGASEの強みと事業環境

	強み	事業環境
樹脂販売事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ アジア・パシフィックエリアに幅広く展開しているセールスネットワーク(人・事務所・物流拠点)</li> <li>■ 経験および専門知識を兼ね備えた豊富なナショナルスタッフ</li> <li>■ エンドユーザーに対するスペックイン機能</li> <li>■ 日系および非日系顧客との取引件数規模の大きさ</li> <li>■ 国内外の優良サプライヤーとの強固なパートナーシップ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ アジア・パシフィックエリアにおいてビジネスチャンスがさらに拡大</li> <li>■ ローカルスペックインビジネスの増加</li> <li>■ サプライヤーの事業再編</li> </ul>

### 2018年3月期の戦略展開と成果

2018年3月期は、国内・中国・東南アジアいずれも好調に推移し、増収増益の結果となりました。

樹脂販売事業においては、好調に推移する取引先の新商品にメイン材料として多数採用されたこともあり、需給逼迫の厳しい環境下ではありましたが、ビジネスを拡大することができました。

特に中国においては、従来からの注力領域であるOA・ゲーム、電機・電子関連ビジネスに加え、技術革新が進むAI・IoT関連製品への新規採用が広がりました。

東南アジアでは中国からの移管ビジネス獲得、およびローカルスペックビジネスの深耕により、販売が大きく伸長しました。

国内においては、販社での物流機能の強化による樹脂販売拡大および、高機能フィルム製品ビジネスの伸長、また関連製造会社の収益改善が業績に大きく貢献しました。

事業全般においては、有力サプライヤーとの新規取り組みおよび大手顧客とのビジネスがスタートしたこともあり、中期経営計画「ACE-2020」最終年度目標達成に向け、事業基盤の強化が実感できた1年でした。

### 2019年3月期の戦略展開

2019年3月期は「ACE-2020」の3年目として、最終年度を見据えさらなる「飛躍」の年と考えています。

基盤事業である「樹脂販売事業」においては、NAGASEグループネットワークを活用した商権獲得を引き続き行っていきます。

「コンパウンド事業」においては、既存ビジネスのさらなる収益改善および付加価値の高い自社製品「Denapolymer™」の拡販を図っていきます。

「包材関連事業」においては、エンドユーザー指向を基本とし、海外製造関連会社の機能および特徴ある差別化された製品群の提案力を当社の強みとして、事業の深耕を図ります。

また、事業全般において、アジア以外へのビジネスチャレンジ、投資案件の積極的検討を行い、収益構造改革に向けた施策を実施していきます。

#### TOPICS オリジナル樹脂コンパウンド「Denapolymer™」

当社100%子会社のセツナン化成(株)の持つ樹脂加工プロセス技術により自社ブランド「Denapolymer™」を立ち上げました。「高摺動特殊ポリエチレン樹脂 HS80シリーズ」を中心に、ユニークで差別化された製品の実績化に向けて取り組んでいます。

高摺動特殊ポリエチレン樹脂  
HS80シリーズの各種成形加工製品



Denapolymer™

電子

電子化学品事業部

〈主要な製造会社〉

- ・ナガセテムテックス(株)
- ・長瀬電子材料(無錫)有限公司
- ・Engineered Materials Systems, Inc.
- ・無錫澄泓微電子材料有限公司
- ・ナガセテクノエンジニアリング(株)
- ・Pac Tech-Packaging Technologies GmbH
- ・Nagase Engineering Service Korea Co., Ltd.
- ・Inkron Oy



執行役員  
電子化学品事業部長  
奥村 孝弘

主な業界におけるNAGASEの強みと事業環境

	強み	事業環境
電子部品業界 (通信機器)	■ ナガセテムテックス(株)独自の高度な変性技術をベースとした「エポキシシート封止材」が通信機器用途で高いシェアを維持	■ 中国および新興国における通信機器市場の拡大 ■ 次世代高速通信網の拡大
半導体業界	■ ナガセテムテックス(株)の高付加価値材料、Pac Techグループが提供するサブコンサービスおよび製造装置によるトータルソリューション	■ 5G、IoT、AI、自動車、医療機器などの新規分野での需要拡大
ディスプレイ業界	■ 高純度薬液と薬液管理装置の高度な技術力 ■ 特殊シロキサンをベースにした光学材料	■ 中国液晶ディスプレイ・有機EL市場の拡大 ■ 8Kディスプレイの拡大
重電業界 (電力・鉄道)	■ 日本国内において50年の実績による高いシェアを持つ高機能・高信頼性材料	■ 新興国を中心とした全世界におけるインフラ需要の拡大
環境・エネルギー業界	■ 自動車、航空機、鉄道車両、風力発電業界での実績を海外へ拡大展開できるグループネットワーク	■ 軽量化要求によるコンポジット材料の需要拡大

2018年3月期の戦略展開と成果

エポキシ事業では、半導体パッケージのデファクトスタンダードである液状成型樹脂、車載・電子部品用材料、ディスプレイ用シール材料が伸びました。

フォトリソ事業では、中国で薬液製造会社の拠点を拡大し、薬液管理装置についても中国・韓国市場で好調に推移しました。

Pac Tech事業では、スマートフォン新機種向けの電子部品製造用装置が実績に大きく貢献しました。

Pac Tech事業では、半導体実装における新技術開発推進を目的に米国の機能を強化します。また、中国市場においてのウェハーバンピングサービス・半導体製造装置ビジネスを推進していきます。

当事業部は、グループ独自技術によるトータルソリューションをグローバルに展開することにより、顧客に特別な価値を提供する事業の創出を加速していきます。

2019年3月期の戦略展開

当事業部では、「全世界市場にグループ製造拠点を有し、各拠点間の技術融合と最適配分により、NAGASE独自技術による高付加価値製品の供給を通じて、地域社会および顧客に貢献すること」を中期経営計画「ACE-2020」最終年度の目指す姿として事業展開を進めています。

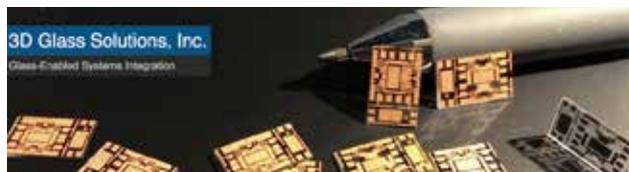
中核であるナガセテムテックス(株)のエポキシ事業では、重点ターゲットを業界ごとに定めており、全領域において順調に実績化しています。さらなる世界展開に向けて、中国・北米に続き欧州へ製造拠点の構築を積極的に進めていきます。

フォトリソ事業では、中国市場においてナガセテムテックス(株)の高付加価値製品の拡大を推進し、ディスプレイ市場および成長が期待される半導体市場へ展開していきます。

TOPICS 3DGS社への資本参加による5G通信規格対応高周波製品強化へ



3D Glass Solutions, Inc.は米国・ニューメキシコ州アルバカーキに開発・製造拠点を置く特殊ガラス加工製品設計・製造会社です。同社の5G通信規格対応高周波製品のグローバル展開による次世代半導体ビジネス拡大とともに、NAGASEグループ各社が保有する半導体関連技術との融合を図り、新規ビジネスを創出していきます。



## 電子資材事業部

### 〈主要な製造会社〉

- ・長瀬電子科技(厦門)有限公司
- ・サンデルタ(株)
- ・ゼノマックスジャパン(株)



電子資材事業部長  
高田 武司

### 主な業界におけるNAGASEの強みと事業環境

	強み	事業環境
スマートフォンディスプレイ業界	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ グローバル拠点を通じた顧客とのコミュニケーション力</li> <li>■ ブランドオーナー、EMS、部品、素材の各メーカーとの取引関係</li> <li>■ 高度な専門性を持つグローバル人財</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 市場は伸長しているが、成長の中心は先進国から発展途上国にシフト</li> <li>■ スマートフォンだけではなく、スマートウォッチ、スマートスピーカー、MR<sup>※1</sup>/AR<sup>※2</sup>/VR<sup>※3</sup>等が分化・統合し進化</li> <li>■ IoTが産業界で具現化し、末端センサーの情報処理(AI)が加わったスマートフォンの重要性が高まる</li> </ul>
シリコンウェハー業界	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ NAGASEのグローバルネットワーク</li> <li>■ 日系プロセス材料の競争力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ IoTにより業界全体が成長</li> <li>■ 中国の半導体企業の投資が加速し、今後大きな存在感を発揮する</li> </ul>
ディスプレイ業界	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 取り扱う製品力が強く、参入障壁が高い</li> <li>■ 高度な専門性を持つグローバル人財</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ LCD(液晶)パネルは中国・韓国・台湾が世界の中心</li> <li>■ 有機EL、マイクロLED等、フレキシブルディスプレイへの開発・投資が本格化</li> </ul>

※1 複合現実 ※2 拡張現実 ※3 バーチャルリアリティ

### 2018年3月期の戦略展開と成果

2018年3月期は液晶ガラス加工事業を中国地区に集約し大幅に利益が増加しました。シリコンウェハープロセス材料は堅調に増加しましたが、ディスプレイ・スマートフォン向け材料は減少し、全体としては減収増益の結果となりました。

投資による事業創造として、高耐熱性ポリイミドフィルム製造・販売の合弁会社を設立したほか、有機ELの発光効率を高める材料を開発・販売するベンチャーに出資しました。

### 2019年3月期の戦略展開

中期経営計画「**ACE-2020**」においては、「成長分野へのシフト」「投資による事業創造」「真のグローバル経営」の3つを掲げています。

「成長分野へのシフト」では、有機EL、フレキシブルディスプレイ素材のマーケティングをさらに強化し、また、シリコンウェハー製造関連材では、中国への拡販や新商材開発を進めています。

「投資による事業創造」については、機能性材料、特徴のある加工技術、IoT関連等、事業創造への投資を継続して検討していきます。

### TOPICS 東洋紡(株)と高耐熱性ポリイミドフィルムの生産・販売合弁会社ゼノマックスジャパン(株)を設立



「ゼノマックス®」は世界最高レベルの耐熱性と寸法安定性を持つポリイミドフィルムです。有機EL、電子ペーパー、マイクロLEDなどのフレキシブルディスプレイ、センサー基板用材料として、ガラスに代わり「薄い」「軽い」「割れない」「曲がる」特性を活かし、早期立ち上げを目指します。

※「ゼノマックス®」は東洋紡(株)の商標登録です。



「ゼノマックス®」

### TOPICS 有機ELベンチャー(株)Kyuluxに出資



(株)Kyuluxは有機EL向け発光材料(TADF)の開発に世界で初めて成功した九州大学発祥のベンチャー企業です。希少金属(イリジウム等)を利用しないTADFを用いることで有機ELにおける青色の実現・高い色純度・低コスト・消費電力の改善が期待されています。協業によりNAGASEグループのネットワークを活かし、グローバルな事業展開を目指します。



TADF(熱活性化遅延蛍光)

自動車・エネルギー

自動車材料事業部

〈主要な製造会社〉

- Sanko Gosei Technology (Thailand) Ltd.
- Automotive Mold Technology Co., Ltd.
- KN Platech America Corporation
- 通威精密金属(佛山)有限公司
- MINDA KYORAKU LTD.
- 惠州三力協成精密部件有限公司



執行役員  
自動車材料事業部長 兼 名古屋支店長

上島 宏之

主な業界におけるNAGASEの強みと事業環境

	強み	事業環境
内装業界	■ 材料から製品までの一貫したサプライチェーンを保有	■ 米国BIG3、中国民族系など非日系OEMへのビジネスチャンスの拡大
部品業界	■ 電機・電子業界での豊富なシーズと、これまで培ってきた自動車業界のニーズをマッチングさせたトータルソリューションの提供	■ HMI※1・ADAS※2・xEV関連での新たなビジネスチャンスの拡大
樹脂グローバル業界	■ 海外駐在員および現地スタッフを含めたグローバルネットワーク。長年培った日系・非日系主要サプライヤーとの関係および強固な顧客基盤	■ 排出ガス規制、金属の樹脂化、デザイン性の追求によるエンジニアリングプラスチックのビジネスチャンス拡大

※1 HMI (Human Machine Interface、ヒューマンマシン インターフェイス)  
※2 ADAS (Advanced Driver-Assistance Systems、先進運転支援システム)

2018年3月期の戦略展開と成果

中期経営計画「ACE-2020」2年目となる2018年3月期は、国内において汎用樹脂のプラントトラブルや無資格検査問題の影響もあり、市場環境は非常に厳しい状況でありましたが、エンジニアリング・プラスチック(エンブラ)ならびにEV関連部材の旺盛な需要により増収増益となりました。海外においては、韓国と北米が内装ビジネス不調により減収。中国は日系自動車メーカー向けビジネスが生産台数好調の影響を受けて拡大、東南アジアもタイでの自動車市場が回復し、事業部全体では増収増益となりました。

2019年3月期の戦略展開

2019年3月期、日本・中国・欧米でのカーエレクトロニクス関連の新規テーマの開発をさらに加速し、Human Machine Interface関係(センサー、カーマルチメディア)とxEV関係(インバーター、バッテリー)のビジネス拡大を目指します。

海外地域戦略としては、今後大きな成長が期待されるインド市場と中国非日系顧客への開発を積極的に進めて行く方針です。

海外事業では、欧米と中国を中心に非日系顧客への活動を強化し、内装部品、カーマルチメディア関連商材、高機能素材の拡販を推進していくと同時に、部品製造パートナーとの海外合弁事業の検討を進める方針です。

TOPICS 中国合弁会社設立 (惠州三力協成精密部件)



中国で急成長が見込まれる電気自動車(EV)、プラグインハイブリッド電気自動車(PHEV)、燃料電池自動車(FCV)などの新エネルギー車向け電気駆動部品の製造販売を目指し、2019年3月期に稼働を開始する予定です。



※イメージ図(赤枠部分)

TOPICS スーパーエンブラによる金属部品代替提案



特定パートナーとの提携により、次世代自動車のニーズに対応。エンブラの中でも特に優れた性能を備えるスーパーエンブラを活用した金属部品の樹脂代替提案活動が進んでいます。



## エネルギー事業室

(主要な製造会社)  
・(株)キャブテックス



エネルギー事業室長  
佐藤 潔

### 主な業界におけるNAGASEの強みと事業環境

	強み	事業環境
電池業界	<ul style="list-style-type: none"> <li>「電池と太陽光発電(PV)」「システムと材」の両方の取り扱い</li> <li>NAGASEのネットワーク</li> <li>エンジニアリングサポート機能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>再生可能エネルギーの振興政策、電力自由化、海外新興国、今後の補助金政策</li> </ul>
PV業界	<ul style="list-style-type: none"> <li>「電池とPV」「システムと材」の両方の取り扱い</li> <li>工場を持たず市場の変化に素早く対応するファブレス経営</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>再生可能エネルギーの振興政策、電力自由化、海外新興国</li> <li>政府のZEH(ゼロ・エネルギー・ハウス)政策</li> </ul>
自動車・電装業界	<ul style="list-style-type: none"> <li>NAGASEグループの販売チャネル</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>CO<sub>2</sub>削減規制、米国ZEV(無公害車)規制</li> <li>EVの増加</li> </ul>
商業施設流通業界	<ul style="list-style-type: none"> <li>流通業界との照明機器販売からの強いコネクション</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>マイナンバー制度導入 個人情報保護法</li> </ul>

### 2018年3月期の戦略展開と成果

電池材料事業は、正極剤、負極材、負極銅箔等で新規に顧客を獲得。取り扱い実績品目の幅が広がり、売上で前期比256%と大きく飛躍しました。

スマートシステム事業は、家庭用エネルギーマネジメント機器(エネマネ機器)販売に注力しましたが、スタートと販路開拓の遅れ等により当初の想定を下回りました。しかし、有力太陽光発電(PV)メーカーによる取り扱いや他社ブランドによる販売が決定され、また他のエネマネ機器との接続が可能となるなどした結果、販路が大きく広がりました。

光無線通信事業では監視カメラとの組み合わせによる実証実験がショッピングモール数ヶ所で行われ、実用化に向けて大きく飛躍する年となりました。2019年3月期には、長距離用、大容量モデルの投入によりさらなる飛躍が期待されます。

### 2019年3月期の戦略展開

エネルギー事業室は、住宅・産業・交通・IT・通信インフラにおけるイノベーションを実現し、スマート社会のインフラづくりに貢献します。

2019年3月期におきましては住宅用エネマネ機器「エネイース®」の販売に注力します。日本政府は2020年に新築される住宅の50%をZEH(ゼロ・エネルギー・ハウス)に、また同じく2030

年にはそれを80%にまで引き上げるという方針を発表しました。国土交通省、環境省、経済産業省合同のZEH化推進策なども示され、当社として独自の販売網・アフターマーケット網構築に注力し、新たなエネルギービジネスの創出および提案に向けた事業を展開していきます。

### TOPICS SDGs (Sustainable Development Goals) 活動の開始

世界的に注目を集めている持続可能な開発目標「SDGs」に向けた取り組みを始めました。「クリーンエネルギー」「住みやすい街づくり」に主眼を置いた事業を展開します。

#### SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



※本統合報告書では、各事業部・海外拠点のTOPICSに、関連する目標のロゴマークを掲載しています。

生活関連

ライフ&ヘルスケア製品事業部

〈主要な製造会社〉

- ・(株)林原
- ・ナガセケムテックス(株)
- ・ナガセ医薬品(株)



ライフ&ヘルスケア製品事業部長  
清水 義弘

主な業界におけるNAGASEの強みと事業環境

	強み	事業環境
化粧品	■ 広い活動領域 (化粧品～ハウスホールド)	■ 日本の主要化粧品会社の 海外進出強化
医薬・医療	■ 高活性注射剤製造・ 製剤処方開発機能	■ ジェネリック(後発)医薬品 使用促進政策
食品	■ NAGASEグループの グローバルネットワーク	■ “Made in Japan”への信頼性
法規	■ グローバル法規 および薬事対応組織	■ 日本の食品素材 および医療材料産業支援政策

2018年3月期の戦略展開と成果

当事業部は引き続き「食品・飲料」「化粧品・トイレットリー」「医薬品・医療材料」の3分野に注力した結果、2018年3月期は中期経営計画「ACE-2020」の目標達成に向けて順調に推移いたしました。

食品素材分野では、北東アジアでの競合品差別化対策が功を奏し、計画を達成しました。化粧品分野では、主要顧客である日本メーカーが越境Eコマースによる恩恵を受けたため、原料販売が好調に推移し計画を達成しました。医薬品・医療材料分野では、一部の医療分野で苦戦したものの、拡大を続けるジェネリック(後発)医薬品市場でのビジネスを確実に取り込み、トータルでは計画を大幅に上回りました。また、グローバル法規および薬事対応組織においては、さらなる体制の強化を進めました。

2019年3月期の戦略展開

“バイオのNAGASE”の確立を目指し、引き続き①GLOBAL SHIFT、②INNOVATION、③SUSTAINABILITYを戦略の根幹とし、中期経営計画達成に向けて邁進します。

食品素材分野では、海外糖質ビジネスを(株)林原に移管し、国内営業との一体経営を行います。酵素ビジネスの海外展開やM&Aの検討等、積極的な資源投入を行い、拡大を目指します。

化粧品分野では、新設されたフランス・リヨン支店や新しくNAGASEグループに加わった米国のFitz Chem社と協業を行いながら、より一層の海外比率の拡大を目指します。

医薬分野では、引き続き拡大する国内ジェネリック医薬品市場に注力すると同時に、医療ビジネスの再構築を行い、NAGASEグループにおける医療ビジネスの基盤づくりを行います。

TOPICS ペプチスター(株)への出資

ペプチスター(株)への出資や(株)四国核酸化学との取り組みを実施することで、従来の低分子薬から将来性のあるバイオ医薬関連への注力をいち早く推し進めていきます。



## 株式会社ナガセビューティケア



(株)ナガセビューティケア代表取締役社長  
吉野 公啓

### 主な業界におけるNAGASEの強みと事業環境

	強み	事業環境
訪問販売業界	<ul style="list-style-type: none"> <li>訪問販売事業約50年の歴史と継続性、NAGASEファンの約500名のマネジャー(代理店)組織、女性のビジネスを応援(女性の組織)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>少子高齢化、Eコマース(電子商取引)の普及、健康志向および健康産業の伸長、安心・安全志向の拡大</li> </ul>

### 2018年3月期の戦略展開と成果

2018年3月期の訪問販売事業は、長瀬産業(株)の機能を(株)ナガセビューティケア(NBC)に全面移管し、製造から販売までを一貫してNBCにおいて遂行する体制となりました。2018年3月期からの行動指針として「三本の矢」の施策を開始しました。まず第一の矢として、原点回帰を目指す「販売重視」へ大きく舵を切りました。第二の矢としては、「次世代マネジャー」の育成。そして第三の矢として、本部による直轄事業の推進を掲げました。商品面では、健康食品のベルマッシュドリンクをリニューアルしたほか、新メイクシリーズ「WIZ D」、若年層向けスキンケア「QACT」を新規発売。さらに主力美容液「オートリフター」の全面リニューアルも実施しました。しかしながら、会員の高齢化による需要減は依然として継続し、減収となりました。

### 2019年3月期の戦略展開

2018年3月期から始まった「三本の矢」の施策を継続します。中でも「販売重視」については、2019年3月期から販売制度の変更、教育システム「ナガセブラッシュアップシステム」の修正、「販売方程式」の浸透など、販売員のスキルアップを強化していきます。また、2019年3月期から新たに「う・え・き(運動・栄養・休養)の取り組みを開始し、物品の販売だけでなく、各種サービスやイベントも展開します。こうした活動により「総合美」

の追求と「活美若健」の実現を確かなものとし、シニア世代を中心に美容健康寿命の延伸を目指すことで、若年層や次世代の皆様に対する一層の訴求となることを目指します。



「WIZ D」ベースメイク

### TOPICS 発酵オタネニンジン-CDの研究発表において、優秀発表賞を受賞

NBCが独自に開発した食品素材「発酵オタネニンジン-CD」について、福岡大学と推進しているアルツハイマー型認知症に対する研究が、「第34回和漢医薬学会」において優秀発表賞を受賞しました。



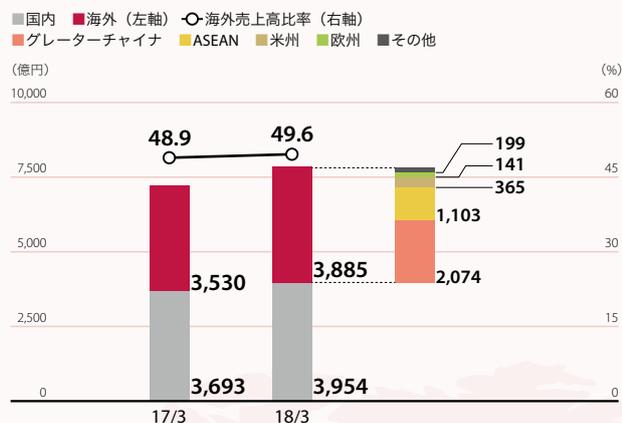
## グローバルネットワーク

NAGASEグループは、化学を基盤として顔料・着色剤、塗料・インキ、界面活性剤、OA、電機・電子、自動車、液晶、半導体、医薬・医療、化粧品、機能性食品素材等といった業界を対象に、グローバルに事業を推進しています。創業以来培ってきた技術力・情報力のネットワーク化を図るべく、26ヶ国・地域101社と全世界へ拠点を張り巡らし、2018年3月期の従業員数は連結で6,312名、また連結売上高における海外の占める割合は49.6%です。



# Drive Global Business

## 地域(国内・海外)別売上高および海外売上高比率



## 米州

売上高：365億円  
 グループ会社数：10社  
 従業員数：236名

※グループ会社数は2018年3月末現在  
 ※従業員数は連結子会社が対象

# Forward

## 海外グループ 売上総額6,000億円 を目指します

2016年にスタートした中期経営計画「ACE-2020」では、

- 1 グローバル展開の加速
- 2 製造業の収益力向上

の2つを柱に収益基盤の拡大・強化を図っています。

### 1 グローバル展開の加速

2020年までの5年間で海外売上総額6,000億円\*を目指しています。事業拡大を推進するため、各地域戦略にあった成長投資(M&Aなど)の探索と実行、ビジネスモデルの立ち上げを加速し、特に北米での事業に注力していきます。

※海外現地法人の売上総額(単純合算)であり地域別売上高とは異なります。

### 2 製造業の収益力向上

海外市場にフォーカスしたシナリオづくりと人材育成(海外マーケティング、海外生産)の強化を図っていきます。

# 地域別概況

## グレートチャイナ地域



執行役員  
Greater China CEO 兼  
Nagase Business Management &  
Planning (Shanghai) Co., Ltd. COO  
**鎌田 昌利**

当社は、グレートチャイナ地域(中国・香港・台湾)に、販売会社、製造会社、サービス会社等を含め40を超える拠点を有しています。内需深耕・地域発信ビジネスの創造を基本姿勢にグループの収益拡大に貢献するとともに、有力パートナーとの協業やNAGASEグループの総合力を最大限駆使した拠点間のグローバルビジネスの創出に取り組んでいます。

### ◎主要市場の動向

自動車業界は安定的に成長しています。ディスプレイなどの電子業界は技術トレンドの変革が進み、OA機器・ホームアプライアンスでは内陸部でのビジネスが継続拡大しています。半導体業界はさらなる成長が期待され、環境、食品、医療などの生活関連業界は、中国内需が年々高まっています。

### 2018年3月期の業績

2018年3月期は、ディスプレイ、スマートフォン向け材料が伸長し、自動車向けの樹脂および関連製品、半導体関連材料も堅調に推移しました。また、ポリイミドフィルム、ガラス貼合加工ビジネスが台湾で稼働を開始し、利益に貢献しました。

ナガセケムテックス(株)関連では、変性エポキシ樹脂ビジネスが、年度後半に原料高騰の影響を受けました。無錫澄泓微電子材料有限公司の液晶用薬液事業は好調に推移し、2017年9月には四川省綿陽市に新たな製造拠点を立ち上げました。

環境分野では太陽光発電(PV)関連ビジネスが大幅に伸長し、食品分野では林原製品(トレハ®ほか)ビジネスにおいて技術サービスの向上により新規採用が増加しました。



### 2019年3月期の戦略展開

樹脂販売では、主要サプライヤーとの取り組みを強化し、グループネットワークを活用した商圏獲得を引き続き行います。自動車分野では、内外装や加飾部材に加え、新エネルギー車向けの動力系や電池、表示部品の取り扱いも増やしていきます。

電子分野では、現地での製造機能を活用し、用途開発や販売拡大に注力するとともに、OLED\*1、E-Paperなどの次世代ディスプレイに注力していきます。半導体分野では、NAGASEグループ製品およびパートナー材料をさらに充実させ、各種機能材料の展開を加速させます。

食品事業は、トレハ®の安心・安全に対する認識が深まり、さらなる技術サービスの提供によりハイエンド市場での拡大に努めます。成長期待の環境事業においては、PV関連部材の拡販、VOC\*2測定・濃縮・回収・燃焼装置、さらに水系印刷インキやシステム、排水処理設備についても提案していきます。

\*1 OLED：有機発光ダイオード \*2 VOC：揮発性有機化合物

### TOPICS 中国成長市場におけるビジネス展開

液晶・半導体市場に薬液事業を展開する無錫澄泓微電子材料有限公司が、新たに四川省綿陽市に綿陽澄泓微電子材料有限公司を設立しました。液晶・半導体市場は著しい成長が見込まれ、中西部や華南地区での生産拠点数も増加しています。中国現地企業との合併という強みを活かしながら、薬液事業の展開をさらに進めていきます。



※イメージ図(赤枠部分)

## ASEAN & 中東地域



執行役員  
ASEAN・インドCEO  
**増田 隆行**

好調な世界経済を背景に、各国とも輸出産業が順調に拡大しました。内需では、自動車はタイ、インドネシアで微増にとどまりましたが、生活水準の向上で食や美に関連する産業は各国とも活況を呈しました。ASEANの先進国であるシンガポール、マレーシア、タイでは、産業の高度化、人財の育成、産業誘致への新たな施策を打ち出し世界の先進国入りを目指しています。一方、インドネシア、フィリピン、ベトナムなど人口の多い国々では、産業の多角化が進んでいます。中国のシルクロード経済圏構想「一带一路」や開放経済により、マーケット、サプライ両面でインドの重要性が増えています。

### ◎主要市場の動向

ASEAN各国では、中国における労働コストの高まり、環境問題による生産規制、さらには米国を始めとする貿易障壁の変化により、化学品、電機、ソーラーパネルなどの業界で、日系企業のみならず世界の企業がASEAN各国に生産を移管し拡大しています。若年層の人口が多い地域に対し、内需型の産業、食品、生活雑貨、衣料、医療分野での数と質の向上が見られます。インドでは日系自動車メーカーの大型投資もあり、新たな企業進出の動きがあります。中東は期待されたイランの開放経済に暗雲が立ち込めていますが、ポスト石油をにらんだ新産業育成の動きも出ています。

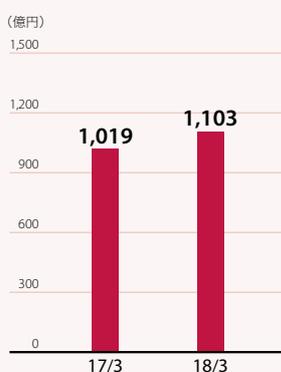
### 2018年3月期の業績

売上高、利益とも前期を大幅に上回る好成績となりました。売上面ではベトナムの貢献が目立ちました。中国を中心とする海外からの移管ビジネスの好影響に加え、ベトナム地元企業との取引も拡大しました。域内で化学品市況が高水準で推移したことも売上上の拡大を下支えし、比較的強含みであった現地通貨による増益効果もありました。

### 2019年3月期の戦略展開

中期経営計画「ACE-2020」達成に向けた大変重要な1年になります。取引先とのコミュニケーションを密にし、満足いただけるサービスの提供を通じて基盤事業を拡大するとともに、各国各分野での有力な地元企業との新たな共同事業構築を目指し、継続性のあるビジネスの構築を図ります。また、これらを担う現地スタッフへの投資を厭わず地域人財を育成していきます。

### 売上高



### TOPICS

#### ハノイ市との医療分野ほか 包括的な協力関係の構築

2017年6月、ベトナム・ハノイ市の市長が東京本社を訪れ、大腸ガン検査装置のデモを見学しました。昨今のハノイ市では「健康」「環境」をキーワードとした様々なプロジェクトが推進されています。Nagase Vietnamもその要請に応えるべく「ライフ&ヘルスケア」「ケミカル」の観点から様々な商品およびシステムを紹介し協力関係を深めています。



東京本社を訪れたハノイ市の市長ら一行

欧州



執行役員  
Nagase (Europa) GmbH CEO  
菅野 満

EUの経済成長は予想を上回り、2017年の成長率は過去10年間で最高の2.4%となりました。EU経済は回復から拡大へとシフトしており、2018年は、投資も堅調に伸び同様の成長を見せるものと予想されます。一方で、米国や中国との貿易摩擦が影響を及ぼすことが懸念されます。

◎主要市場の動向

環境規制の強化、コンピューティングの進化によるデジタル化が生活に与える影響が大きくなっています。また、バイオテクノロジーの発展に伴い、消費者が環境への配慮を重視し、環境保護のためにクリーンラベルやエネルギー低消費を商品購入の基準とする傾向の高まりが予想されます。これらの変化に対応するために、欧州企業はバイオベンチャーへの投資を通して研究開発のスピードアップを図っています。電気自動車も重要なキーワードで、従来の自動車産業以外からの参入による競争激化が予想されます。

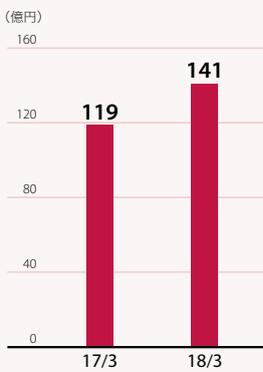
2018年3月期の業績

2018年3月期の業績は非常に好調でした。カラーフォーマービジネスはEUの厳しい環境規制の影響を受けて落ち込んだものの、その他のビジネスが目標を大幅に上回りました。医薬品は堅調に成長し、注力分野のカーエレクトロニクスも収益に貢献しました。

2019年3月期の戦略展開

欧州発のビジネスを、日本からの輸入が中心の旧来のビジネスに並ぶ第二の収益源として育てるべく、積極的な投資を進めています。注力分野はバイオ関連になり、投資対象の調査に着手しています。並行して、NAGASEグループのネットワークを活用した高機能製品の欧州への輸出にも取り組んでいます。

売上高



TOPICS フランスにリヨン支店を開設 化粧品分野に注力



3D皮膚モデル

リヨンは化粧品業界から大きな注目を集める都市のひとつで、名だたる大手メーカーが研究設備を設置しています。こうした企業に日本から輸入している化粧品原料の紹介を始めるとともに、原料の機能をより深く理解してもらうために、3D皮膚モデルを使った評価を行う体制を構築中です。



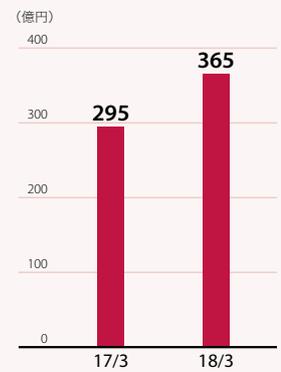
米州



Nagase America Corporation CEO 兼  
COO 兼 Nagase do Brasil Comércio de  
Produtos Químicos Ltda. CEO 兼  
Nagase Enterprise Mexico S.A. de C.V. CEO

内田 龍一

売上高



TOPICS

ケミカル・ディストリビューター  
の株式取得



Fitz Chem 社の販売テリトリー

安定成長を続ける米国、製造拠点として注目されるメキシコ、将来のポテンシャルを秘めた南米に、4つの販売会社(7拠点)と6つのグループ製造会社があります。2017年に新たにケミカル・ディストリビューターの株式を取得し、域内グループ販売機能が拡大しています。

### ◎主要市場の動向

米国の自動車生産台数は前年を下回ったものの、引き続き高い水準を継続しています。今後はあらゆる部品、原材料の現地生産化への対応に注力するとともに、環境に配慮した事業へも注力していく方針です。年々強まる健康志向によるライフスタイルの変化に対応した食品素材にも着目し、北米のみならず、中南米でのマーケティング活動を強化していきます。

### 2018年3月期の業績

主要事業である自動車材料事業が引き続き好調に推移し、同時に3D印刷関連事業などの新しい分野でビジネスが拡大しました。新興市場においてはメキシコでのビジネスが順調に成長し、南米においてはブラジルを中心に、アルゼンチンなど隣国への事業が拡大しました。今後成長が見込まれる北米スペシャリティケミカル事業拡大のための投資を実施し、米州における事業拡大に大きく貢献しました。

### 2019年3月期の戦略展開

事業ポートフォリオ戦略の入れ替えを実施しながら、注力事業に経営資源を集中していきます。中南米の新興市場へのビジネス拡大、グループ製品の拡大、現地生産化プロジェクトを推し進めることでより顧客ニーズに適した事業展開を進めていきます。また投資をした企業の事業基盤の強化とシナジー事業の構築により、現地主導のビジネスを増やしていきます。域内での投資サポートおよびシェアードサービス機能の充実を図り、運営基盤の強化にも注力していきます。

米国で今後成長が見込まれるスペシャリティケミカル分野において、30年の歴史を持つケミカル・ディストリビューターであるFitz Chem社の株式を取得しました。これにより1,000社を超える顧客基盤および北米での販売・物流網を獲得しました。今後このプラットフォームを軸に、本市場でのビジネスを拡大させていきます。



## 韓国



Nagase Korea Corporation CEO 兼 COO

### 山崎 英治

韓国は輸出主導型の経済構造で、代表する企業は積極的な投資とグローバルスピード経営で目覚ましい成長を遂げています。FTAでの欧米中ASEANへのアクセス優位性や新興国進出実績も高く、国際的に重要な位置付けとなっています。

### ◎主要市場の動向

半導体業界は超高速メモリの量産が開始され、3Dメモリ技術で新たな成長基盤を構築しています。ディスプレイではスマートフォンのOLED\*の採用がさらに拡大し、世界の中小型OLEDではほぼ韓国が独占し、フレキシブルの開発も進んでいます。

\*OLED: 有機発光ダイオード

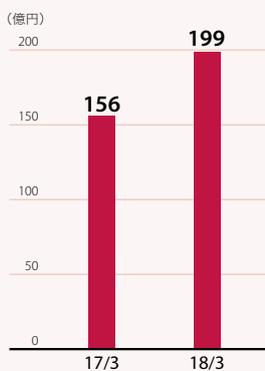
### 2018年3月期の業績

半導体、電子部品、ディスプレイ関連で伸ばしました。特に韓国企業のアジア、欧米展開に伴い、海外現地法人との連携も積極的に行い、さらなる飛躍のための土台づくりができました。

### 2019年3月期の戦略展開

「韓国主導型事業の創出・拡大で利益貢献」を掲げ、電子関連ビジネスに加え、生活関連事業(特に林原事業)が拡大しており、さらに韓国製樹脂の販売体制を構築し、それらを中心に各地の現地法人との連携が強化され、韓国発信ビジネスが拡大している未来を描いています。地域では、ベトナムを開発特定地域と定め、将来有望なプロジェクトを進めていきます。

### 売上高



### TOPICS 韓国発信ビジネスの拡大へ

スペックイン活動からのグローバル展開、OLED関連材料や半導体プロセス材料、電池材料、化粧品原料などの韓国企業が得意とする製品や、NAGASEグループ製品の取り扱いの拡大を目指していきます。



12 つくる責任 つかう責任



## ナガセケムテックス株式会社



ナガセケムテックス(株)  
代表取締役社長

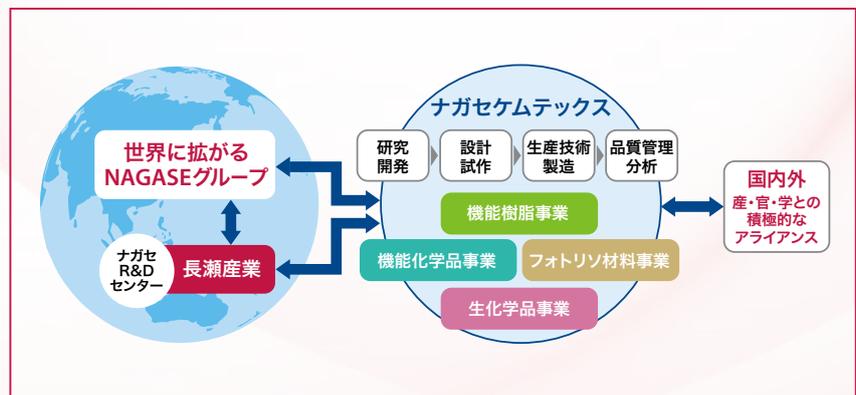
磯野 昭彦

当社はエレクトロニクス、環境・エネルギー、バイオの分野において、ユニークな製品を提供する化学メーカーです。長年にわたり蓄積してきた独自のコア技術を駆使して、ユーザーのニーズに対応した高機能・高付加価値製品を開発しています。NAGASEグループの製造機能の中心的役割として、安全衛生、法規管理などの面でも先導しながら、さらなる事業展開を図ります。

### ◎主要市場の動向

エレクトロニクス分野では、スマートフォン市場は鈍化傾向にあり、大型LCDパネル市場も縮小が続いています。一方、電子機器全般で半導体需要は拡大しており、関連製品は堅調に推移しました。また、食品分野では、機能性表示食品市場が急成長していることから、酵素生産物の広がりが期待されます。

### 売上高/営業利益



### 2018年3月期の業績

2018年3月期は、売上高259億6千万円(前期比1%増)、営業利益は29億6千万円(前期比0.3%増)となりました。エレクトロニクス分野において、高周波デバイス用中空封止シートや導電性

コーティング材が低調だったものの、フォトリソグラフィ用薬液が好調に推移したことにより、売上、営業利益とも前期をやや上回りました。

### 生産体制

生産計画の精度および生産収率の向上など、生産合理化を推進しています。また、全従業員の継続的な安全意識の向上を目的に、2017年11月から就労年数に応じた安全体感研修を開始するとともに、グループメーカーに対しても積極的に展開しています。また2017年3月に導入した汚泥減容化設備を本格稼働させたことにより、工場排水処理コストの大幅な削減を実現しました。



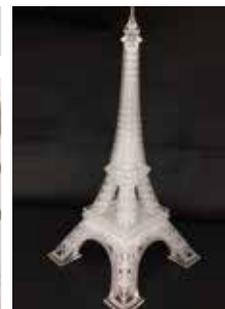
安全体感研修にて足場不良での歩行体感研修の様子

## 新規事業開発

研究開発本部を新規事業開発本部に改組し、注力分野における事業化に邁進しています。新たに企画室を設置し、国内・外の大学や企業との連携を含めた事業企画機能を強化しました。2018年3月期の成果として、次世代ものづくり分野では、3Dプリンター用樹脂の製品供給を開始し、さらに低温焼結型配線インクのサンプル提供にも着手しています。バイオマテリアル分野では新たに生体模倣表面を形成するポリマー材料の開発を進め、サンプル供給を開始しました。



低温焼結型配線インクの印刷テスト例



3Dプリンター用樹脂の高精細造形

## 2018年3月期の事業概況

### 機能樹脂事業

高度なエポキシ変性技術をベースに、環境・省エネルギー・半導体分野などへの展開を図っています。カーエレクトロニクス部品用樹脂、低消費電力用チップ部品コーティング材および新規パッケージ用半導体液状封止材が特に伸長しました。独自の新材料開発や新規用途開拓にも注力しており、各種外部機関との共同開発も積極的に進めています。

### フォトリソ材料事業

液晶・半導体の前工程用薬液ビジネスで培った技術をベースに開発と生産活動を行っています。2018年3月期はディスプレイ用剥離液、現像液および半導体用剥離液の売上が伸長、フォトレジストの販売が堅調に推移し、増収となりました。新規開発では半導体中間工程用の製品ラインアップを拡充しました。また、中国では第二の製造拠点を立ち上げ、新たな需要に対する供給体制を整えました。



中国第二工場

### 機能化学品事業

有機合成技術、重合技術および配合技術をベースとした高性能材料の製品開発と生産活動を行っています。2018年3月期はエピクロロヒドリン誘導体や有機化成品の販売が堅調に推移し、増益となりました。導電材料事業においては、イノベーションパートナーとの関係強化により、ディスプレイ周辺用途や調光フィルム用途における新規開発テーマが着実に前進しました。



調光フィルム

### 生化学品事業

食品分野の製菓・製パン、卵・レシチン用途に注力し、新製品のラインアップを充実させています。さらに、国内だけでなく、海外でも自社開発酵素を核に事業を拡大しています。

また、主力製品であるラクターゼについては、コーシャ／ハラール対応開始に伴う販売拡大と生産取量の向上に取り組み、収益改善に大きく貢献しました。



食品用酵素の応用例

## 2019年3月期の戦略展開

中期経営計画「ACE-2020」の最初の2年間で事業部制に完全移行して社内バリューチェーンを整備し、コスト削減を徹底するなどして体質を強化しました。3年目の2019年3月期は、素材提供型ビジネスからソリューション提供型ビジネスへの転換を

推進すること、M&Aによる技術獲得・拠点獲得の探索を継続して実行することにより、既存事業の拡大および新規事業の創出を目指します。

# 株式会社 林原



(株)林原  
代表取締役社長

安場 直樹

当社は、バイオ技術を活かして製造した糖質素材を食品分野、化粧品分野、医薬品分野などに販売する糖質事業と、有機合成技術を活かし、写真やディスプレイなどの工業分野、医薬品や検査薬などのライフサイエンス分野に製品を提供するファイン&ウェルネス製品事業を展開しています。

### ◎主要市場の動向

当社の製品は、B to B分野で、物性面のみならず機能性においても高く評価されています。国内外の食品・化粧品分野をはじめ、医薬や工業用途にも広く使われています。食品分野では、特定保健用食品(トクホ)制度に加え、機能性表示食品制度に必要なシステムティックレビューを積極的に作成し、顧客の商品開発をサポートする体制を整えています。

### 売上高/営業利益



機能性糖質製品群



機能性色素(蛍光色素)

### 2018年3月期の業績

2018年3月期の売上高は、機能性素材の伸長、インバウンド需要の復調を受け、243億9千万円(前期比2%増)と前期を上回りました。また、主要原料およびエネルギー費の低下により製造コスト

が抑えられたことなどから、営業利益は50億3千万円(前期比9%増)となりました。

### 生産体制

旧岡山第一工場の後継となる2つの新工場が稼働を開始し、さらに「トレハ®」を製造する岡山機能糖質工場・T棟の能力拡張工事が完了しました。今後、高品質な製品のグローバルな安定供給体制の確立、世界基準の食品安全および品質保証を推進していきます。

当社は、自社のエンジニアリングによる製法改善やエネルギー効率の向上を進めるほか、FSSC 22000(食品安全)、ISO 9001(品質)、GMP(Good Manufacturing Practice)に基づく品質保証体制を確立しています。また、海外顧客の要望に応じて、コーシャ/ハラールの認証取得が進んでいます。



「トレハ®」を製造する岡山機能糖質工場・T棟



食品マネジメントシステムに関する国際規格(FSSC 22000)登録証

## 研究開発体制

長年のノウハウを活かした微生物スクリーニング技術により、目的にあった新規酵素の探索と、酵素を用いた新規糖質の開発に取り組んでいます。また、独自の評価系の構築によるニーズにあわせたエビデンス取得により、顧客と連携した応用開発にも努めています。一方で積極的に知財登録を進め、顧客に安心して製品をお使いいただける体制を構築するとともに、知財防衛面やライセンス面でも戦略的な活用を進めています。さらに、ナガセケムテックス(株)、ナガセR&Dセンターと連携した研究開発を推進しています。



研究部門：実験室

(一社)大阪工研協会の  
工業技術賞を受賞



## 2018年3月期の事業概況

### 糖質事業

基盤分野である国内食品分野で「トレハ®」「サンマルト®」「ハローデックス®」等の基幹商品の需要が堅調であったほか、高機能性素材である「アスコフレッシュ®」の酸化防止効果や、「林原ヘスベリジン®S」の血中の中性脂肪低減効果、「理気」の作用による血流改善効果に対する評価が進み、採用事例が増加しました。さらに新生・林原初の新製品である水溶性食物繊維「ファイバリクサ®」(イソマルトデキストリン)も順調に採用件数を増やしています。

海外食品分野では、複数の中国メーカーによる市場参入がありましたが、新規案件は増加しました。

香粧品素材分野では、インバウンド需要の復調により国内はやや増加しましたが、海外は低調に推移しました。

医療・医薬分野では、カプセル用途で需要が増大したプルランが好調に推移しました。



洋菓子講習会



水溶性食物繊維「ファイバリクサ®」  
水溶性多糖「プルラン」とそのカプセル

### ファイン& ウェルネス製品 事業

写真・印刷刷版などの色素の工業分野への販売が減少しましたが、検査薬などのライフサイエンス分野は堅調に推移しました。今後成長が期待される偏光板などディスプレイ分野向けの色素の開発を進めています。一方、第3類医薬品の「ルミン®A」は、販売会社との協力体制の強化により復調し、前期の売上を上回りました。



「ルミン®A」のPR実施例(岡山市役所)



「ルミン®A」のWebページ

## 2019年3月期の戦略展開

中期経営計画「ACE-2020」では成長市場と領域を明確にしたグローバルな事業展開を基本としています。食品分野の国内外販売組織を統合し、新規用途開発を進め、成長市場である海外向けの製品ラインアップを拡大します。また機能性素材の用途開発および機能検証を進め、市場で展開していきます。

生産面では、岡山を技術開発と生産の拠点として強化する一

方、原料調達および競争優位の観点から、海外生産の可能性について検討していきます。

研究開発面では、独自素材の探索を基盤とし、既存自社素材を含めた開発を進め、「人が健康で幸せに生活する社会」の実現に貢献します。

## NVC (New Value Creation) 室



NVC (New Value Creation) 室 室長  
折井 靖光

NVC室は、NAGASEグループのイノベーションを推進し、新しい価値を創造することで将来のビジネスの核を作ることを目的として、2017年4月に設立されました。IoTやAIなどのIT業界の潮流変化を取りまとめ、今までNAGASEグループになかったビジネスの仕組みを企画・立案し、その実行に向けて各事業部への展開を行っています。

2017年1月から、IBM社が異業種企業との研究開発を促進するために設立したIT基礎研究コンソーシアム IBM Research Frontiers Institute (RFI) の設立メンバーとして参画しています。

### ◎組織の目標

- IBM社が主催するコンソーシアム「IBM Research Frontiers Institute (RFI)」から得られる技術を使い、5～10年先を見据えた新しいビジネスを構築する
- AI、IoTを支えるハードウェア技術の潮流を見極め、常にパラダイムシフトをリードする存在となる

### ◎組織体制

- 各事業部、グループ会社および関連会社の間でシナジー効果が得られるフレキシブルな組織体制づくりを目指す

## 主要プロジェクト

### プロジェクト ①

#### バイオとエレクトロニクスの融合

ビッグデータとAIによりITの活用がますます重要視されていく中、消費電力の問題がクローズアップされています。低消費電力の技術を考える上で、生体のメカニズムをエレクトロニクスへ応用する方法が注目されています。NVC室では、RFIのコンソーシアムを通じ、人間の脳を模倣した超低消費電力デバイスの開発への貢献、バイオミミリー (bio-mimicry: 生物模倣) を応用した製品の開発など、バイオとエレクトロニクスの融合を意識した“Bio-Inspired Technology” をテーマに開発活動をしていきます。

### プロジェクト ②

#### 半導体用設計技術「Axonerve™ IPコア」の市場開拓

AI、IoT、5Gなどの技術革新を支えるデータセンタでは、大規模かつリアルタイムなデータ処理が重要になっており、近年ではハードウェアによる処理の高速化がトレンドになりつつあります。

NVC室は、国内研究機関と独自開発した「検索」に特化した半導体用設計技術「Axonerve™ IPコア」を使い、ハードウェア(FPGA)を使った計算処理アクセラレータのひとつとして展開するべく、FPGAベンダー、開発プラットフォームベンダーとともに市場開拓に取り組みます。

## 今後の方向性

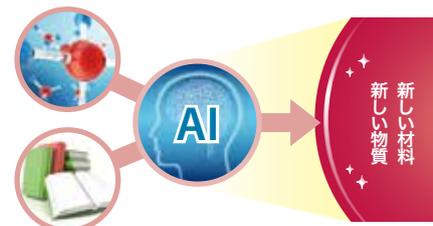
NAGASEグループには様々な材料メーカーとのネットワークがあります。日本の材料メーカーは世界でも大きな強みを持つ一方、IT (AI)を使用した開発・研究は遅れを取っているのが現状です。

業界に先んじたNVC室のプロジェクトを通じて、AIを駆使したマテリアルズ・インフォマティクスのシステムの構築、バイオとエレクトロニクスの融合による新しい技術の創出、独自IPの構築を推進していきます。

### TOPICS マテリアルズ・インフォマティクスの可能性の追求

マテリアルズ・インフォマティクス(MI)は、材料分野において最も注目を浴びている技術のひとつであり、材料開発の期間やコストの削減、革新的な素材の発見を実現する可能性を持っています。これを具現化するには、研究機関や企業等に長年蓄積されたデータを収集し、データから抽出した情報をどのように知識化していくかが鍵となります。

この課題に取り組むため、NVC室はRFIコンソーシアムのAccelerated Materials Discoveryプロジェクトに参画しています。このプロジェクトでは、AIをベースとして膨大な文献情報を読み込み、データを知識化する「コグニティブアプローチ」、構造や物性値を予測モデルから理論的に推定する「アナリティクスアプローチ」の2つの手法の開発が進んでいます。NVC室は、IBMの3つ研究所と密接に連携して技術習得に取り組んでおり、近い将来NAGASEのビジネスに利用可能なシステム構築を目指しています。



## ナガセR&Dセンター



ナガセR&Dセンター センター長

劉 曉麗



ナガセR&Dセンター



エルゴチオネインの  
発酵生産特許証書

ナガセR&Dセンターは、グループ全体でバイオ関連事業を研究開発段階から推進していく機能を担っています。独自の発酵技術を利用して、「安全」「安心」「環境配慮型」のケミカルや素材の生産過程にイノベーションを起こし、新事業の芽を創出し続けることをミッションにしています。“Unavailable Made Available in a Sustainable Way”が研究のコンセプトです。

### ◎主要機能

- 独自のバイオ関連技術開発：多岐にわたる学問分野の知識の集約と最先端技術の融合（N-STePP®: Nagase Streptomyces Technology for Precious Products）
- 新事業の企画開発：バイオ技術を駆使して低環境負荷で効率の良い有用物質生産を可能に（分野：バイオケミカル・機能素材）
- バイオ関連技術に対する評価・導入

### ◎保有技術

- 基盤技術：遺伝子工学、代謝工学、発酵工学、バイオプロセス工学、生物情報学等
- コア技術：放線菌を用いた物質生産技術、代謝工学を利用した菌株改良技術

### 2018年3月期の主要な成果

- 安定、安全かつ強力な抗酸化希少アミノ酸エルゴチオネインの発酵生産法の確立（特許取得）
- 金属内包かご状たんぱく質の製造方法（特許出願）
- 培養槽用OTRシミュレータの開発についての学会発表（化学工学会第83年会）
- 広島大学と共同でオーランチオキトリウム属を利用した物質生産に関する学会発表（第69回日本生物工学会大会、日本農芸化学会2018年度大会）
- バイオ色素の発酵生産のマイルストーン（Proof of Concept）をクリア
- 機能性化粧品素材の発酵生産に成功

### 2019年3月期の戦略展開

ナガセR&Dセンターは、「人々が快適に暮らせる安心・安全で温もりある社会」の実現に向けて、合成生物学の複合分野をコアに独自の微生物発酵技術を育成するとともに、その技術の産業化に向けて持続的にテーマを企画立案し、新しい事業の芽を育みます。2019年3月期には、グループ内外の共同開発パートナーと力をあわせて、現在開発中の機能性素材・材料の早期商品化を目指します。



### 知的財産の管理・運用

ナガセR&Dセンター内の知財専任部隊が、本社知財支援チームと連携して、研究開発・技術開発の成果を知的財産として獲得するとともに、事業展開を見据えた特許戦略を立案し、事業戦略の観点から研究開発を推進していきます。

	2018年3月期		累積（～2018年3月期）	
	国内	海外※2	国内	海外※2
特許出願※1	6件	2件	891件	442件
特許権※1	4件	0件	210件	208件

※1 当社および(株)ナガセビューティケアを名義とする件数です。  
ライセンス・その他知的財産権の件数は含まれません。

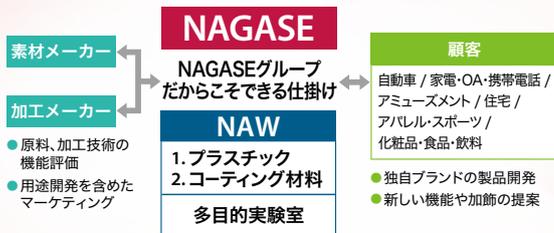
※2 国際特許出願の件数も含まれます。

## ナガセアプリケーションワークショップ



ナガセアプリケーションワークショップ 所長

浅川 哲也



ナガセアプリケーションワークショップ(NAW)はプラスチックおよびコーティング材料分野でのグループ内の試験評価機関であり、新技術の実験場・集積場として、技術トレンドのアンテナ機能を発揮しています。また独自基盤技術開発を進め、グループ製造会社との協業により新事業創出に貢献しています。

### ◎主要機能



#### 1.プラスチック

2軸押出機、射出成形機、各種評価分析機器を使用した樹脂材料分析、コンパウンド配合処方開発、成形品試作および物性評価などの機能  
【設備】・2軸押出機(15mm / 18mm / 26mm)・射出成形機(80t / 110t)・Tダイ押出機・プレス成形機・各種分析装置・各種物性測定機など



#### 2.コーティング材料

各種加工設備、評価分析機器を使用したコーティング材料分析、塗料・インキ配合処方開発、試作および物性評価などの機能  
【設備】・乾式塗装ブース・分散機(ペイントコンディショナー、横型、縦型ビーズミル)・UV照射機乾燥オープン・各種環境試験機



#### 3.多目的実験室

NAGASEグループ内の新規事業開発をインキュベートする拠点として、事業部や関係会社の専門技術スタッフをNAW多目的実験室へ派遣することで、NAWの設備とスタッフによる技術サポートが有効活用され、事業開発のスピードアップにつながっています。

### 開発実績

2018年3月期も市場ニーズに応じた様々な応用技術開発で、顧客、素材メーカー、加工メーカーからの相談および依頼を受けました。年間の来訪は200社を超え、300件を超える試験開発依頼に対応しました。知財活動では特許出願\* 13件と権利化(国内6件、海外2件)を達成しました。また、グループ外企業や大学など外部研究機関との連携も積極的に推進しました。

\*2018年3月期の件数です。当社主義の件数であり、ライセンス、その他知的財産権の件数は含まれません。

#### プラスチック分野

- 自動車業界での部品メーカー(Tier1、Tier2)との成形用樹脂材料の開発。軽量化、高級加飾検討、耐すり傷性改良など
- 加工性に優れた高摺動ポリエチレンの開発
- 化粧品、医療品、食品関連でも利用可能な透明・高剛性樹脂の開発

#### コーティング分野

- 「さびで錆を制す」防錆塗料「PatInaLock®」、塗料のVOC\*を大幅に削減する「炭酸ハイブリッド®塗装システム」の開発や、新たな塗料原料の開発により業界が求める新規意匠を提案
- \*揮発性有機化合物

### 2019年3月期の方針

プラスチックおよびコーティング分野での顧客・サプライヤーの開発パートナーとして、営業技術サポートを継続強化し、NAGASEグループの付加価値向上に貢献していきます。

2019年3月期は、事業部や国内外の関係会社と共同で進めている新規事業開発をさらにスピードアップし、特に「炭酸ハイブリッド®塗

装システム」や高摺動ポリエチレンなどの事業化を目指します。

また、引き続き国内外の新しい要素技術・機能性材料を誰よりも早く見つけ、的確な処方とともに顧客に提案できるNAGASEグループ独自の技術に育て、市場での事業拡大に貢献していきます。

### TOPICS 「P2i社製撥水ナノコート装置」を導入

主にスマートフォン向けに採用されているP2i社(英国)の撥水ナノコーティング技術を、ヘッドホン等の電子機器、医療機器、その他新規分野へ展開するにあたり、日本国内におけるデモ実施、サンプル作成が行えるようP2i社の撥水ナノコート装置をNAWに設置しました。

近年、薄型化、狭額縁化ならびに3D形状へと進化を遂げるスマートフォンは、液体に対するメカニカルプロテクションがますます難しくなっています。P2i社が特許を保有する独自のハルスプラズマ蒸着加工は、三次元製品の外部および内部に撥水性コーティングを行うことでデバイス全体を保護すると同時に、デバイス内部のPCBAや他部品に浸透して、水、塩分、油分、湿度などによる腐食からデバイスを守ります。





## 人権・労働慣行

### 人権の尊重

NAGASEグループでは、「NAGASEグループコンプライアンス行動基準」を制定し、「人権の尊重」と「あらゆる差別的取り扱いを禁止」しています。グローバルに事業を展開するNAGASEグループは、各国地域の歴史・文化・慣習を尊重し、人種、信条、性別、宗教、国籍、言語、身体的特徴、財産、出身等の理由で嫌がらせや差別をしません。この「NAGASEグ

ループコンプライアンス行動基準」は、日・英・中・ドイツ語に訳され、冊子にて配布および社内イントラネット上に公開し、国内外含めた全グループ社員の遵守事項としています。また、差別的取り扱いにかかわる問題発生時には、迅速に調査し、被害者の救済と加害者の懲戒など再発防止に向けた断固たる措置をとっていきます。

### ダイバーシティ

#### ダイバーシティに対する考え方

NAGASEグループでは、ダイバーシティを重要な企業戦略のひとつとして位置付けています。多様な社員の発想・視点を尊重することで社内における議論を活発化し、新たな発想を生むことが対外的な競争優位性の源泉となり、結果としてNAGASEグループの発展、社員一人ひとりの成長につながると考えています。



#### ダイバーシティへの取り組み

当社におけるダイバーシティへの取り組みは、2009年3月期に「ダイバーシティ推進委員会」を立ち上げたことにより実質的にスタートしました。2018年3月期は「将来像を踏まえたロードマップの策定」をテーマとし、NAGASEグループにおけるダイバーシティの将来像を考えると同時に、中期にわたるロードマップの作成に取り組みました。経営層からの発信の強化やグループ内への啓蒙を中心として、継続的にダイバーシティを推進していくことを確認しています。

#### 「ダイバーシティ推進テーマ」

##### 1. 社内啓蒙の観点

- ① 定期的な経営層からのメッセージ・関連情報の発信
- ② NAGASE経営理念・NAGASEビジョン・NAGASEウェイの全グループ社員への浸透

##### 2. 組織・個人の多様化の観点

- ③ グローバルコミュニケーションの向上
- ④ キャリア形成支援
- ⑤ 外国人・女性総合職の継続採用および環境整備

##### 3. 働きやすい職場づくりの観点

- ⑥ 業務継続性・生産性向上に対する意識・取り組みの活発化
- ⑦ 介護等制約のある社員への支援

視点の違う  
社員の意見交換

自由な議論の  
展開

付加価値のある  
新たなアイデアの共有

取引先への  
新しい提案

会社の発展や  
社会への貢献

## ワークライフバランス

### ワークライフバランスに対する考え方

「ワークライフバランス」はダイバーシティの推進に必要な手段と考えています。多様な人財が働きやすい職場環境を整え、「ワーク」と「ライフ」のバランスが取れた働き方を可能にすることが会社・社員双方の利益になると捉え、意識改革・制度の整備などを行っています。

### ワークライフバランスへの取り組み

労使共同で毎月開催する衛生委員会では、「柔軟な働き方」「有給休暇の取得の促進」「時間外労働の削減」を主要な課題とし、社員を対象とした職場・勤務環境に関するアンケート結果も活用しながら、より働きやすい職場環境の構築に向けて協議を重ねています。

## 人財開発

### NAGASEグループ人財開発ポリシー

#### ● NAGASEグループにおける人財開発の考え方

NAGASEグループの人財開発は、現場での業務遂行や配置転換などにより、より深く幅広い知見や能力を体得する“OJT”と、研修や自己学習などにより、知識やスキルを習得する“Off-JT”を有機的に組み合わせることを基本としています。

当社では現場でのOJTを促進する各種施策の実施と同時に、若年層向け階層別研修や統括者向け研修など、役割に応じて必要な知識・スキル習得の施策を実施しています。

#### ● グループの総合機能を発揮するための一体的な人財開発

NAGASEグループの総合機能の発揮に向けて、グループ合同での階層別研修や、海外現地スタッフ向け研修等の充実を通じて、グループ一体となった人財開発を目指しています。

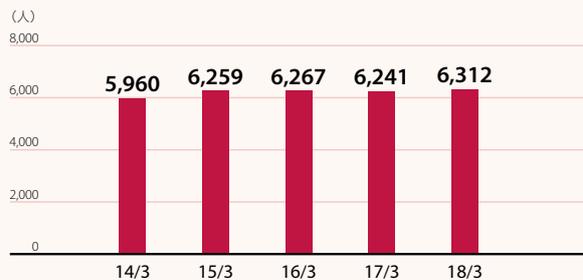
### 当社における重点施策

#### ● マネジメント力および経営リテラシーの強化とグローバル人財の育成

様々な育成施策の中でも以下の3点が大きなポイントとなっています。今後も外部環境の変化やNAGASEグループの戦略にあわせ、必要な見直しを図っていきます。

① グローバル化の推進	海外現地法人やビジネススクールへの派遣、異文化理解プログラムの実施、英語学習支援の実施。
② マネジメント育成	他流試合を通じた意識向上施策(各種ビジネススクール派遣、MBA基礎知識習得プログラムへの派遣など)の活用促進。
③ 共通の価値観浸透	各階層別研修における共通の価値観浸透研修、統括者対象の共通の価値観浸透ワークショップ、サーベイの実施。

グループ会社従業員の推移  
(連結子会社のみ)



#### ナガセグローバル人財開発センターの活用

NAGASEグループでは、持続的な成長に向けた人財育成拠点として、「ナガセグローバル人財開発センター」(東京都渋谷区千駄ヶ谷)を2014年5月に開設しました。2018年3月期は、会議(事業部合同会議、グローバル会議、中期計画会議など)や研修(人事研修、グループ会社研修、インターンシップ研修など)に利用し、入館者は延べ4,496人、宿泊室利用は1,172室、研修会議開催回数は156回でした。

#### 主な研修参加者

研修名	2016年3月期	2017年3月期	2018年3月期
階層別研修	796人	699人	547人
うち、海外研修	19人	11人	15人
選抜型研修	8人	20人	7人
海外ナショナルスタッフ ビジネスリーダー 育成プログラム	37人	36人	33人

人財開発体系図

役職	マネジメント職掌			海外ナショナルスタッフ	役職	スペシャリスト職掌		
	必須研修	選抜研修	公募研修			必須研修	選抜研修	公募研修
部統括以上		国内外ビジネススクール		NMP <sup>※1</sup>	部統括相当			
部統括候補 課統括	キャリア研修Ⅱ	NMP <sup>※1</sup>	国内ビジネススクール		GMP <sup>※2</sup>	課統括相当	キャリア研修Ⅱ	国内ビジネススクール
	マネジメント研修	新任統括者研修		スペシャリスト研修				

※1 NAGASE Management Program  
 ※2 General Management Program

役職	キャリア・ディベロップメント職掌			海外ナショナルスタッフ
	必須研修	選抜研修	公募研修	
課統括 課統括候補	キャリア研修Ⅰ			BMP <sup>※3</sup>
課統括候補 担当	MBA基礎習得プログラム 実務研修	海外ビジネス実務研修	MBA基礎習得プログラム	
担当	リーダーシップ研修			
	2年目フォローアップ研修			
	基礎実務講座 導入研修			
内定者	内定者研修			

※3 Basic Management Program

役職	アシスタント職掌		
	必須研修	選抜研修	公募研修
担当	昇格PA研修・PA会		
	昇格AA研修		異業種交流会
	BIP <sup>※4</sup>		
	Excel研修		
	ビジネススキル研修		
	導入研修		

※4 Business Improvement Program



Basic Management Program



リーダーシップ研修

# 環境

## 環境マネジメント

### NAGASEグループ環境マネジメント体制

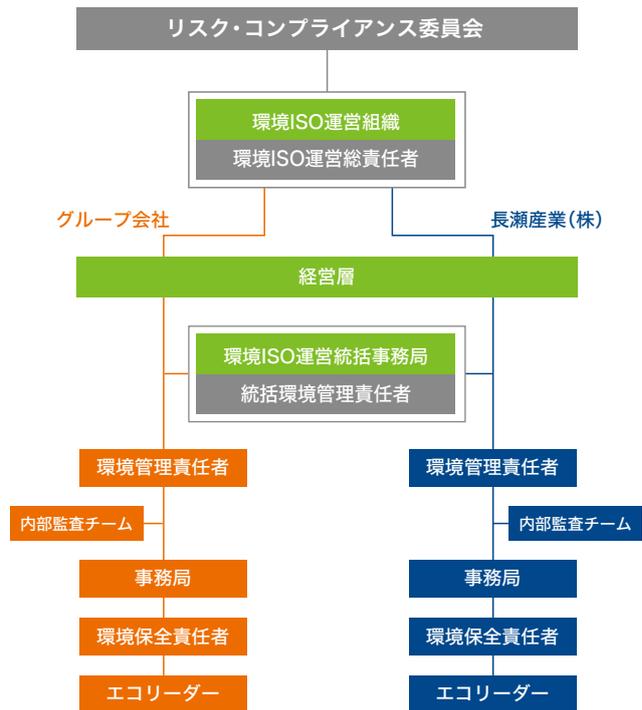
NAGASEグループにおける環境マネジメント体制は、1999年5月に当社において地球環境委員会(現・リスク・コンプライアンス委員会)を設置したことに始まります。同委員会で環境マネジメントシステムの国際規格であるISO14001認証取得の助言・支援を行い、現在、当社に加え、ナガセケミカル(株)、ナガセプラスチック(株)、ナガセ研磨機材(株)、西日本長瀬(株)、ナガセエレクトクス(株)、オー・ジー長瀬カラーケミカル(株)が環境ISO運営組織下にて活動を行っています。また、国内のグループ会社では、ナガセケムテックス(株)、ナガセ医薬品(株)、東拓工業(株)、ナガセテクノエンジニアリング(株)、ナガセテクノサービス(株)、福井山田化学工業(株)が独自で認証を取得しています。今後も認証取得グループ会社で、環境マネジメントシステムの継続的改善活動を推進していきます。

### 環境マネジメント活動の展開

①環境配慮型ビジネスの推進、②省エネ活動の推進、③業務効率の向上など、日々の事業活動の中から環境マネジメント活動の展開を図っています。

環境配慮型ビジネスについては、全社重点分野のひとつとして「環境・エネルギー」技術を活用した事業の創出・拡大を目指し、持続可能な「循環型経済社会」「低炭素社会」の実現に向けた商品・サービスを迅速に提供する体制の強化を図っています。

### 環境マネジメント体制



また、省エネ活動としては、物流効率の推進によって環境負荷低減に寄与すべく、物流伝票データを利用して国内貨物輸送量を自動計算する「NECOシステム(Nagase Energy Calculation Online System)」を開発し、2008年8月から運用を開始しています。

当社の年間貨物輸送量とCO<sub>2</sub>排出量の算出のほかに、CO<sub>2</sub>排出量削減のための最適な輸送ルート进行分析し、輸送エネルギー削減に向けて取り組みを実施しています。

また、当社ビル内においても、省エネ・省資源活動推進に努めています。

## NAGASEグループ環境方針

### ① 環境法規制等の順守

事業活動の推進にあたっては、環境関連の法律、条例およびその他法規制等を順守する。

### ④ 環境マネジメントシステムの確立と継続的改善

環境方針達成のために、環境目標を定め、環境マネジメントシステムの構築・実施と、継続的改善に努める。

### ② 環境に配慮した事業推進

事業活動の推進にあたっては、技術的、経済的に可能な範囲で、自然生態系、地域環境および地球環境の保全に配慮した活動を推進する。

### ⑤ 環境方針の周知徹底と公表

この環境方針はNAGASEグループで働く全ての人に周知徹底するとともに、社外に対して公表する。

### ③ 社会との共生

良き企業市民として、公的機関、産業界、地域社会等と協力して、NAGASEグループにふさわしい地球環境保全活動を推進する。

## 環境負荷低減活動

改正省エネ法により、当社は一定以上のエネルギー消費事業者として経済産業局より「特定事業者」の指定を受けています。これにより、2012年3月期以降、全店のエネルギー消費量のデータ取得と集計を行い、中長期計画書、定期報告書を経済産業局へ提出しています。

また、当社の東京本社ビルと名古屋支店ビルにおいては、BEMS（ビルエネルギー管理システム）を導入しています。特に夏場の使用電力のピーク時には、設備の自動制御と省エネ運転を行い、設定した目標値内での管理を目指しています。

### ナガセテムテックス(株)における活動

NAGASEグループの中核的な製造子会社であるナガセテムテックス(株)では、「まず自らがグリーン・カンパニーであること。そして、社会をもっとグリーンに。」をスローガンとして掲げて環境活動に取り組んでいます。2018年3月期はエネルギー原単位1%以上の改善を目指し、「装置本体、製造工程、運用ルール」などの観点からエネルギー削減に取り組みました。

また、環境省が主導する温室効果ガス排出削減への取り組みである「Jクレジット制度」を活用し、これまでの省エネ活動によるCO<sub>2</sub>排出削減量を有償販売することができました。

## 環境パフォーマンスデータ

### 電力使用量

	2016年3月期	2017年3月期	2018年3月期
電力使用量(kWh)	6,110,367	6,131,628	6,068,534

### 廃棄物排出量、リサイクル率

	2016年3月期	2017年3月期	2018年3月期
廃棄物排出量(t)	217	189	194
廃棄物リサイクル量(t)	183	154	156
リサイクル率	84.1%	81.7%	80.6%

対象範囲：長瀬産業(株)  
対象期間：2015年4月～2018年3月

### CO<sub>2</sub>排出量

	2016年3月期	2017年3月期	2018年3月期
CO <sub>2</sub> 排出量(t-CO <sub>2</sub> )	2,494	3,196	3,094

### 紙の使用量

	2016年3月期	2017年3月期	2018年3月期
紙の使用量(枚数：千枚)	6,007	5,431	3,916
紙の使用量(t)	25.8	23.4	16.7

### 物流起因のCO<sub>2</sub>排出量

	2016年3月期	2017年3月期	2018年3月期
CO <sub>2</sub> 排出量(t-CO <sub>2</sub> )	1,787	1,840	2,044



# 公正な事業慣行

## リスクマネジメントおよびコンプライアンス

### リスクの認識・把握・抑制

リスクマネジメントおよびコンプライアンスを監視するため、「リスク・コンプライアンス委員会」を設置し、委員会の機能・権限を定め、役割と責任を明確にした体制で運用しています。

リスク・コンプライアンス委員会では「コンプライアンス基本方針」を定め、グループ会社を含む全社員に対して、「NAGASE グループコンプライアンス行動基準」に沿った企業活動を定期的な研修会などを通じて徹底しています。また当社ならびにグループ会社において法令違反などの問題があると認識した場合、直ちに委員会に報告し、委員会は速やかに取締役会および監査役(会)へ報告するものと定めています。さらに、社内通報制度を導入し、グループ企業を含む役員、社員などから直接通報・相談できる窓口を設置しています。

2015年1月には、事業継続に影響を及ぼすような経営危機が発生した際に、事態の状況把握、連絡報告、指揮命令など、現場での初動からグループでの組織的な対応まで迅速かつ適正に実施できる体制の構築およびその周知徹底を図るため、「経営危機管理規程」を制定しました。

### 公正な取引に関する取り組み

#### ● 基本的な考え方

独占禁止法に関しては、課徴金のインパクトが大きいカルテル規制が大きなリスクとなるため、主にNAGASEグループの主要製造会社に対して、啓蒙活動を積極的に実施しています。

今後も公正取引関係の法律について、必要性の高い規制を中心にNAGASEグループ社員への啓蒙活動を進めていきます。また、不正競争防止法における外国公務員贈賄防止の運用強化、ならびに米国FCPAや英国BA等贈賄防止規制の域外適用に鑑み、引き続き国内外グループを対象とする贈収賄防止規制の啓蒙活動を実施する予定です。

### コンプライアンス基本方針

当社の経営理念「社会の構成員たることを自覚し、誠実に正道を歩む活動により、社会が求める製品とサービスを提供し、会社の発展を通じて、社員の福祉の向上と社会への貢献に努める」に則り、以下のコンプライアンス基本方針を制定し、実施する。

この基本方針は、当社が様々な企業活動を行っていく上で、会社および役員・社員が遵守すべき行動規範を定めるものである。役員および社員は、この行動規範に則って行動すると同時に、関係先をはじめ社内組織への周知徹底に注力する。また、この行動規範に抵触するおそれのある事態が発生した場合には、早急に問題解決を図り、原因究明と再発防止に向けた業務改善を行う。

- ① 法令・規則および社内規定・ルールの遵守
- ② 反社会的勢力の排除
- ③ 社会に有用な製品・サービスの提供
- ④ 社員の人格・個性の尊重
- ⑤ ステークホルダー(利害関係人)への情報公開
- ⑥ 地球環境の保全
- ⑦ 経営トップの責任

コンプライアンス基本方針

◎ <https://www.nagase.co.jp/csr/compliance/policy/>

#### ● 主な周知徹底活動(2017年度以降)

実施時期	対象者	実施内容・開催状況
2017年 11~12月	国内外NAGASE グループ役員・ 従業員	2017年10月改訂のコンプライアンス行動基準等に関するコンプライアンス意識調査をEラーニングにて実施
2017年 12月	(株)林原 役員・従業員	下請法へのコンプライアンス講習会 東京・岡山にて各1回実施
2018年 2月	(株)林原 従業員	独禁法へのコンプライアンス講習会 札幌・福岡にて各1回実施
2018年 2月~3月	長瀬産業(株)、 一部関係会社 課統括クラス対象	社内階層別教育プログラムにおいて、 コンプライアンス講習 東京・大阪にて各1回実施

## 個々のリスクに対する当社の具体的な施策

### ● 製品安全・品質管理

2008年10月に策定した「NAGASEグループ製品安全自主行動指針」に基づき、グループ全体での品質管理や製品の安全性確認に関するルールの策定や啓蒙活動を通じ、NAGASEグループが扱う製品の安全性確保に努めています。

また、従来型の代理店ビジネスから製造・加工ビジネスやメーカー投資といった事業形態の変化に伴い、当社が品質保証責任を負うケースが増加していることに対応し、その支援を行うべく、法務部品質マネジメント課において、仕入先・製造委託先の管理、グループ製造会社の支援、社内教育等を実施しています。

製品安全自主行動指針

◎ <https://www.nagase.co.jp/csr/compliance/product-safety-principles/>

### ● 安全保障貿易管理

安全保障貿易管理を中心とする輸出管理を適切に実施するため、安全保障貿易管理委員会を設置し「安全保障貿易管理規程」を定めています。安全保障貿易管理委員会では、輸出管理情勢および外為法等の改正動向や、グループ全体の輸出管理に関する内容を把握し、方針を決定しています。また、商品法令管理責任者会議において、安全保障貿易管理委員会の決定事項と関係法令の改正内容などを各事業部やグループ会社に指導、周知徹底するための協議などを行い、輸出管理に関する法令違反を未然に防止しています。

#### 具体的な管理の仕組み

当社独自の商品総合管理システムにより、輸出する全ての商品技術、海外顧客情報などが全てデータ化されています。さらに、外為法およびEAR（米国輸出管理規則）などの輸出許可の必要性を確認し、商品法令管理課が承認した商品のみが輸出できるようシステム化されています。

また、法令遵守から一歩進んで、軍事用途や軍関連の取り引きを原則禁止するなど、安全保障貿易管理に関するNAGASEグループ全体の方針を定めています。

#### 人財育成の取り組み

年々変化する安全保障貿易管理に対応するため、NAGASEグループでは、輸出業務に携わる従業員を中心に、安全保障貿

易情報センター（CISTEC）が実施する安全保障輸出管理実務能力認定試験の受験を推奨しています。2018年3月末現在、グループ21社で856名が「STC Associate」に合格しています。また、当社の全従業員を対象にした社内輸出管理講習会や、国内子会社・関連会社、海外現地法人を対象にした講習会も開催しており、グループ全体で人財育成に取り組んでいます。

### ● 商品関連法令への対応

国際社会における「環境・安全」に対する意識が高まる中、当社では化学品管理を含む商品関連法令管理の強化、情報の集中管理を進め、NAGASEグループが取り扱う全商品について、関連する法令・規制に適切に対応するため、業務改革推進部の商品法令管理課を中心とした管理体制を整えています。

#### 具体的な対応の仕組み

NAGASEグループでは、新たな商品を取り扱うにあたり、その化学成分や規格性能に基づいて該当法令をチェックし、前述の商品総合管理システムでグループ共有での登録管理を行っています。また、日本化学工業協会、日本化学品輸出入協会等に加盟し、化学品規制に関する情報を入手しています。アーティクルマネジメント推進協議会（JAMP）へ参加し、提供される製品含有化学物質の情報伝達ツール「MSDSplus」「AIS」などを活用して関係先への的確な情報伝達に努めています。

#### 国際的な化学物質管理のための戦略的アプローチ（SAICM）へ向けて

2002年のヨハネスブルグサミット（WSSD）で定められた実施計画では、2020年までに化学物質の製造と使用による人の健康と環境への悪影響の最小化を目指すこととされています。この理念に基づき、世界全体で化学物質管理規制の厳格化・共通化が進捗しています。

各国の法令はメーカーの最終製品にも影響するため、NAGASEグループから取引先への情報提供も重要な機能となります。このため、化学品管理規制に関連した世界情勢の動きを先取りし、取扱商品に関する化学物質情報のグローバル管理を実現させるべく、海外現地法人における商品管理のシステム化・教育・指導を推進しています。



## お客様の安心・安全のために

NAGASEグループでは、化学品の取り扱いのほかに、酵素などの食品素材や健康食品、化粧品などを、各社の品質管理や販売体制のもと、製造・販売しています。

お客様の「安心・安全・信頼」を第一に取り組むグループ会社のナガセケムテックス(株)、(株)ナガセビューティケアをご紹介します。

### グリーン・カンパニーとしての取り組み

NAGASEグループの製造機能の中核であるナガセケムテックス(株)では、「環境に負荷を与えない企業を目指す=Green Company」「環境対応型製品の開発・製造により社会全体の環境負荷低減に貢献する=Green Technologies and Products」という2つの視点に立ち、ISO 14001に基づく環境マネジメントに取り組んでいます。

近年国内外で規制強化の激しいRoHS指令規制物質やREACH規則高懸念物質のような有害化学物質の不使用などグリーン調達を推進することにより、製品ライフサイクルを通して安全に、そして安心してご使用いただける製品の提供を心掛けています。

◎ <http://www.nagasechemtex.co.jp/environment/index.html>

### 「食の安心・安全」への取り組み

ナガセケムテックス(株)にとってお客様の「食の安心・安全」に貢献することは、最も大切な活動のひとつです。食品添加物、健康食品素材を製造する福知山事業所では、ISO 9001、食添GMPに加えFSSC 22000(自主運用)に基づいて、原材料の受け入れから製造、品質管理、納品までを管理し、フードチェーンの一員として安全で高品質な製品を提供し、お客様の信頼に添えていきます。



ナガセケムテックス(株)  
福知山事業所

### 「化粧品」の安心・安全への取り組み

#### ● 基本的な考え方

(株)ナガセビューティケアでは、訪問販売組織を通じて商品を直接消費者に販売しています。肌につける化粧品や体に摂り入れる健康食品が主体のため、厳しい品質管理が求められます。何よりもお客様を大切にし、安心と安全をお届けすることを最重要に考え、商品とサービスを提供します。

#### ● 具体的な取り組み

「ハーブサイエンス&テクノロジー」をキーワードに、多彩な植物の中から安全性と機能性を兼ね備えた素材を厳選し、研究開発を行っています。研究成果である植物素材は最終製品の原料として配合され、高い品質管理体制のもとで製品化されています。

また、「お客さま相談室」を設置して販売後の製品に関するお問い合わせに対応し、お客様からの直接の声を商品やサービスの質の向上に役立てています。



# 🏠 コミュニティへの参画および発展

NAGASEグループの経営理念では、社会の構成員たることを自覚し、社会への貢献に努めることをうたっています。このモットーのもと、様々な社会貢献活動を実施しています。

## ■ 長瀬科学技術振興財団

当社は、有機化学および生化学分野の基礎研究が重要であるとの認識に立ち、科学技術の振興を図り、社会経済の発展に寄与することを目的として、1989年に(公財)長瀬科学技術振興財団を設立しました。活動内容は研究助成などで、これまで研究助成492件、国際交流支援178件(国際交流支援は2005年3月以降中止)、約12億7千万円の活動を行っています。



📄 <https://www.nagase-f.or.jp/>

## ■ TABLE FOR TWOへの取り組み

社員が会社の食堂で対象メニューを1食摂るごとに20円が寄付され、アフリカの子どもに給食1食が贈られる「TABLE FOR TWO」(TFT)に参加しています。また、会社からも社員の寄付額と同額を寄付しており、累計寄付金額は、社員・会社合計で2,917,280円(2018年4月現在)となりました。



写真提供：TABLE FOR TWO

📄 <http://jp.tablefor2.org/>

## ■ スクラム・ジャパン・プログラム

(公財)日本ラグビーフットボール協会による、ラグビーを通じた人材育成等を目的とした「スクラム・ジャパン・プログラム」の活動を支援しています。当プログラムは、今後の日本を支えていく小中高生世代に対し、ラグビーの普及活動を通じてラグビー精神である「勇気、信頼、責任、決断、連帯、誠実」を体感し身に着けてもらうことを目的としています。



📄 [https://www.rugby-japan.jp/scrum\\_japan\\_program/](https://www.rugby-japan.jp/scrum_japan_program/)

## ■ 林原美術館

グループ会社の(株)林原にて運営支援している林原美術館は、故林原一郎氏が収集した、日本を含む東アジア地域の絵画や工芸品と、旧岡山藩主池田家から引き継いだ大名調度品を中心とするコレクションを所有しています。地域および我が国の文化財研究、文化の向上に寄与しています。



📄 <http://www.hayashibara-museumofart.jp/>

## ■ 「生きた建築ミュージアムフェスティバル」への参加

当社の大阪本社は大阪市の都市景観資源に登録されています。毎年大阪市で開催される「生きた建築ミュージアムフェスティバル」に参加し、大阪の魅力の発信に協力しています。



📄 <https://ikenchiku.jp/>

## ■ 地域貢献活動

中央ぶらねっと(中央区社会貢献企業連絡会・東京都)に参画し、社員がボランティア活動(清掃活動、浜離宮恩賜庭園菰はずし等)に参加しています。

## ■ 社内献血活動

社内献血活動を東京・大阪にて年2回実施しています。2018年3月期は、社員約150名が献血に協力しました。



持続的な成長・発展に向けて、  
中期経営計画  
「**ACE-2020**」に取り組み、  
事業の拡大とグローバル化に寄与する  
経営基盤を構築してまいります。

代表取締役 兼 専務執行役員

名波 瑞郎

### 基本方針

2021年3月期までの5ヶ年の中期経営計画「**ACE-2020**」では、「収益構造の変革」と「企業風土の変革」を実現することにより、連結売上高1兆円以上、連結営業利益300億円以上、ROE6.0%以上の常態化を目指しています。ROIC(投下資本利益率)の向上をベンチマークに、税引前当期純利益率と投下資本回転率の向上に寄与する取り組みに注力しています。目標達成の重要業績評価指標(KPI)としては、「注力ビジネス拡大」「グローバル展開の加速」「製造業の収益力向上」「効率性の追求」「強固な財務体質」を設定しており、持続的な成長と企業価値の向上に取り組んでいきます。

### 資金調達

「**ACE-2020**」では5年間で1,000億円の成長投資を見込んでおり、2018年3月期の投資実績は186億円となりました。総投資額および運転資本の原資は、営業キャッシュ・フローと主に有

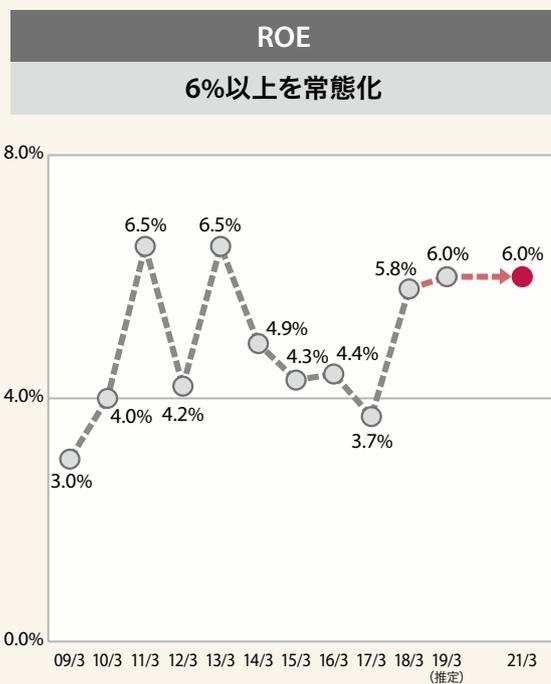
利子負債で調達しますが、運転資本の効率化や資産の入れ替え等を通じて、当社の強みである強固な財務体質は堅持していきます。財務体質の堅持に向けた指標としては、R&I((株)格付投資情報センター)で「A」以上を掲げています。

### 株主還元

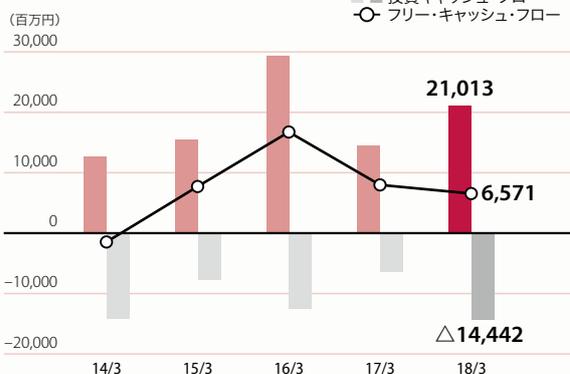
株主還元方針については、収益力の向上と企業体質の一層の充実強化を図り、連結業績連動を基礎とした、株主の皆様への安定配当を継続して行うことを基本方針とし、連結配当性向および連結純資産配当率を勘案して、1株当たり配当額の向上を目指します。

2018年3月期の配当は、期初予想では1株当たり35円としておりましたが、直近の業績および財務状況等を総合的に勘案し、5円増配の1株当たり40円(特別配当5円を含む)とさせていただきます。また、2019年3月期は、普通配当ベースで2円増配の1株当たり37円を予定しています。

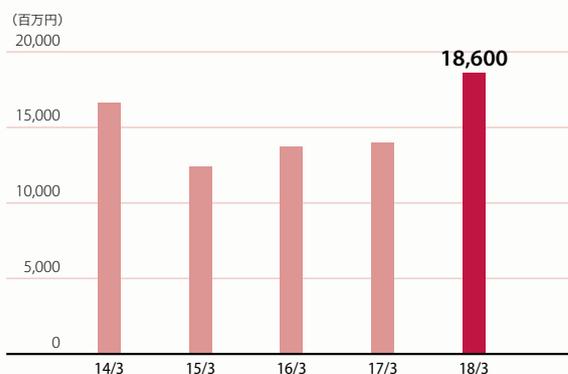
「ACE-2020」で掲げる定量目標



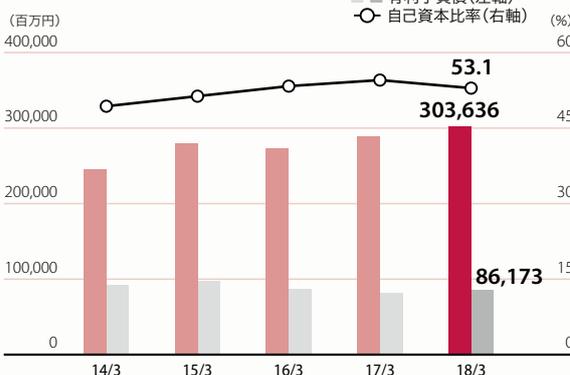
キャッシュ・フロー



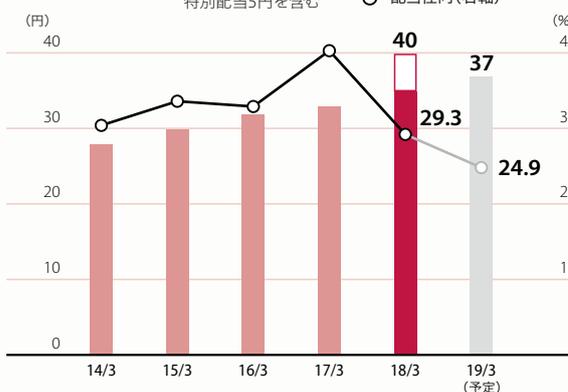
投資額



自己資本/有利子負債/自己資本比率



配当状況



# 経営成績、財務状態およびキャッシュ・フローの分析



執行役員  
財務部本部長 兼 経理部本部長  
高見 輝

## 経営成績

### 業績概況

2018年3月期の業績は、国内販売は3,954億2千万円(前期比7.1%増)、海外販売は前期と比較して円安となった影響等により3,885億円(同10.1%増)となり、**売上高**は7,839億3千万円(同8.5%増)となりました。売上総利益は、増収に伴い1,026億7千万円(同12.2%増)となりました。**営業利益**は、数理計算上の差異の償却に伴う退職給付費用が減少したこと等により241億1千万円(同60.5%増)となりました。**経常利益**は259億8千万円(同58.8%増)、**親会社株主に帰属する当期純利益**は171億7千万円(同66.2%増)となり、売上高、各利益とも過去最高を更新しました。

### セグメント別の概況

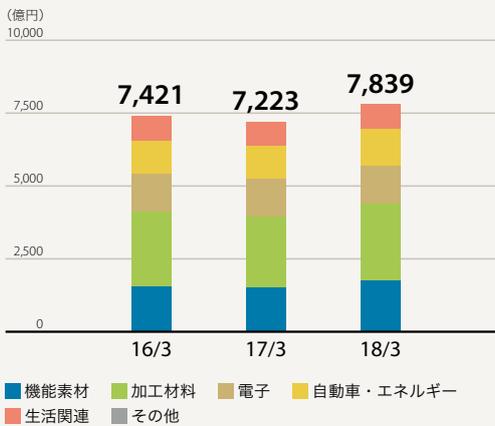
#### ■ 機能素材

機能素材につきましては、国内および海外ともに売上は増加しました。**機能化学品事業**は、国内外における自動車生産台数の堅調な推移により、塗料原料およびウレタン原料の売上が増加したことに加え、米国でのケミカル・ディストリビューターの株式取得による売上の増加があったことから、事業全体として売上は大幅に増加しました。**スペシャリティケミカル事業**は、国内では半導体関連等の電子業界向けを中心としてフッ素ケミカル、エレクトロニクスケミカル、加工油剤原料の売上が増加し、海外ではエレクトロニクスケミカル等の売上が増加したことから、事業全体として売上は増加しました。この結果、売上高は1,760億6千万円と、前期に比べ225億2千万円(前期比14.7%増)の増収となりました。営業利益は51億7千万円と、前期に比べ9億8千万円(同23.6%増)の増益となりました。

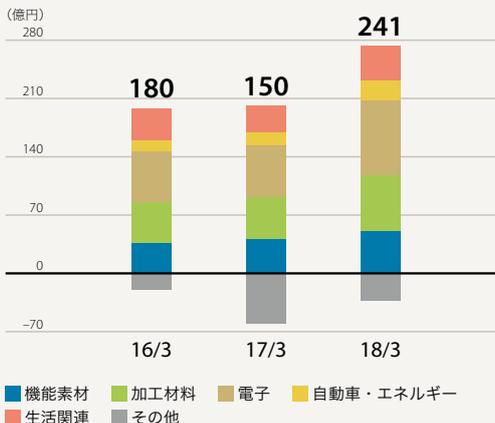
#### ■ 加工材料

加工材料につきましては、国内および海外ともに売上は増加しました。**カラー&プロセッシング事業**は、国内において工業用および包装材料用の合成樹脂、顔料・添加剤や情報印刷関連材料等の売上が増加し、海外においても印刷関連ビジネスの売上が好調に推移したことから、事業全体として売上は増加しました。**ポリマーグローバルアカウント事業**は、国内、グレーターチャイナおよびASEANにおいて売上が増加したことから、事業全体として売上は増加しました。この結果、売上高は2,628億3千万円

### セグメント別売上高



### セグメント別営業利益



と、前期に比べ202億2千万円(前期比8.3%増)の増収となりました。営業利益は67億円と、前期に比べ16億円(同31.5%増)の増益となりました。

## ■ 電子

電子につきましては、国内外の製造子会社が堅調に推移したことにより、全体として売上は増加しました。電子化学品事業は、フォトソノ材料や装置関連の売上が増加し、電機・電子業界向け等の変性エポキシ樹脂関連の売上も堅調に推移したことから、事業全体として売上は増加しました。電子資材事業は、スマートフォンのモデルチェンジにより加工部材の売上が減少したため、事業全体として売上は減少しました。この結果、売上高は1,293億2千万円と、前期に比べ16億円(前期比1.3%増)の増収となりました。営業利益は89億1千万円と、前期に比べ25億8千万円(同40.8%増)の増益となりました。

## ■ 自動車・エネルギー

自動車材料事業は、国内、グレートチャイナおよびASEANにおいて樹脂ビジネスが好調に推移したこと等により、事業全体として売上は増加しました。この結果、売上高は1,297億円と、前期に比べ167億5千万円(前期比14.8%増)の増収となりました。営業利益は24億1千万円と、前期に比べ8億7千万円(同56.9%増)の増益となりました。

## ■ 生活関連

生活関連につきましては、国内での売上は減少しましたが、海外での売上が増加したことから、全体として売上は微増となりました。ライフ&ヘルスケア製品事業は、食品素材分野において、トレハ®等の売上は国内では横ばいとなったものの、欧州を中心とする海外では増加しました。スキンケア・トイレタリー分野において、AA2G®の海外での主要顧客に対する売上は減少したものの、国内での主要顧客に対する売上は増加しました。医療・医薬分野では、医薬品原料・中間体、医用材料および製剤事業の売上が減少しました。この結果、事業全体として売上は微増となりました。化粧品・健康食品の販売を行うビューティケア製品事業は、全般的に販売が低調であったことから、事業全体として売上は減少しました。この結果、売上高は853億7千万円と、前期に比べ4億6千万円(前期比0.6%増)の増収となりました。営業利益は42億1千万円と、前期に比べ8億8千万円(同26.5%増)の増益となりました。

## 財務状態

### 連結貸借対照表の状況

当期末の流動資産は、売掛金やたな卸資産の増加等により、3,561億円となりました。固定資産は、保有株式の時価上昇による投資有価証券の増加やのれんの計上等により、2,153億3千万円となりました。この結果、総資産は5,714億4千万円となりました。

負債は、社債の償還による減少があったものの、買掛金や借入金の増加等により、2,626億4千万円となりました。純資産は、親会社株主に帰属する当期純利益171億7千万円を計上したほか、その他有価証券評価差額金の増加等により、3,088億円となりました。以上の結果、自己資本比率は前期末の54.7%から1.6ポイント減少し、53.1%となりました。

### 連結キャッシュ・フローの状況

#### 【営業活動によるキャッシュ・フロー】

運転資本の増加による資金の減少119億6千万円、法人税等の支払48億6千万円があったものの、税金等調整前当期純利益240億4千万円、減価償却費による資金留保92億9千万円があったこと等により、営業活動による資金の増加額は、210億1千万円となりました。

#### 【投資活動によるキャッシュ・フロー】

有形および無形固定資産の取得による支出72億1千万円に加え、連結範囲の変動を伴う子会社株式の取得による支出59億9千万円があったこと等により、投資活動による資金の減少額は、144億4千万円となりました。

#### 【財務活動によるキャッシュ・フロー】

社債の償還による支出100億円、配当金の支払額42億8千万円があったものの、コマーシャル・ペーパーの純増加額50億円、長期借入れによる収入83億円があったこと等により、財務活動による資金の減少額は、31億6千万円となりました。

以上の結果、当期末の現金及び現金同等物は、前期末と比べ31億2千万円増加(前期末比7.9%増)し、428億5千万円となりました。

# 比較連結財務諸表

本財務諸表の詳細は、当社有価証券報告書および決算短信をご参照ください。

有価証券報告書：<https://www.nagase.co.jp/ir/library/securities/>

決算短信：<https://www.nagase.co.jp/ir/library/results-report/>

## 連結貸借対照表

	(単位：百万円)		
	2016年3月31日	2017年3月31日	2018年3月31日
<b>資産の部</b>			
<b>流動資産</b>	<b>312,334</b>	<b>321,215</b>	<b>356,109</b>
現金及び預金	43,283	39,830	43,303
受取手形及び売掛金	196,335	206,846	225,999
商品及び製品	57,404	58,162	67,681
仕掛品	1,726	1,309	1,883
原材料及び貯蔵品	3,789	3,648	4,106
繰延税金資産	2,842	2,375	2,783
その他	7,843	9,681	10,953
貸倒引当金	△890	△638	△602
<b>固定資産</b>	<b>199,747</b>	<b>209,559</b>	<b>215,335</b>
<b>有形固定資産</b>	<b>66,474</b>	<b>67,619</b>	<b>67,225</b>
建物及び構築物(純額)	25,816	24,032	25,454
機械装置及び運搬具(純額)	15,414	15,376	15,755
土地	18,910	21,939	21,154
その他(純額)	6,333	6,271	4,861
<b>無形固定資産</b>	<b>44,516</b>	<b>40,742</b>	<b>41,090</b>
のれん	24,582	23,034	25,478
技術資産	15,366	13,791	12,215
その他	4,567	3,916	3,396
<b>投資その他の資産</b>	<b>88,755</b>	<b>101,197</b>	<b>107,019</b>
<b>資産合計</b>	<b>512,081</b>	<b>530,775</b>	<b>571,445</b>
<b>負債・純資産の部</b>			
<b>流動負債</b>	<b>156,118</b>	<b>166,494</b>	<b>193,040</b>
支払手形及び買掛金	97,800	102,076	118,028
短期借入金	25,294	28,162	31,934
1年内返済予定の長期借入金	8,823	3,522	11,067
コマーシャル・ペーパー	-	-	5,000
1年内償還予定の社債	-	10,000	-
未払法人税等	4,305	1,849	1,738
繰延税金負債	13	37	44
賞与引当金	4,224	4,512	5,451
役員賞与引当金	194	171	274
その他	15,461	16,161	19,500
<b>固定負債</b>	<b>76,813</b>	<b>69,082</b>	<b>69,600</b>
社債	30,000	20,000	20,000
長期借入金	23,108	20,078	17,906
繰延税金負債	8,433	13,503	16,365
退職給付に係る負債	14,060	14,625	14,518
その他	1,211	874	809
<b>負債合計</b>	<b>232,932</b>	<b>235,576</b>	<b>262,640</b>
<b>株主資本</b>	<b>234,657</b>	<b>239,674</b>	<b>250,278</b>
資本金	9,699	9,699	9,699
資本剰余金	11,615	11,590	11,158
利益剰余金	213,572	219,721	232,534
自己株式	△230	△1,337	△3,114
<b>その他の包括利益累計額</b>	<b>39,305</b>	<b>50,542</b>	<b>53,358</b>
その他有価証券評価差額金	37,074	47,683	50,773
繰延ヘッジ損益	△9	4	△15
為替換算調整勘定	4,411	3,129	2,917
退職給付に係る調整累計額	△2,169	△274	△317
<b>非支配株主持分</b>	<b>5,185</b>	<b>4,981</b>	<b>5,168</b>
<b>純資産合計</b>	<b>279,149</b>	<b>295,198</b>	<b>308,804</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>512,081</b>	<b>530,775</b>	<b>571,445</b>

## 連結損益計算書

	(単位：百万円)		
	2016年3月期	2017年3月期	2018年3月期
売上高	742,194	722,384	783,933
売上原価	650,530	630,881	681,258
売上総利益	91,663	91,503	102,675
販売費及び一般管理費	73,639	76,472	78,557
営業利益	18,024	15,030	24,118
営業外収益	2,499	2,915	3,536
受取利息	202	195	185
受取配当金	1,360	1,616	1,605
受取賃貸料	293	296	268
持分法による投資利益	-	217	921
為替差益	-	-	169
その他	643	589	385
営業外費用	2,133	1,584	1,672
支払利息	1,048	1,032	1,294
持分法による投資損失	48	-	-
為替差損	401	79	-
その他	635	473	378
経常利益	18,390	16,361	25,982
特別利益	161	2,639	661
特別損失	3,313	2,901	2,594
税金等調整前当期純利益	15,239	16,100	24,049
法人税等	2,772	5,437	6,457
当期純利益	12,466	10,662	17,592
非支配株主に帰属する当期純利益	150	330	417
親会社株主に帰属する当期純利益	12,316	10,331	17,175

## 連結包括利益計算書

	(単位：百万円)		
	2016年3月期	2017年3月期	2018年3月期
当期純利益	12,466	10,662	17,592
その他の包括利益	△16,312	11,135	3,055
その他有価証券評価差額金	△7,844	10,602	3,083
繰延ヘッジ損益	△13	14	△19
為替換算調整勘定	△5,065	△1,223	△14
退職給付に係る調整額	△2,835	1,895	△43
持分法適用会社に対する持分相当額	△553	△152	50
包括利益	△3,845	21,798	20,648
(内訳)			
親会社株主に係る包括利益	△3,446	21,622	20,101
非支配株主に係る包括利益	△399	175	547

## 連結キャッシュ・フロー計算書

	(単位：百万円)		
	2016年3月期	2017年3月期	2018年3月期
営業活動によるキャッシュ・フロー	29,376	14,527	21,013
投資活動によるキャッシュ・フロー	△12,600	△6,518	△14,442
財務活動によるキャッシュ・フロー	△12,822	△10,592	△3,161
現金及び現金同等物に係る換算差額	△1,575	△596	△175
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	2,377	△3,180	3,234
現金及び現金同等物の期首残高	40,522	42,900	39,730
連結除外に伴う現金及び現金同等物の減少額	-	-	△111
非連結子会社との合併に伴う現金及び現金同等物の増加額	-	10	4
現金及び現金同等物の期末残高	42,900	39,730	42,857

# 主なグループ会社・事業所一覧

● 連結子会社 ○ 持分法適用会社

2018年4月1日現在

区分	会社名	事業内容	所在地	設立(年)
<b>日本</b>				
<b>製造・加工</b>				
●	ナガセケムテックス(株)	酵素、醗酵生産物、医薬中間体、殺菌剤、機能性ポリマー、エピクロルヒドリン誘導体、電子材料等の研究、製造・販売	大阪府	1970
●	(株)林原	食料品原料、医薬品原料、化粧品原料、健康食品原料、機能性色素の開発・製造・販売	岡山県	1932
●	ナガセ医薬品(株)	医療用薬品・動物用医薬品・健康食品・化粧品の製造・販売	兵庫県	1972
●	セツナン化成(株)	合成樹脂の着色加工、販売	大阪府	1966
●	東拓工業(株)	合成樹脂製品の製造、販売	大阪府	1952
●	寿化成工業(株)	合成樹脂製品の成形、加工および販売	栃木県	1972
●	ナガセテクノエンジニアリング(株)	低温真空機器・薬液供給管理システム・再生処理システム・検査装置およびこれらに付帯する設備の製造、販売および保守	東京都	1989
●	福井山田化学工業(株)	カラーフォーマーの製造	福井県	1985
●	長瀬フィルター(株)	金属製フィルターおよび関連部材の設計、製造、加工、品質検査および販売	大阪府	2006
●	(株)キャブテックス	電池電源制御の製造、開発および電池電源ならびに電源周辺機器の製造、開発	愛知県	2004
●	大泰化工(株)	特殊模様塗料、ポリエステル樹脂関連製品、およびFRP防水・防食関連製品の製造販売	大阪府	1949
○	ゼノマックスジャパン(株)	高耐熱性ポリイミドフィルムの製造・販売	福井県	2018
○	サンデルタ(株)	合成樹脂製品の用途開発ならびに加工製品の製造販売	東京都	2005
○	本州リーム(株)	ファイバードラムの製造販売および食品加工機械ならびに材料の輸入販売	神奈川県	1968
○	(株)東洋ビューティサプライ	化粧品・健康食品の受託製造	東京都	1964
○	エクス・グレード(株)	電子機器部品の開発・製造・販売	大阪府	2003
○	SN Tech(株)	現像液の製造・リサイクル事業	大阪府	2008
○	日精テクノロジー(株)	超精密プラスチックレンズおよび光学ユニットの設計開発・製造、精密メカ部品およびユニットの製造	兵庫県	1953
<b>販売</b>				
●	ナガセミカル(株)	工業薬品、製紙用化学品、合成樹脂および各種機械の販売	東京都	1995
●	ナガセプラスチック(株)	合成樹脂原料および製品の販売	大阪府	1975
●	(株)ナガセビューティケア	化粧品、健康食品等の販売	東京都	1991
●	西日本長瀬(株)	染料・助剤、工業薬品、合成樹脂等の販売	福岡県	1969
●	ナガセエレクトクス(株)	合成樹脂原料および製品の販売	東京都	1979
●	ナガセ研磨機材(株)	研磨材および研磨機械の販売	大阪府	1955
●	ナガセサンバイオ(株)	農業用薬剤、肥料・飼料添加物および食品添加物の販売	東京都	1987
●	ナガセツールマテックス(株)	自動車モデル、試作用材料および炭素繊維コンポジット材料の販売	東京都	1965
●	ナガセテクノサービス(株)	キitting/ロジスティクスサービス、カタログWeb通販、記録メディア、RFIDの販売	千葉県	1991
○	オー・ジー長瀬カラーケミカル(株)	染料、化学工業薬品などの仕入販売および情報提供サービス	大阪府	1957
<b>サービス</b>				
●	ナガセ物流(株)	倉庫業および運送業	兵庫県	1982
●	ナガセ情報開発(株)	ソフトウェアの開発および保守	東京都	1987
●	ナガセケムスペック(株)	化学品等の販売および技術サービス	東京都	1976
○	長瀬ランダウア(株)	放射線計測サービス	茨城県	1974
●	長瀬ビジネスエキスパート(株)	事務管理業務の代行、輸出入手続きの事務代行	東京都	1996
	ナガセ物流サポート(株)	ナガセ物流(株)の専属荷役会社	兵庫県	1954
	長興(株)	各種保険代理業	大阪府	1971

区分	会社名	事業内容	所在地	設立(年)
<b>グレーターチャイナ &amp; 韓国</b>				
<b>製造・加工</b>				
●	長瀬電子材料(無錫)有限公司	接着剤・電子用ハイテク化学品の製造販売、技術サービス	中国	2002
●	東拓工業(蘇州)有限公司	合成樹脂製品等の製造販売	中国	2005
●	長瀬電子科技(廈門)有限公司	液晶ガラスパネルユニットのケミカルエッチングによる薄型化加工	中国	2010
●	Nagase Engineering Service Korea Co., Ltd.	機械装置のメンテナンスサービスおよびエンジニアリング	韓国	1997
○	広州倉敷化工製品有限公司	自動車用ウレタンモールド製品の製造	中国	2001
○	東洋佳嘉(広州)汽車零配件有限公司	自動車重要部品の研究開発・生産・加工・販売・技術コンサルティング・アフターサービス	中国	2004
○	東洋佳嘉(寧波)海綿制品有限公司	ポリウレタンフォームの製造・販売	中国	1993
○	通威精密金属(佛山)有限公司	精密プレス部品、パネ、金型標準品の開発、生産および販売	中国	2005
○	萊依特化工(常州)有限公司	高性能合成樹脂および中間体の研究開発・生産ならびにアフターサービス、自社製品の販売	中国	2011
○	無錫澄泓微電子材料有限公司	半導体・FPD(フラットパネルディスプレイ)を含むエレクトロニクス分野における電子化学品の研究開発、製造および販売	中国	2013
	長瀬欧積纖維化学(上海)有限公司	繊維関連、染色加工薬剤の製造販売、輸出入	中国	2003
	綿陽澄泓微電子材料有限公司	エレクトロニクス分野における電子化学品の研究開発、製造および販売	中国	2017
<b>販売</b>				
●	長瀬(香港)有限公司	輸出入、国内販売、マーケティング	中国	1971
●	上海華長貿易有限公司	樹脂販売およびその関連製品販売	中国	1998
	蘇州分公司/寧波分公司		中国	
	成都分公司/重慶分公司		中国	
	南京分公司		中国	
●	上海長瀬貿易有限公司	輸出入、国内販売、マーケティング	中国	1997
●	長華塑膠股份有限公司	樹脂販売およびその関連製品販売	台湾	1990
	台中事務所		台湾	
	岡山事務所		台湾	
●	広州長瀬貿易有限公司	輸出入、国内販売、マーケティング	中国	2002
	武漢分公司/重慶分公司		中国	
	鄭州分公司		中国	
●	台湾長瀬股份有限公司	輸出入、国内販売、マーケティング	台湾	1988
●	天津長瀬国際貿易有限公司	輸出入、国内販売、マーケティング	中国	2003
	大連分公司/青島分公司		中国	
	長春分公司		中国	
●	長華国際貿易(深圳)有限公司	華南地区における合成樹脂製品の販売	中国	2004
	東莞分公司		中国	
	広州分公司		中国	
	廈門分公司		中国	
●	深圳長瀬貿易有限公司	輸出入、国内販売、マーケティング	中国	2006
	觀瀾分公司		中国	
●	大太(上海)化工貿易有限公司	塗料販売	中国	2013
●	Nagase Korea Corporation	一般輸出入貿易業、小売業および卸売業、貿易代理業	韓国	2001
	長瀬欧積有色化学(上海)有限公司	繊維関連、染色加工薬剤、関連機器の販売、輸出入および技術コンサルティング、染色加工技術開発等	中国	2002
	青島利普樂思商貿易有限公司	食品包材の企画開発、生産管理、品質管理、販売	中国	2015

## 主なグループ会社・事業所一覧

● 連結子会社 ○ 持分法適用会社

区分	会社名	事業内容	所在地	設立 (年)
<b>サービス</b>				
	長瀬微電子科技(上海)有限公司	薬液供給管理装置等の工事・保守	中国	2006
	長瀬和多田信息咨询服務(深圳)有限公司	印刷品質管理コンサルタント	中国	2008
	長瀬企業管理(上海)有限公司	Greater ChinaにおけるNAGASEグループの運営管理と事業戦略の推進	中国	2011
<b>ASEAN &amp; 中東</b>				
<b>製造・加工</b>				
●	Pac Tech Asia Sdn. Bhd.	半導体製造用装置の製造・販売および半導体ウェハーバンピングの受託加工	マレーシア	2006
○	Sanko Gosei Technology (Thailand) Ltd. バンコク設計事務所	自動車部品製造	タイ タイ	1994
○	Automotive Mold Technology Co., Ltd.	自動車向け成型金型の製造	タイ	2000
○	Nafuko Co., Ltd.	包装資材・関連機器類の製造・輸出入および販売	タイ	1996
○	Dainichi Color Vietnam Co., Ltd.	プラスチック用カラーマスターバッチ・ブレンド等の製造および販売	ベトナム	2006
○	PT. Toyo Quality One Indonesia MINDA KYORAKU LTD.	フレームラミネーション製品製造 ブロー成形品等の自動車部品製造	インドネシア インド	2008 2011
<b>販売</b>				
●	Nagase (Thailand) Co., Ltd. Eastern Office Yangon Branch	輸出入、国内販売、マーケティング	タイ タイ ミャンマー	1989
●	Nagase Singapore (Pte) Ltd. Australia Branch Bangladesh Liaison Office Middle East Representative Office Turkey (Izmir) Liaison Office	輸出入、国内販売、マーケティング	シンガポール オーストラリア バングラデシュ アラブ首長国連邦 トルコ	1975
●	Nagase (Malaysia) Sdn. Bhd. Johor Bahru Office Penang Office	輸出入、国内販売、マーケティング	マレーシア マレーシア マレーシア	1981
●	PT. Nagase Impor-Ekspor Indonesia Surabaya Branch	輸出入、国内販売、マーケティング	インドネシア インドネシア	1998
●	Nagase Philippines Corporation	輸出入、国内販売、マーケティング	フィリピン	1997
●	Nagase Philippines International Services Corporation	国内販売、輸出入	フィリピン	2005
●	Nagase Vietnam Co., Ltd. Ho Chi Minh City Branch	輸出入、国内販売、マーケティング	ベトナム ベトナム	2008
●	Nagase India Private Ltd. North India Branch (Gurgaon) South India Branch (Chennai)	輸出入、国内販売、マーケティング	インド インド インド	2006
	Landauer Radiopharmaceuticals Pty. Ltd.	放射線関連医薬品の販売	オーストラリア	2015
<b>サービス</b>				
	PT. Indonesia Mold Technology	自動車大型樹脂部品用金型の設計変更・メンテナンス等	インドネシア	2015
	Nagase (Siam) Co., Ltd.	グループ会社の役務受託事業	タイ	2000
	Landauer Australasia Pty. Ltd.	放射線計測サービス	オーストラリア	2006

区分	会社名	事業内容	所在地	設立(年)
<b>米 州</b>				
<b>製造・加工</b>				
●	Engineered Materials Systems, Inc.	工業製品に使用する接着剤、導電性のある接着剤カプセルの材料等の研究開発・製造・販売	米国	1993
●	Pac Tech USA-Packaging Technologies Inc.	半導体ウェハーバンピング加工および半導体製造装置の製造・販売	米国	2001
●	Sofix LLC	カラーフォーマー 製造販売	米国	1990
○	KN Plotech America Corporation	ブロー成型樹脂部品・製品の製造および販売	米国	2010
○	TQ-1 de MEXICO S.A. de C.V.	自動車用シートパッドウレタン、自動車用フレームラミネートの製造販売および自動車用ウレタンフォームの販売	メキシコ	2012
○	Cytech Products Inc.	ウレタン用離型剤、感熱紙用塗工剤、その他乳化分散体の製造販売	米国	1988
<b>販売</b>				
●	Nagase America Corporation	輸出入、国内販売、マーケティング	米国	1971
	Michigan Branch		米国	
	California Branch		米国	
●	Fitz Chem LLC	塗料、インキ、接着剤、樹脂コンパウンド、パーソナルケア製品向け原材料の販売等	米国	1985
●	Nagase Enterprise Mexico S.A. de C.V.	輸出入販売、仲介貿易、市場開発、情報収集	メキシコ	2010
	Leon Branch Office		メキシコ	
	Nagase do Brasil Comércio de Produtos Químicos Ltda.	輸出入販売、仲介貿易、市場開発、情報収集	ブラジル	2012
<b>欧 州</b>				
<b>製造・加工</b>				
●	Pac Tech-Packaging Technologies GmbH	半導体ウェハーバンピング加工および半導体製造装置の製造・販売	ドイツ	1995
●	Inkron Oy	半導体および電子デバイス向け機能性材料の開発・製造	フィンランド	2013
<b>販売</b>				
●	Nagase (Europa) GmbH	輸出入、国内販売、マーケティング	ドイツ	1980
	Hungary Representative Office		ハンガリー	
	London Branch		イギリス	
	Lyon Branch		フランス	

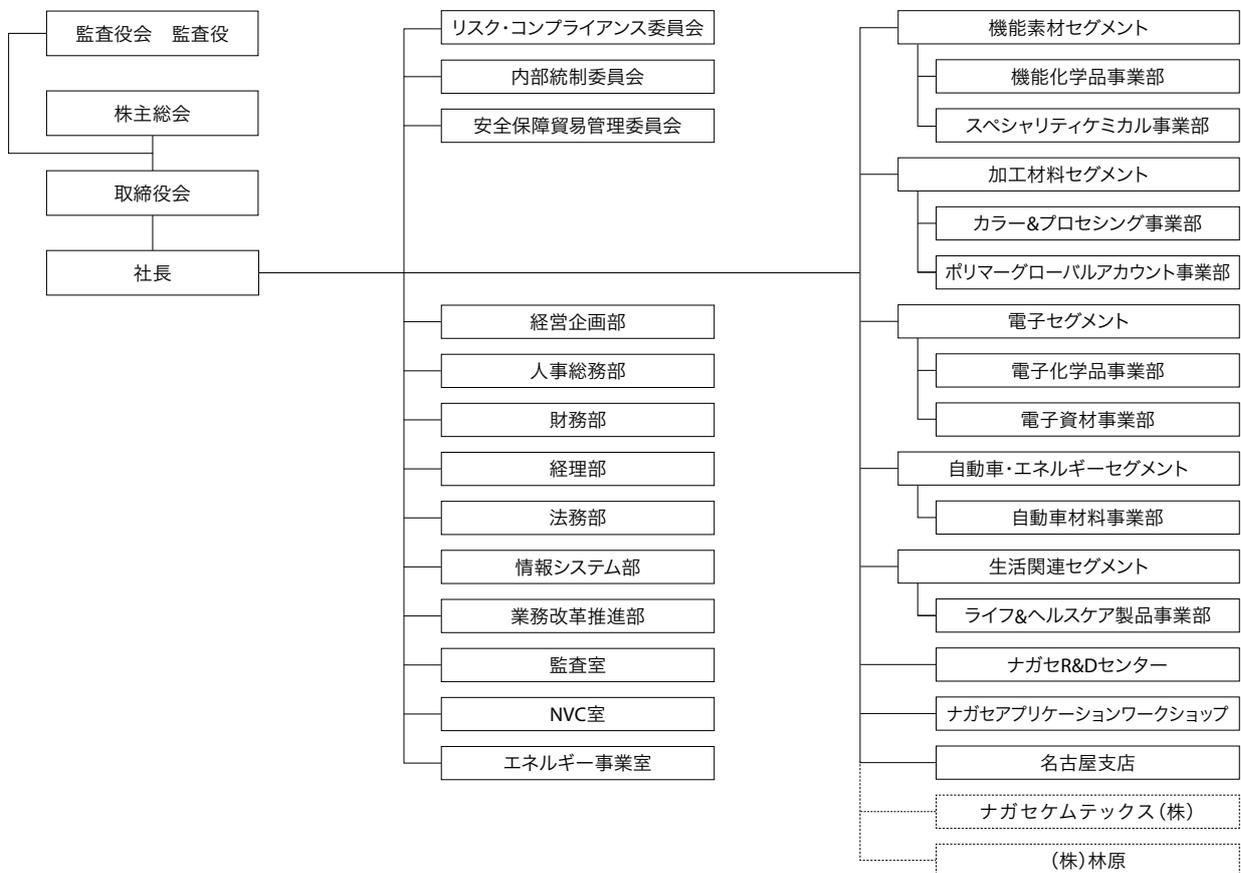
# 会社情報 (2018年3月31日現在)

## 概要

商号	長瀬産業株式会社 NAGASE & CO., LTD.
創業	1832年(天保3年) 6月18日
設立	1917年(大正6年) 12月9日
資本金	9,699百万円
従業員数	861名(連結6,312名)
主な事業内容	化学品、合成樹脂、電子材料、化粧品、健康食品等の輸出・輸入および国内販売
主要取引金融機関	(株)三井住友銀行 (株)三菱東京UFJ銀行* (株)みずほ銀行 三井住友信託銀行(株)
主な事業所	大阪本社 : 〒550-8668 大阪市西区新町1-1-17 Tel: 06-6535-2114 東京本社 : 〒103-8355 東京都中央区日本橋小舟町5-1 Tel: 03-3665-3021 名古屋支店 : 〒460-8560 名古屋市中区丸の内3-14-18 Tel: 052-963-5615 ナガセR&Dセンター : 〒651-2241 神戸市西区室谷2-2-3 神戸ハイテクパーク内 Tel: 078-992-3162 ナガセアプリケーションワークショップ : 〒661-0011 尼崎市東塚口町2-4-45 Tel: 06-4961-6730

\* 2018年4月1日から(株)三菱UFJ銀行

## 組織図 (2018年4月1日現在)



# 株式情報 (2018年3月31日現在)

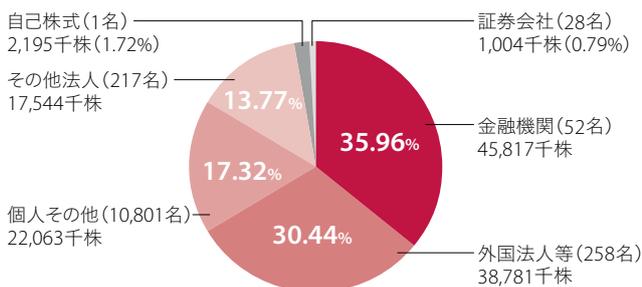
株式の上場 ..... 東京証券取引所市場第一部

証券コード ..... 8012

株式の状況 ..... 発行可能株式総数 346,980,000株  
発行済株式の総数 127,408,285株

株主数 ..... 11,357名

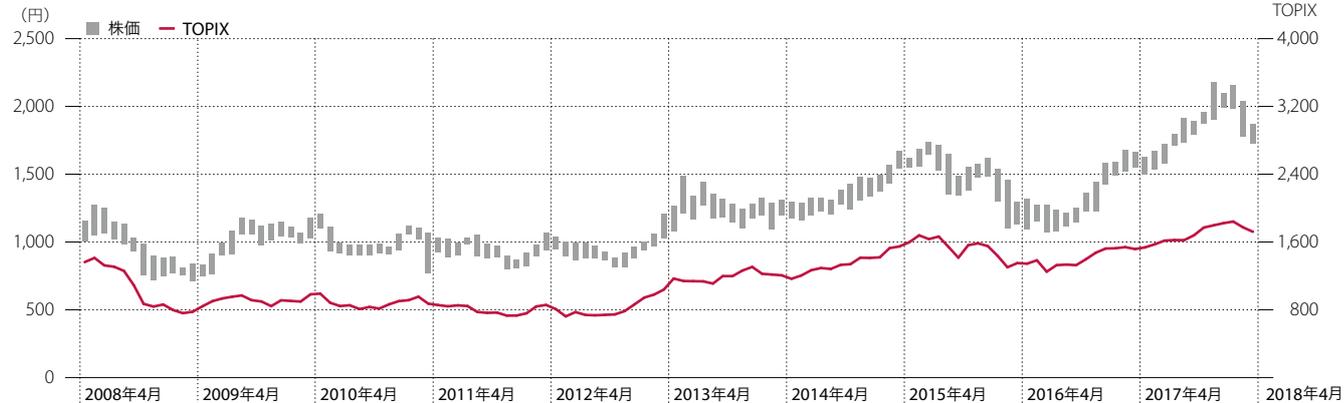
## 所有者別株式分布状況



## 大株主

株主名	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合 (%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	6,936	5.44
三井住友信託銀行株式会社	5,776	4.53
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) RE SILCHESTER INTERNATIONAL INVESTORS INTERNATIONAL VALUE EQUITY TRUST	5,772	4.53
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	4,932	3.87
株式会社三井住友銀行	4,377	3.44
日本生命保険相互会社	3,589	2.82
長瀬 令子	3,549	2.79
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) RE U.S. TAX EXEMPTED PENSION FUNDS	3,264	2.56
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口9)	2,970	2.33
株式会社長瀬舜造	2,688	2.11

## 株価推移



## 出来高

